

全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

分担研究者 尾崎 茂 国立精神・神経センター精神保健研究所
研究協力者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所
大槻直美 同上(研究助手)

研究要旨 全国の精神科病床を有する医療施設 1,653 施設を対象に、薬物関連精神疾患の実態調査を郵送法にて施行し、937 施設(56.7%)から 535 症例の報告を得た。主たる使用薬物別では、『覚せい剤症例』が 262 例(49.0%)と最も多く、『有機溶剤症例』81 例(15.1%)と合わせると全体の 2/3 近くを占めた。『覚せい剤症例』の病態としては、精神病性障害が中心で、従来の調査と同様に長期にわたる遷延性の状態像がうかがわれた。有機溶剤乱用は下火になりつつあるが、「使用歴を有する薬物」としては 48%、「初回使用薬物」としても 44%と高い水準を維持しており、薬物乱用への入門薬としての役割は依然として軽視できないと考えられた。『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』、『鎮痛薬症例』では平均年齢、使用開始年齢など高く、複数の薬物を併用する傾向がみられ、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』の 80%以上が臨床用量依存に該当すると報告された。大麻は乱用拡大が懸念されており、『大麻症例』は全体の 2.4%と前回調査よりは若干減少したものの、「大麻使用歴を有する症例」は全体の 27.7%と高水準を保っており、症状の遷延例も少なからず存在することがうかがわれた。『リタリン症例』は 15 例(2.8%)報告され、「使用歴を有する症例」としては 30 例と増加傾向がみられた。約半数に気分障害の併存がみられ、自傷・自殺企図、成育史上の問題を有する割合も比較的高く、これらが相互に関連している可能性が示唆された。パーソナリティ障害としては、『覚せい剤症例』で反社会性パーソナリティ障害、『多剤症例(医薬品)』『抗不安薬症例』で境界性パーソナリティ障害の併存率が比較的高かったが、薬物使用後に障害が顕在化した例が少ないことから、薬物関連精神障害患者におけるパーソナリティの評価は、薬物使用の影響を考慮に入れて慎重に行われるべきと考えられた。その他、新規の麻薬指定物質、改正薬事法における新規指定薬物、知事指定薬物など多様な物質が報告され、臨床現場においても、これらの薬理作用や関連法規等についての知識や情報の迅速かつ適切な共有が必要であると思われた。

A. 研究目的

薬物乱用問題は、国内的には依然として第三次覚せい剤乱用期にあり、大麻、MDMA については検挙者数、押収量の増加が続き、さらに違法ドラッグ(いわゆる脱法ドラッグ)の乱用も問題となっている。世界的にも、覚せい剤を中心とする精神刺激剤の乱用は、“アンフェタミン型中枢刺激剤(Amphetamine Type Stimulants, ATS)問題”として引き続き注目されている。

全国の有床精神科医療施設を対象とした薬物関

連精神疾患の調査研究は、日本における薬物乱用・依存者の実態を把握するための多面的疫学研究の一分野として、1987 年以来ほぼ現行の方法論を用いて隔年で実施されてきた。2006 年度も引き続き精神科医療の現場における薬物関連精神疾患の実態を把握するため、実態調査を施行した。

B. 研究方法

1) 対象施設

調査対象施設は、全国の精神科病床を有する医

療施設で、内訳は国立病院・療養所（独立行政法人含む）47 施設、自治体立病院 152 施設（都道府県立病院 77 施設、市町村立病院 75 施設）、大学医学部附属病院 84 施設、そして民間精神病院 1,370 施設の計 1,653 施設である。

2) 方法

(1) 調査期間および対象症例

調査期間は2006年9月1日から10月31日までの2ヶ月間とした。対象症例は、調査期間内に対象施設において、入院あるいは外来で診療を受けた“アルコール以外の精神作用物質使用による薬物関連精神障害患者”のすべてである。

(2) 調査用紙の発送および回収

調査対象施設に対して、あらかじめ2006年7月下旬に調査の趣旨と方法を葉書により通知し、本調査への協力を依頼した。8月下旬に依頼文書、調査に関する案内文書（各医療機関掲示用）、ならびに調査用紙一式を各調査対象施設宛に郵送し、上記条件（1）を満たす薬物関連精神疾患患者について担当医師による調査用紙への記載を求めた。調査用紙回収の期限は2006年11月30日とし、11月下旬にその時点で未回答の調査対象施設宛に再度本調査への協力要請の葉書を送付するとともに、必要に応じて電話・FAX等により回答内容・状況の確認等の作業を行った。実際には、回収期間終了後も回収作業を継続し、2007年3月上旬までに返送された症例について集計に加えた。

(3) 倫理面への配慮および同意取得について

調査にあたり、あらかじめ各対象医療機関に、調査に関する案内文書を送付し、院内の適切な場所に掲示し、患者に周知してもらうよう依頼した。その上で、面接にあたり原則的に口頭での同意を取得した上で調査を実施することとした。面接可能な状態で明らかに調査への協力を拒否する場合は、調査困難と判断した。また、すでに退院しているなどの理由により面接困難な場合は、診療録からの転記とし、この場合、同意取得は不要とした。

なお本調査研究は、国立精神・神経センター武

蔵地区倫理委員会の承認を得て実施された。

(4) 調査項目について

継続的な調査項目について

調査用紙前半の質問項目は、まず経時的な傾向の把握のために、以下のような項目による構成とした。

- ・ 人口動態学的データ
- ・ 交友、婚姻関係
- ・ 矯正・補導歴
- ・ 飲酒・喫煙開始年齢
- ・ 薬物使用歴
- ・ 薬物使用開始の動機
- ・ 契機となった人物
- ・ 診断（ICD-10分類）
- ・ 精神科疾患の家族歴

2006年度に設定した関心項目について
今年度は、下記のような関心項目を設定した。

(a) BZ系睡眠薬・抗不安薬の臨床用量依存

現在処方されている睡眠薬、抗不安薬のほとんどはベンゾジアゼピン（BZ）系薬物である。本調査においても、これまで睡眠薬・抗不安薬を主たる使用薬物とする症例は、覚せい剤、有機溶剤に次いで高い割合を占め、主要な乱用・依存薬物のひとつであるが、治療的使用と乱用・依存の境界が明確でなく、さらに依存症候群の中にも相当数のいわゆる臨床用量依存（常用量依存）が含まれていることが予想されたが、これについても実態がはっきりしなかった。また、他の薬物を主たる使用薬物とする症例におけるBZ依存の実態も不明であった。これらのことから、本年度の関心項目として加えた。

臨床用量依存の診断基準としては、決定的なものがないため、井澤らによる下記のような診断ガイドライン¹⁾を用いた。

【臨床用量依存の診断ガイドライン（案）】

- ・ 不安や不眠などの治療目的で開始した臨床用量を6ヵ月以上継続服用している。
- ・ 本来の症状は解消されて寛解状態にある。

- ・ その間、使用量の著しい増加を認めない。
- ・ 中断によって反跳現象 / 退薬症候が出現する。
- ・ 計画的な漸減・中止により退薬症候の出現が避けられた場合に、ベンゾジアゼピンの服用なしに経過する。

以上の5項目について「はい、いいえ、不明」の回答を求めた。

(b) 成育史上の問題

薬物関連精神疾患患者では、さまざまな成育史上の問題が指摘されており、今回は下記の項目について調査に加えた。

- ・ 15歳以前の親との離別体験
- ・ 不登校
- ・ いじめられ体験
- ・ 家庭内暴力
- ・ 被虐待体験(身体的, 性的, 心理的等)

(c) 精神科的併存症

薬物関連精神障害では、気分障害, パーソナリティ障害をはじめとして、精神科的併存症がみられることが少なくなく、診断, 治療を複雑にする。また、それらの症状や行動パターンが薬物誘発性のものか、本来の疾患ないし人格特性かを鑑別することは臨床上きわめて重要である。今回は下記の併存症についての既往および薬物使用との時間的関連についての質問項目を加えた。

- ・ 気分障害(併存の有無, 類型, 出現時期)
- ・ 自傷行為・自殺企図の既往歴
- ・ パーソナリティ障害(反社会性パーソナリティ障害, 境界性パーソナリティ障害)

(4) “主たる使用薬物” の定義

該当症例の“主たる使用薬物”は、これまでと同様に決定した。すなわち、原則的に調査用紙の質問16)において、“調査時点における「主たる薬物」(=現在の精神科的症状に関して、臨床的に最も関連が深いと思われる薬物)”として、記載した医師によって選択された薬物とした。複数の薬

物が選択されている症例については、薬物により「多剤(規制薬物)」, 「多剤(医薬品)」のいずれかとした。複数の薬物が規制薬物と医薬品の両方を含む場合には、薬物使用歴から判断した。リタリン(メチルフェニデート)を主たる使用薬物とする症例数も一定数みられるため、今年度は独立したカテゴリーとした。主たる使用薬物のカテゴリーは、以下の通りである。

【主たる使用薬物のカテゴリー】

- () 覚せい剤(『覚せい剤症例』, 以下同様)
- () 有機溶剤(『有機溶剤症例』)
- () 睡眠薬(『睡眠薬症例』)
- () 抗不安薬(『抗不安薬症例』)
- () 鎮痛薬(『鎮痛薬症例』)
- () 鎮咳薬(『鎮咳薬症例』)
- () 大麻(『大麻症例』)
- () リタリン(『リタリン症例』)
- () その他(『その他症例』)
- () 多剤(医薬品)(『多剤症例(医薬品)』)
- (xi) 多剤(規制薬物)(『多剤症例(規制薬物)』)

C. 結果

1) 対象施設の種別による回答状況(表1)

対象施設1,653施設のうち, 937施設(56.7%)より回答を得た。このうち90施設(5.4%)より、有効症例として535症例が報告された。「該当症例なし」の回答は847施設(51.20%)であった。施設別の回答率は、医療機関のすべての種別で50%を超え、「国立病院・療養所」で最も高く70.2%であった。一施設当たりの症例数は、「国立病院・療養所」で14.7例と最も多く、「都道府県立病院」が7.8例、「民間病院」が5.2例とこれに次いでいた。

2) 主たる使用薬物別にみた症例数(表2)

535症例の内訳は、『覚せい剤症例』が262例で報告症例全体の49.0%と最も高い割合を占めた。『有機溶剤症例』が81例(15.1%)とこれに次ぎ、両薬物合わせて症例全体の約2/3を占めていた。このほかはすべて10%未満で、『睡眠薬症例』8.8%,

『多剤症例（医薬品）』4.9%、『鎮咳薬症例』4.3%の順で多かった。

『その他症例』18例（3.4%）における主たる使用薬物は下記の通りであった。

- ・ヘロイン：7例
- ・MDMA：3例
- ・新規規制麻薬、違法ドラッグ等：3例（メチロン、2-CI、4FMP、GBLなど）
- ・市販総合感冒薬（パブロン）等：5例

全体としてみると、規制薬物を主たる使用薬物とする症例（以下、『規制薬物症例』）は391例（73.1%）、医薬品を主たる使用薬物とする症例（以下、『医薬品症例』）は144例（26.9%）と前者が多かった。

3）性別・年齢の分布（表3-1，表3-2）

性比では、『多剤（医薬品）』症例を除くすべての薬物症例群で男性の比率が高かった。

調査時の平均年齢は、『覚せい剤症例』37.5歳、『有機溶剤症例』33.1歳、『睡眠薬症例』42.5歳など、ほぼ30～40歳代を中心に分布していた。『大麻症例』は27.9歳と最も低く、『鎮痛薬症例』が47.3歳と最も高かった。

男女別にみた平均年齢では、『睡眠薬症例』、『鎮痛薬症例』、『鎮咳薬症例』、『リタリン症例』、『その他症例』を除き、女性症例の方が男性より平均年齢でおよそ4～10歳程度低かった。『鎮痛薬症例』と『リタリン症例』では、女性の方が高い平均年齢を示した。

また、65歳以上という高齢の症例も、『睡眠薬症例』で5例、『覚せい剤症例』で4例、『鎮痛薬症例』で2例、『抗不安薬症例』で1例報告された。

4）最終学歴（表4）

全体としては、高校中退までの学歴が52.6%と半数強を占め、中学卒業以下が28.8%であった。主たる使用薬物別にみると、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』および『多剤症例（規制薬物）』においては、中学校卒業以下が概ね35～40%と比較的高い割合であった。一方、『抗不安薬症例』、『リタ

リン症例』、『大麻症例』では短大・大学が1/3以上と高学歴の傾向がみられた。また、薬物全体では13例（2.4%）が在学中であり、このうち6例が覚せい剤症例であった。前回調査より増加傾向がみられた。

5）職業（表5-1，5-2）

薬物乱用開始前には、『有機溶剤症例』で“中学生”が27.2%と最も高く、“土木建築業”が14.8%とこれに次いでいた。『覚せい剤症例』では、“無職”が16.4%、“中学生”、“土木建築業”がこれに次いで高い割合を示した。『リタリン症例』では、会社員・公務員、高校・大学生の割合が高かった。

薬物乱用開始後（現在）“無職”の割合は、一般に『規制薬物症例』で高かった。

6）暴力団との関係（表6）

全体の43.4%は“これまで関係なし”であったが、17～20%に“薬物乱用前”あるいは“薬物乱用後”に関係がみられた。全般的に『規制薬物症例』群で関係を有する割合が高い傾向があり、『覚せい剤症例』では男女とも乱用開始前後に1/4が暴力団との関係を有していた。次いで『多剤（規制薬物）症例』、『有機溶剤症例』で高く、後者では女性の方が高い傾向がみられた。男女とも乱用開始後に、関係を有する割合が2～3倍に上昇していた。

7）非行グループとの関係（表7）

薬物乱用前に非行グループとの関係を有していた割合は症例全体の35.3%で、開始後には14.8%と半減した。薬物別では、『有機溶剤症例』において男女とも最も高い割合を示した。全体の1/3には、非行グループとの関係はみられなかった。

8）薬物乱用者との関係（表8）

薬物乱用の開始前後で、全体の30～40%の症例が他の薬物乱用者との関係を有しており、とくに『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『鎮咳薬症例』などで乱用開始前に40～70%、開始後に20～40%前後と高かった。

9）矯正施設への入所歴（表9）

矯正施設への入所歴を有する割合は、全体の約40%にみられ、男性症例では44.9%、女性症例全体の29.0%と男性の割合が高かった。主たる薬物別では、『覚せい剤症例』、『多剤（規制薬物）症例』、『有機溶剤症例』で高い割合を示した。

10) 逮捕・補導歴の有無（表10）

症例全体の27.1%はこれまでに逮捕・補導歴を有していなかったが、薬物乱用開始前には14.6%、開始後では49.9%とほぼ半数が逮捕・補導歴を有していた。『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『多剤症例（規制薬物）』で高かった（表10-1）。

補導・逮捕歴の内容については、薬物乱用開始前には、症例全体で“窃盗”が30.8%、“傷害・暴行”が29.5%にみられた。“薬物関連（所持・使用等）”の割合は、開始前には20.5%だったが、開始後には65.5%と増加していた。とくに『覚せい剤症例』では使用開始後には75.9%と、開始前の約5倍と著しく増加していた（表10-2）。

11) 配偶関係（表11）

各症例群の年齢分布の違いを考慮に入れなければならないが、全体的には半数近くが“未婚”で、“離婚”も20.7%と高い割合であった。これらはともに男性で高い傾向がみられた。既婚者の割合は『医薬品症例』で20~30%前後と比較的高かった。

12) 主たる使用薬物の初回使用年齢（表12-1~12-5）

各薬物症例群における主たる使用薬物の初回薬物使用年齢の分布をみると、『有機溶剤症例』で10~14歳、15~19歳でそれぞれ40%前後を占め、低年齢での使用開始が示され、平均年齢も16.8歳と最も低年齢であった。『多剤症例（規制薬物）』における有機溶剤使用開始年齢は15.7歳とこれより低い傾向がみられた。次いで、『大麻症例』20.7歳、『覚せい剤症例』21.2歳、『鎮咳薬症例』23.3歳と低かった。

医薬品症例では、薬物使用開始年齢はより高く、概ね30歳前後から使用を開始していた。『多剤症例（医薬品）』における睡眠薬、抗不安薬の初回使

用年齢はこれらより低い傾向がみられた。

13) 主たる使用薬物の使用期間（表13）

薬物の使用期間の算出は従来と同様で、最近1年間に薬物使用歴を有する場合は「調査時年齢-初回使用年齢」、最近1年以内に薬物使用歴がない場合は「最終使用年齢-初回使用年齢」とし、各薬物症例群において“主たる薬物”について算出した。したがってここでの「使用期間」とは、あくまで薬物使用の“始め”と“終わり（あるいは現在）”のみから算出されたものであり、使用期間中の薬物使用様態の変化（使用中断後の再開、使用量の増減等）などは反映していない。

全体的な平均使用期間は、『大麻症例』の5.2年から『鎮咳薬症例』の14.1年と長期に及んでいた。概ね、「5~10年未満」あるいは「10~15年未満」に比較的多く分布していた。5年以上の使用期間は全体の56.5%、10年以上は38.6%にみられ、これまでの調査と同様に薬物関連問題の長期化がうかがわれた。また、使用期間が1年未満の初期乱用者は2.2%であった。

14) 併用薬物と初回使用年齢（表14-1, 14-2）

主たる使用薬物別に、併用薬物（これまでに使用歴のある薬物）について、それぞれ使用頻度と平均使用開始年齢を示した。

『覚せい剤症例』では、覚せい剤の単独使用症例は全体の30.9%で、最も頻度の高い併用薬物は有機溶剤（54.6%）、次に大麻（35.1%）であった。有機溶剤の使用開始年齢は15.5歳で、『有機溶剤症例』における年齢（16.8歳）よりも低かった。

『有機溶剤症例』においては、単独使用症例は53.1%と半数強を占め、併用率の高い薬物は覚せい剤、大麻で、それぞれ使用歴を有する割合は37.0%、17.3%であった。覚せい剤使用開始年齢は21.8歳で、『覚せい剤症例』におけるそれ（21.2歳）とほぼ同様であった。

『大麻症例』では、単独使用症例の割合は23.1%と低く、他の規制薬物との多剤併用の傾向がみられた。使用歴を有する薬物としては、覚せい剤（46.2%）の割合が高かった。

『多剤症例(規制薬物)』では、覚せい剤、有機溶剤の併用率がそれぞれ77.3%、63.6%と高く、大麻の併用も50%以上にみられた。

医薬品使用の症例では、『睡眠薬症例』では約半数が、『抗不安薬症例』では1/3程度が単独使用であった。『リタリン症例』では、単独使用の割合が1/4弱であり、より多剤併用の傾向がみられた。

『多剤症例(医薬品)』の90%近くが睡眠薬、抗不安薬を併用していた。

15) 過去1年間における薬物使用歴(表15-1, 15-2)

『覚せい剤症例』においては過去1年間に覚せい剤使用歴を有する症例の割合は28.6%で1/3に満たず、前回の約55%に比較して低下していた。『有機溶剤症例』では46.9%に有機溶剤使用歴がみられた。60%弱に有機溶剤の使用歴がみられた前回に比してこれも低下傾向にあった。『大麻症例』では、半数強に1年以内の大麻使用歴がみられた。『その他症例』では1/3にヘロイン使用歴がみられた。

『医薬品症例』では、過去1年間においてそれぞれの主たる使用薬物の使用歴を有する割合が概して高い傾向がみられ、睡眠薬では76.6%、抗不安薬では90%を超えていた。鎮痛薬では全例で1年以内の鎮痛薬使用歴があり、鎮咳薬でも50%を超えて高い割合を示した。『多剤症例(医薬品)』では、60%近くが1年以内に睡眠薬および抗不安薬の使用歴がみられた。

16) 喫煙の状況(表16)

症例全体としては、3/4が喫煙経験者で、喫煙開始年齢は平均15.6歳であった。『有機溶剤症例』では14.8歳と最も低年齢で喫煙を開始していた。

非喫煙者の割合は、『リタリン症例』で20%と比較的高かったが、全体としては4.7%と低かった。全般的に『規制薬物症例』において喫煙頻度が高く、より低年齢で喫煙を開始していた。

17) 飲酒状況(表17)

症例全体として約60%に飲酒歴があり、飲酒開始年齢は平均16.6歳であった。『多剤症例(医薬

品)』で15.0歳と最も低年齢で飲酒を開始しており、『抗不安薬症例』が15.9歳とこれに次いでいた。飲酒歴がない割合は、医薬品症例で高い傾向がみられ、『リタリン症例』で1/3にみられた。規制薬物症例で飲酒歴を有する割合が高かったが、飲酒開始年齢では差がみられなかった。

18) 薬物乱用開始から依存に至る期間

薬物乱用開始から依存に至る期間(月換算)を薬物別に示す(表18)。これは依存の重症度の指標として知られる(Length Of Time between Abuse and Dependence, LOTAD)²⁾。LOTADのデータにはばらつきが大きく、個体差や、使用様態(頻度、使用量など)等を詳細に検討しなければ議論するのは難しい面がある。薬物別にみると、覚せい剤、有機溶剤ではそれぞれ概ね30ヵ月、20ヵ月程度で依存に至る傾向がみられる。例数が少ないが、コカイン、ヘロイン、またリタリンなどではより短い傾向がみられた。

19) 初回使用薬物(表19)

症例全体における初回使用薬物は、有機溶剤が44.3%と最も高く、次いで覚せい剤が19.1%、睡眠薬が10.1%、大麻6.5%と高かった。最近の調査では覚せい剤の割合が減少傾向にある。

20) 薬物初回使用の動機(表20-1, 20-2)

規制薬物症例群では、“誘われて”、“刺激を求めて”、“好奇心・興味から”を初回使用動機とする割合が高く、医薬品症例では『鎮咳薬症例』でも比較的高い割合を示した。『覚せい剤症例』の女性では“性的効果を求めて”の割合が9.3%と他の薬物に比較して高い傾向がみられた。『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』、『鎮痛薬症例』等の処方薬・医薬品使用の症例群では、多くが“不眠の軽減”、“不安の軽減”、“疼痛の軽減”など、本来の症状の軽快を目的としたものであったが、これに対して『鎮咳薬症例』において“咳嗽の軽減”を目的として薬物使用を開始した割合は1/3程度に過ぎず、乱用目的での使用開始がうかがわれた。

その他の動機としては、『覚せい剤症例』では2例が、“覚せい剤と知らずに使用した”、“知らない

うちに飲み物に混入された”と報告した。また、『リタリン症例』では、“ADHDの治療”(1例)、“ナルコレプシーの治療”(2例)といった治療目的による初回使用が報告されたが、後者のうち1例では、“誤診”だったという。

2 1) 薬物初回使用の契機となった人物(表 2 1 - 1, 2 1 - 2)

薬物使用のきっかけとなった人物として“同性の友人”としたものが、『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』の男性、『多剤(規制薬物)』の男女で50%前後と高い割合を示した。『多剤症例(規制薬物)』、『有機溶剤症例』、『覚せい剤症例』の女性で、“異性の友人”が30~50%前後と他の薬物症例群に比較して高い割合を示した。これに対して、『鎮痛薬症例』、『鎮咳薬症例』、『多剤症例(医薬品)』などでは、“自発的使用”の割合が比較的高かった。『リタリン症例』では“医師”の割合が最も高かった。なお、『覚せい剤症例』では“密売人”との接触が初回使用のきっかけとなっている症例は男性の約2%にみられた。また、“インターネット”が使用契機となったとの報告が2例でみられた。

2 2) 最近1年間における薬物の主な入手経路(表 2 2 - 1, 2 2 - 2)

最近1年以内に使用歴のない割合は、『覚せい剤症例』などで高かった。入手経路としては、『覚せい剤症例』、『大麻症例』では10~20%前後が“密売人”と高い割合を示した。『覚せい剤症例』の女性では、“恋人・愛人”が9.3%と他の薬物症例に比較して高い傾向がみられた。一方、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』、『リタリン症例』および『多剤症例(医薬品)』では“医師”または“薬局”からの入手の割合が高かった。とくに『鎮痛薬症例』、『鎮咳薬症例』ではOTCを使用している割合が高かった。なお、“インターネット”を利用した入手が3例でみられた。

2 3) 主たる使用薬物別にみた主診断(表 2 3)

症例全体としてみると、“【F1x.2】依存症候群”が37.8%、“【F1x.5】精神病性障害”(症状持続が6

ヶ月以内および6ヶ月以上合わせて)27.2%、“【F1x.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”23.7%と高かった。“【F1x.5】精神病性障害(>6M)”は『覚せい剤症例』、『有機溶剤症例』、『大麻症例』で高く、“【F1x.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”は『多剤症例(規制薬物)』、『覚せい剤症例』、『鎮咳薬症例』でそれぞれ20~40%と高い割合を示した。一方、“【F1x.2】依存症候群”は、医薬品症例群での比率が高く、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』、『鎮痛薬症例』、『多剤症例(医薬品)』などでは70~80%がこれに該当していた(表 2 3 - 1)。

主・副診断いずれかで“依存症候群”に該当する症例の割合は60~80%と高く、症例全体では68.2%であった。とくに『睡眠薬症例』と『リタリン症例』では高い割合を示し、ともに90%を超えていた(表 2 3 - 2)。

“【F1x.57】精神病性障害(症状持続>6M)”はICD-10の診断基準からは外れるが2002年度の調査よりICD-10診断分類に追加した項目である。

2 4) 性別にみたICD-10による主診断(表 2 4)

女性症例の約50%が“【F1x.2】依存症候群”に該当し、男性症例の約1/3に比較して高い割合であった。“【F1x.57】精神病性障害(症状持続>6M)”および“【F1x.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”では、それぞれ21.0%、25.6%と、いずれも男性において高い傾向がみられた。男女とも慢性的な病態が優位であることがうかがわれた。

2 5) 臨床用量依存について(表 2 5)

臨床用量依存と考えられる症例を主たる薬物別にみると、『睡眠薬症例』および『抗不安薬症例』、『多剤症例(医薬品)』でいずれも80%を超え、次いで『リタリン症例』でも46.7%と高い割合を示した(表 2 5 - 1)。

臨床用量依存の診断ガイドライン5項目については、“1)6ヶ月以上の使用”に該当する割合が75%にみられたが、それ以外の項目では半数以下であった(表 2 5 - 2)。すべての項目を満たす症例はなく、1)~4)の4項目を満たす症例も104例中5例(4.8%)と少なかった。

26) 精神病エピソードの既往と治療開始年齢(表26)

精神病エピソードの既往は、症例全体の54.0%にみられ、平均の発症年齢は27.0歳であった。薬物別にみると『多剤症例(規制薬物)』、『覚せい剤症例』では70%前後と高く、『大麻症例』、『リタリン症例』でも約60%と高い割合を示した。精神病エピソードの発症年齢は、『有機溶剤症例』で23.9歳と最も低かった。

治療開始年齢は、症例全体の平均は29.4歳で、『有機溶剤症例』では24.0歳と最も低かった。医薬品症例では30~40歳と規制薬物症例に比べて高い傾向がみられた。

27) 精神疾患の家族歴(表27)

“精神疾患の家族歴あり”と報告された症例は130例で、症例全体の24.3%であった。薬物別にみてそれほど大きな差はない。具体的に報告された精神疾患としては、アルコール関連障害35例(26.9%)、気分障害圏21例(16.2%)、薬物関連障害20例(15.4%)、統合失調症など精神病圏15例(11.5%)、神経症圏(不安障害、パニック障害含む)11例(8.5%)などであった。

28) 気分障害の併存について(表28)

気分障害の併存があると報告された症例は51例(9.5%)、併存が疑われるとされた症例は88例(16.4%)で、症例全体の約1/4に何らかの気分障害(疑い含む)の併存がみられた。薬物別にみると、『多剤症例(医薬品)』、『リタリン症例』で50~60%以上と高い割合を示し、次いで『睡眠薬症例』で40.4%と高かった(表28-1)。

性別にみると、女性で約1/3に何らかの気分障害の併存が疑われ、男性に比較して高い傾向がみられた(表28-2)。

気分障害の類型(DSM-準拠)の内訳をみると、“うつ病性障害”が71.2%と最も高く、“双極性障害”は5.8%と低かった。うつ病性障害は全体として医薬品症例で高い傾向がみられたが、『大麻症例』、『覚せい剤症例』でも70%前後にみられた(表28-3)。性別にみた内訳では大きな差はみられ

なかった(表28-4)。

気分障害の発症と、薬物使用開始との時間的關係について回答のあった103例について、気分障害の類型別に示した(表28-5)。発症が薬物使用開始前と後ではほぼ同数であったが、双極性障害と報告された症例では、薬物使用開始後の発症の割合が71.4%と高かった。また、症例全体からみた気分障害(疑い含む)の発症年齢は、27.8歳であった。

29) 成育史上の問題について(表29)

成育史上の問題としては、親との離別、不登校、いじめられ体験、家庭内暴力、被虐待体験の有無について質問した。薬物別、性別にみた結果をそれぞれ表29-1、表29-2に示す。これらの成育史上の問題は204例で報告され、症例全体の38.1%であった。それぞれの性別症例における割合をみると、女性症例では51.0%で、男性症例の33.3%に比べて有意に高かった。全体としては医薬品症例で高い割合を示し、とくに『抗不安薬症例』、『多剤症例(医薬品)』では60%以上にみられた。被虐待体験は症例全体の24.5%にみられ、女性で有意に高かった。このほか、不登校、いじめられ体験についても、有意な性差がみられた。

30) 自傷行為・自殺企図の既往について(表30)

自傷行為または自殺企図の既往は、症例全体では186例(34.8%)で報告された。薬物別にみると、『多剤症例(医薬品)』、『抗不安薬症例』で60~70%前後と高い割合を示した(表30-1)。性別にみると、女性では56.6%と男性症例の26.7%に比べて有意に高かった(表30-2)。

31) パーソナリティ障害の併存について

反社会性パーソナリティ障害(表31-1, 31-2)および境界性パーソナリティ障害(表31-3, 31-4)の併存について、薬物別、性別にみた割合を示した。

反社会性パーソナリティ障害の併存(疑い含む)は114例で、症例全体の21.3%にみられた。薬物別にみると、『多剤症例(規制薬物)』、『覚せい剤

症例』で 30%前後と高かった。パーソナリティ障害の顕在化と薬物使用開始との時間的關係をみると、全体では 38.6%が薬物使用開始前にすでに障害が存在したが、薬物使用開始後の顕在化も 29.8%で見られると報告された。

境界性パーソナリティ障害（疑い含む）は、87 例（16.3%）で、医薬品症例で高い傾向がみられた。性別では、女性において有意に併存する割合が高かった。境界性パーソナリティ障害は、薬物使用前から顕在化する症例の割合が高かった。

D. 考察

1) 本年度の実態調査の概括

今回の調査対象施設において回答率は 56%を超え、これまでの調査で最も高い回収率を得ることができた。全数調査としては十分満足できる数字であると考えられる。回答率を医療施設の種別で見ると、国立病院・療養所が 70.2%と最も高く、都道府県立病院を除いては 60%前後の回答率が得られ、施設種別で大きなばらつきはみられなかった。全体としては、すべての施設種別より、過半数の回答率を得ることができ、疫学的に意義のある調査であったと考えられる。

1 施設あたりの報告症例数は、国立病院・療養所が 14.7 例と最も多く、前回調査³⁾よりも増加した。次いで都道府県立病院が 7.8 例、民間病院も 5.2 例と増加した。全体としてみれば、薬物関連精神疾患の診療においては、国立ないし都道府県立の医療機関に比較的症例が集中している状況はこれまで同様である。

また、ここ数回の調査では、「該当症例あり」と回答する施設は 200～270 施設、医療機関全体に占める割合は 16%前後、症例数が 900 症例前後であったが、前回（2004 年度）の調査では「該当症例あり」の施設数は 75 施設（施設数全体の 4.5%）、報告された有効症例数も 453 例と激減した。今年度も、前回調査よりは増えたものの、「該当症例あり」施設は 90 施設（5.4%）で、回答症例も 535 例とそれ以前に比較すると少なかった。これが、同意取得など調査の方法論に関連した問題なのか、あるいは実際に薬物関連精神障害患者の受診状況

が変化していることによるのかについては、今回の結果だけでは何とも言えない。しかし、薬物関連精神障害患者の中心となる覚せい剤、有機溶剤については事犯者数も減少傾向にあるので、新規乱用による薬物関連精神障害患者の発生は実際に減少しつつあるのかもしれない。施設あたりの症例数は 5.9 例と前回同様の値で、これまでの調査に比較すると、増加傾向がみられた。

2) 今年度調査における関心項目

従来からの調査における継続的基礎項目に加えて、今年度は BZ 臨床用量依存、成育史上の問題、併存症（気分障害、パーソナリティ障害）について関心項目とした。

BZ 臨床用量依存は、十分にコンセンサスを得た診断基準がないため、井澤らによる診断ガイドラインの提案¹⁾に基づいて、5 項目の診断基準を試用した。

成育史上の問題については、薬物関連精神障害の成因、症状形成に関与すると思われる項目を設定した。すなわち、発達早期における親との離別体験、学校生活の問題としての不登校・いじめ体験、家庭生活の問題としての家庭内暴力や被虐待体験である。

精神的併存症は、臨床現場や民間リハビリ施設などで問題になりつつある。依存対象となる薬物と治療上不可欠な薬剤とをどのように適切に判断し用いるかは難しい問題をはらんでいる。今回の調査では、臨床上問題となることの多い気分障害の併存の有無に焦点をあて DSM- にしたがった類型化を行った。自傷行為と自殺企図についても質問項目として設定した。また、パーソナリティ障害の問題も治療上重要である。とくに薬物関連精神障害患者の処遇の難しさに関与する要因としてパーソナリティ障害がよく指摘されるが、本来のパーソナリティの問題なのか、あるいは薬物依存に伴う行動の変化がパーソナリティ障害を思わせる様態を示すのかについては、必ずしも厳密に考慮されているかどうか問題があろう。調査では、薬物関連精神障害に併存することが多いといわれるパーソナリティ障害のうち、反社会性パーソナリティ障害と境界性パーソナリティ障害に

ついて DSM - の診断基準を挙げて、その併存について調べた。気分障害と同様に、薬物使用との関連を検討するため、時間的關係を問う質問も設定した。

3) 各薬物についてのまとめ

(1) 覚せい剤

覚せい剤症例の概観

覚せい剤は依然として「第三次乱用期」にあり、現在の日本において最も深刻な問題をひきおこしている乱用薬物である。事犯検挙者数で見るとは、やや減少傾向にあるが、2006年における押収量は粉末・錠剤型ともに増加し、全薬物事犯の80.4%を占めるなど⁴⁾、乱用薬物の中心であり、予断を許さない状況は続いていると思われる。

覚せい剤症例は今年度の調査でも49%と全症例の半数を占めていた(図1)。「使用歴を有する薬物」としては63.2%と、これまで同様の高い割合を示している(図2)。一方、「初回使用薬物」としては19.1%と有機溶剤に次いでいるが(表19)、2000年頃より割合は低下傾向にある(図3)。いずれにしても、依然として精神科医療施設の現場においては、覚せい剤が最も主要な乱用薬物のひとつであることが示されている。

性・年齢の特徴

『覚せい剤症例』262例のうち約80%が男性で、年齢は20歳代後半～30歳代後半を中心としながら、50歳代まで幅広い分布がみられる。未成年者の比率は1991年調査⁵⁾では5.2%、1993年⁶⁾は8.4%、1994年⁷⁾は1.9%、1996年⁸⁾は2.0%、1998年⁹⁾は1.1%、2000年¹⁰⁾は2.1%、2002年度¹¹⁾は2.7%、2004年度は0.9%³⁾であったが、今年度は0.8%とやや減少していた。

年齢分布においては、女性の方がより低年齢にシフトし、覚せい剤使用開始の平均年齢も男性の39.6歳に対して女性では29.5歳と低かった。

初回使用年齢・使用期間・使用方法

20歳未満で覚せい剤使用を開始した者の割合は105例(40%)で、これまでと同様の水準であっ

た。初回使用年齢は男性21.7歳に対して、女性は19.5歳とわずかに低かった。覚せい剤使用期間が1年未満である症例は5例(1.9%)と、前回(4.9%)より低下した。試用期間が1年未満の初期乱用例は最近の調査で減少傾向にある(図4)。

一方、覚せい剤の使用期間が5年以上の症例は58.8%と高い水準にある。10年以上の使用期間も約41.6%にみられ、長期使用の傾向がより強く現れていた(図5)。

覚せい剤初回使用方法では、男性の71%、女性の55%が静注で、女性における加熱吸煙の割合が19.4%と、男性の16.1%に比較してやや高い傾向がみられた(図6)。

交友関係・司法矯正歴・社会生活

“暴力団”や“非行グループ”との関係を有する割合は、全般的に高い傾向がみられた。逮捕・補導歴を有する症例の割合も高く、覚せい剤乱用開始後には男女とも60%前後に達していた。矯正施設への入所歴は男性症例の半数近くにみられ、男性では60.6%と薬物別・性別で最も高かった。無職や離婚率も高く、覚せい剤関連問題による深刻な社会的機能の障害がうかがわれた。

喫煙・飲酒歴・薬物使用の動機および契機

『覚せい剤症例』における喫煙・飲酒の開始年齢は、他の薬物群に比較してより低年齢の傾向がみられた。覚せい剤初回使用の契機は、男性の約半数が“同性の友人”と高い割合を示した。女性では、“異性の友人”が31.5%、“恋人・愛人”が20.4%と高く、これまで同様に異性パートナーの存在が使用開始の契機となっていることがうかがわれた。薬物使用開始の動機としては、男女とも約半数が“誘われて”であり、“好奇心・興味から”もこれに次いで高かった。

精神医学的診断

ICD-10による診断分類では、『覚せい剤症例』の約40%は『F15.5：精神病性障害』に該当した。とくに精神病症状の持続が6ヵ月以上に及ぶ『F15.57：精神病性障害(>6M)』に該当する症例が1/4にみられた。“【F15.7】残遺性障害および遅

発性精神病性障害”も90例(34.4%)と多く、覚せい剤使用による慢性ないし遷延性の病態の存在がうかがわれる。この傾向は、最近1年以内における覚せい剤使用率が28.6%と低いことから想定される。

薬物誘発性の精神病性障害については、持続期間の設定に議論がある。DSMの改訂も控えているが、今後、このような薬物使用者にみられる長期にわたって持続する精神病性障害については、さらに詳細かつ実証的な臨床研究と検討を積み重ね、診断基準について日本の臨床経験をもとに適切な意見を述べていく必要があると考えられる。

気分障害・成育史上の問題・パーソナリティ

『覚せい剤症例』における気分障害の併存は、56例(21.4%)に報告された。そのうち、36例(64.3%)は「うつ病性障害」で、双極性障害の割合は5.4%と低かった。気分障害の発症が覚せい剤使用開始前、後と考えられる症例はそれぞれ9例(16.1%)、37例(66.1%)で、後者の方が多かった。覚せい剤誘発性と考えられた症例はこのうち12例であった。

成育史的には、15歳以前の親との離別、不登校が1/3にみられ、被虐待体験も30%近くに報告された。反社会性パーソナリティ障害(傾向も含む)と考えられる症例は、70例(26.7%)と、『多剤症例(規制薬物)』に次いで高い割合を示した。薬物乱用開始前の逮捕・補導歴の内容をみても、他の薬物症例に比較すると暴力事件の割合が高い傾向がうかがわれる(表10-2)。ただし、反社会的パーソナリティ障害が薬物使用開始後に顕在化したと報告された症例も21例(30%)あり、これらの症例では、反社会的行動様式が覚せい剤使用とくに依存症に関連する行動、あるいは精神病エピソードに修飾されている可能性も示唆される。したがって、覚せい剤関連精神障害患者の処遇面の難しさを特定のパーソナリティ障害に帰すことは、慎重でなければならないだろう。これは、覚せい剤に限らず、すべての薬物関連精神障害の診断・治療において要請される臨床的態度であると考えられる。

(2) 有機溶剤

『有機溶剤症例』の概観

覚せい剤とならび、日本における代表的な乱用薬物であり、検挙者数は次第に減少しているが、若年で乱用が開始されること、深刻な心身の健康問題や社会的障害をもたらすこと、その入手の容易さなどから、依然として軽視すべきでない薬物である。具体的な物質の記載があったのは一部の症例のみだが、以下のものであった。最近、“ガス類”の報告が一定数みられている。

- ・ シンナー：19例
- ・ ガス類：8例
- ・ トルエン：7例
- ・ ボンド：5例

『有機溶剤症例』が症例全体に占める割合は15.1%で、引き続き減少傾向がみられている。しかし、“使用歴を有する薬物”としては覚せい剤に次ぎ、50%前後と高い水準で経過している(図2)。また、“初回使用薬物”としては若干減少傾向がみられるものの、覚せい剤を上回り44.3%と最も高い割合であった。薬物乱用への入り口としての有機溶剤は依然として軽視できないことがわかる。

性・年齢の特徴

『有機溶剤症例』の特徴は、約80%が男性で、平均16.8歳という低年齢で乱用が開始されることである。これまで、他の併用薬物のない単独使用者の割合が2/3程度にみられてきたが、今回も53.1%と高かった。

喫煙・飲酒歴、薬物使用歴

喫煙は14.8歳と最も低年齢で、飲酒も16.3歳と、より低年齢で使用を開始する傾向は、毎回の調査でみられる特徴である。有機溶剤に先行する喫煙体験の役割も軽視できない。

使用期間では、1年未満の“初期乱用者”は1.3%と減少傾向にあるが、5年以上の“長期使用者”の割合は約60%と高く、覚せい剤と同様慢性病態の存在がうかがわれる。

交友関係、逮捕・補導歴

交友関係では、乱用開始前に“非行グループ”との関係を有する割合は53%と高かった。薬物乱用者との関係は、薬物乱用前にはとくに女性の71%にみられ、高い割合を示した。乱用開始後も男女とも半数近くに関係がみられた。逮捕・補導歴は、乱用開始後には男女とも乱用開始前における割合の2.6~3.6倍程度に増加し、女性で目立っていた。

薬物使用の契機、動機、入手経路

初回使用の契機となった人物としては、男性の半数、女性の1/3近くが“同性の友人”とし、他の薬物症例群に比較してより高い割合であった。また、女性では約半数が“異性の友人”と回答し、これらが高いのは従来と同様の傾向である。

薬物初回使用の動機としては、男女とも約半数が“誘われて”で、“好奇心”もとくに女性で約2/3と高かった。薬物入手経路は“友人”が比較的多いが、“密売人”も少なからずみられた。従来の結果と同様に、有機溶剤乱用開始におけるpeer pressure、その後の交友関係のあり方に関する特徴をうかがわせる。

精神医学的診断

ICD-10による診断分類では、“【F18.2】依存症候群”が36%と最も高い割合を示し、次いで“【F18.57】精神病性障害(>6M)”が約1/4にみられた。“【F18.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”の16%と合わせると、約40%で症状の遷延・持続化が問題になっていることがうかがえる。

気分障害・成育史上の問題・パーソナリティ

『有機溶剤症例』における気分障害の併存率は9.9%と低かった。成育史的には、15歳以前の親との離別体験、不登校、家庭内暴力等は『覚せい剤症例』と同様の割合であったが、“いじめられ体験”が若干高い傾向がみられた。被虐待体験の報告は9.1%と低かった。パーソナリティ障害の併存の割合も全体からみると高いとはいえなかった。

(3) 睡眠薬・抗不安薬・鎮痛薬

これらの薬物を“主たる使用薬物”とする症例

が全体に占める割合としては、各年度の調査において10%前後と高くはない。ただし、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』の1/4~1/2がそれぞれ抗不安薬、睡眠薬を併用しており、また『多剤症例(医薬品)』では、睡眠薬、抗不安薬の使用率が90%を超える。また、規制薬物症例における使用割合も低くない。

これらの症例の平均年齢は30歳代後半~40歳代後半と他の薬物症例に比較して高く、初回使用年齢も通常は30歳代前後で、3/4以上で最近1年間における使用がみられる。

初回使用の契機となった人物としては“医師”が多いが、“自発的使用”もみられ、これらには主として市販薬(OTC)を自ら購入したケースなどが該当すると思われる。

動機としては、約30~75%が“不眠”、“不安”、“疼痛”といった本来の症状と思われる状態の軽減を目的としていた。使用期間では使用薬物ごとにややばらつきがあるが、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』では8~10年、『鎮痛薬症例』では平均約13年と最も長く、前回同様の傾向がみられた。従来、これらの『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』の中には「BZ臨床用量依存」例が含まれると考えられたため、今年度は調査項目に加えた。

BZ臨床用量依存については、前述したように井澤らによる5項目の診断ガイドライン¹⁾を用いた。臨床的に「臨床用量依存」と判断された症例は104例で、症例全体の19.7%であった。主たる薬物別にみると、当然ながら『睡眠薬症例』および『抗不安薬症例』で該当する例が多く、両者合わせて84.8%が臨床用量依存に該当し、『多剤症例(医薬品)』でも80.8%が該当した。実際には、診断ガイドライン5項目のすべてを満たす症例はなく、とくに「5) 計画的な漸減・中止」については實際上、かなり困難な作業であることが予想され、これに該当する症例は27例(26%)と最も低い割合であった。1)~4)の4項目を満たす症例も5例(4.8%)と少なかった。また、BZ以外の薬物を主たる使用薬物とする症例でも、併用するBZ系睡眠薬・抗不安薬の臨床用量依存が少なからずみられることがうかがわれた。臨床用量依存については、診断基準を含めて、より詳細な検討が必要と思われる。

『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』では、気分障害の併存が 30～40%と比較的高い割合を示し、その多くはうつ病性障害と報告された。『抗不安薬症例』では、成育史上の問題が 12 例(63.2%)、自殺企図または自傷行為の既往が 11 例(57.9%)と高い割合にみられた。境界性パーソナリティ障害(傾向も含む)の併存も 7 例(36.8%)と『多剤症例(医薬品)』に次いで高い割合を示した。境界性パーソナリティ障害の 70%以上が、薬物使用開始前から存在したと報告され、これらの症例では、本パーソナリティ障害あるいは近縁の行動障害が原疾患として存在したことがうかがわれる。

一部の症例で具体的に報告された薬物は、以下のようなものであった。

【睡眠薬】

・ フルニトラゼパム	28 例
・ トリアゾラム	19 例
・ ブロムワレリル尿素製剤(“ウット”、“リスロン”含む)	12 例
・ ニトラゼパム	10 例
・ ゾルピデム	9 例
・ プロチゾラム	8 例
・ ゾピクロン	7 例
・ バルビツレート類	7 例
・ ベゲタミン	6 例
・ ニメタゼパム	2 例
・ その他(エスタゾラム, ハイミナール, “ドリエル”など)	各 1 例

以上のうち、“ウット”、“リスロン”、“ドリエル”は市販品(OTC)である。

【抗不安薬】

・ エチゾラム	25 例
・ アルプラゾラム	5 例
・ プロマゼパム	5 例
・ ジアゼパム	3 例
・ クロキサゾラム	2 例
・ ロラゼパム	1 例

【鎮痛薬】

・ ペンタゾシン	5 例
・ ナロン	4 例
・ セデス	3 例

(4) 鎮咳薬

『鎮咳薬症例』は 1982 年以来、毎回の調査で報告されており⁸⁾、今回の調査では、主たる使用薬物としては 4.3%を占め、わずかだが増加傾向にあった。『鎮咳薬症例』では、男女とも平均 23.3 歳で鎮咳薬の使用を開始しており、性比は男性優位で、過去 1 年以内の鎮咳薬使用経験は 60%近くに見られ、大麻、覚せい剤、有機溶剤などの規制薬物併用率も比較的高い傾向がみられた。また、約半数が薬物乱用前から薬物乱用者との関係を有していた。これらは従来の鎮咳薬症例の傾向とほぼ同様である。

ICD-10 による主診断では、65%が“【F19.2】依存症候群”に該当した。また“【F19.7】残遺性障害および遅発性精神病性障害”が 1/4 を占め、『鎮咳薬症例』においても症状の慢性化、長期化がうかがわれたのは前回調査と同様であった。

なお、具体的に報告された鎮咳薬は以下のようなもので、すべて OTC であった。

・ プロン液	16 例
・ プロン錠	10 例
・ トニン	8 例
・ プロン	2 例
・ ガノン液	1 例

(5) 大麻

大麻はこのところ検挙者数、押収量が増加傾向にあり、最も乱用拡大が懸念される薬物のひとつである。『大麻症例』は 1987 年度調査より報告されるようになったが¹⁰⁾、主たる使用薬物症例数としては少数で推移していた。ところが、2002 年度から 2%を超えて増加傾向にあり、今年度は前回の 3.8%より減じたが、なお 2.4%と高い水準にあった。

また、過去に大麻使用歴のある症例は、ここ数年の調査において回答症例全体の 10%前後を占めていたが、2002 年度は 22.0%、2004 年度が 38.1%へと急増し、今年度も 27.7%と高い割合を示した。一般社会での大麻乱用の拡大の影響が、精神医療

の現場に及びつつある。

『大麻症例』は70%以上が男性で、平均27.9歳であった。薬物乱用前に男性の30%が非行グループと、男女合わせて約半数が薬物乱用者との関係を持ち、逮捕・補導歴、矯正施設への入所歴を有する割合は、規制薬物使用症例群の中では低かった。また、半数近くに覚せい剤の使用歴がみられた。これらの特徴は、これまでと同様の傾向である。

一方、『多剤症例（規制薬物）』では半数以上に大麻使用歴があり、初回使用年齢からみると、有機溶剤（16.1歳）大麻（20.5歳）覚せい剤（22.4歳）という多剤併用の時間的流れが推測された。また、『覚せい剤症例』では約1/3に大麻使用歴がみられ、初回使用年齢は覚せい剤とほぼ同年齢であった。

『大麻症例』の乱用開始にあたっては、男性症例の半数が“誘われて”、“好奇心・興味から”を動機とし、“同性の友人”を契機としていた。他の薬物症例に比較して、大麻使用における自己治療的な意味合いは少ないことがうかがわれた。最近1年以内の薬物入手は1/4が“友人”、“知人”からで、容易に入手できる状況がうかがわれた。診断としては、“【F12.5】精神病性障害”が60%を超え、症状の長期遷延例も少なからずみられた。これらの傾向はこれまで同様である。

（6）メチルフェニデート（リタリン）

これまでの調査においても、メチルフェニデート（リタリン）症例は一定数の報告がみられていたため、今回の調査では独立した薬物として集計した。

2004年度調査では、リタリンの使用歴を有する症例として19例の報告があったが、今年度は30例（5.6%）と増加した。主たる使用薬物症例としても15例（2.8%）であった。リタリン症例では、気分障害の併存が53.3%にみられたことにも示されているように、その使用開始は何らかの治療目的であることが多いが、“刺激を求めて”などの乱用目的も男性症例でみられた。ADHD、ナルコレプシーに対する投与もわずかだが報告されている。診断としては、3/4が“【F15.2】依存症候群”に

該当し、乱用開始から依存に至る期間も、平均9.2ヵ月と短かった（表18）。

『リタリン症例』では、半数以上に気分障害の併存が指摘され、そのほとんどがうつ病性障害であった（表28）。成育史上の問題が半数近くで、自傷行為・自殺企図の既往が40%で報告されており、これらが相互に関連している可能性も否定できない。

なお、これまでの調査からリタリン依存は早期に重症化しやすい傾向が指摘されており¹²⁾、うつ病に対するエビデンスも十分とは言い難く¹³⁾、多くが医原性の側面をもっていることを考えると、早急に何らかの行政的対応が求められる。

（7）その他の薬物

症例全体で使用歴があると報告されたその他の薬物には以下のようなのがみられた。

- ・ MDMA 51例
- ・ コカイン 37例
- ・ LSD 34例
- ・ ヘロイン 17例
- ・ マジック・マッシュルーム 17例

MDMAは押収量、検挙者数ともに年々倍増しており、本調査においても2004年度より報告数が増加した。大麻とともに乱用拡大がきわめて懸念される乱用物質である。MDMA（あるいはMDA）の錠剤には、その他の成分としてメタンフェタミン、カフェイン、エフェドリン、コカイン、ケタミンなどが混在する錠剤も流通していることが確認されており¹⁴⁾、引き続き注意深く見守ることが必要であろう。

他の薬物としては、以下のような薬物が報告された（各1例）。

【麻薬指定薬物】

- ・ AMT：3-(2-アミノプロピル)インドール
- ・ 5-MeO-DIPT：3-[2-(ジイソプロピルアミノ)エチル]-5-メトキシインドール
- ・ 3CPP：1-(3-クロロフェニル)ピペラジン
- ・ メチロン：2-メチルアミノ-1-(3,4-メチレンジオキシフェニル)プロパン-1-オール

【薬事法指定薬物】

- ・ 4-FMP：4-フルオロアンフェタミン

【東京都知事指定薬物】

- ・ 2C-I：2,5-ジメチル-4-エトフェチルアミン
- ・ 5-Meo-AMT：3-(2-アミノピロリ)-2-メチインドール

【その他】

- ・ GBL：ガンマブチロラクトン

上記のうち、5-Meo系（俗称“フォクシー”など）は経口、経鼻、経直腸的に摂取され、男性同性愛者などの間で乱用されることがある。サイロシンなどと類似の幻覚作用をもち、中枢神経に対する毒性もかなり強いことが報告されており¹⁵⁾、同様に十分な注意と対策が必要である。2005年4月17日より麻薬として規制されている。

3CPP（俗称“Super Speed Star”など）は、東京都の知事指定薬物であったが、2006年10月13日より麻薬として規制されている。

メチロン（俗称“methyline”など）も、いわゆる脱法ドラッグとして一部で乱用されてきており、知事指定薬物であったが、2007年2月3日より麻薬として規制されることになった。メチロンは化学構造式上、MDMAと酷似しており、同様に依存形成と中枢興奮作用を有することが知られている¹⁶⁾。なお、ピリン系解熱鎮痛剤のメチロン（スルピリン）とは異なる。

4-FMPはアンフェタミン類似物質で、2006年の薬事法改正により、第12条第14項「中枢神経系の興奮若しくは抑制又は幻覚的作用（当該作用の維持又は強化の作用を含む。）を有する蓋然性が高く、かつ、人の体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生するおそれがある物」として規制される「指定薬物」に含まれる。

2C-I（俗称：Black Labelなど）、5-Meo-AMT（俗称：Super Speed Starなど）は2005年6月より知事指定薬物とされている。

GBLは鎮静作用をもち、欧米では“Party Drug”、ときには“Date-Rape Drug”として乱用や不正使用されることもある。すでに麻薬指定されているGHB（GABA代謝物）の前駆物質で、1,4-ブタンジオ

ールも同様の作用をもつと考えられる。

比較的最近に麻薬として指定された物質や、知事指定薬物、薬事法指定薬物に該当する物質は、その生体作用について厳密な科学的評価が行われていない場合が多く、臨床上の問題も予測しがたい場合がある。急性中毒の症候や、他の薬物との相互作用など不明な点が多いので、現場では注意が必要である。これらの物質の入手経路としてのインターネットも、今回は全体で数例に報告されたに過ぎないが、潜在的にはより多くの例が予想される。予防教育の中でどのように取り上げていくか検討が必要だろう。

E. 結論

1) 全国の精神科病床を有する医療施設1,653施設を対象に、薬物関連精神疾患の実態調査を郵送法にて施行し、937施設（56.7%）から535症例の報告を得た。

2) 主たる使用薬物別にみると、『覚せい剤症例』が262例（49.0%）と最も多く、『有機溶剤症例』81例（15.1%）と合わせると全体の2/3近くを占め、依然として両薬物が精神医療の現場においても主要な乱用薬物であることが確認された。

3) 次いで、『睡眠薬症例』47例（8.8%）、『鎮咳薬症例』23例（4.3%）、『多剤症例（医薬品）』26例（4.9%）、『多剤症例（規制薬物）』が22例（4.1%）、『抗不安薬症例』19例（3.6%）、『その他症例』18例（3.4%）、『リタリン症例』15例（2.8%）、『大麻症例』13例（2.4%）、『鎮痛薬症例』9例（1.7%）の順で報告が多かった。

4) 『覚せい剤症例』が全症例に占める割合および「使用歴を有する薬物」としてもこれまで同様最も高い割合を占めており、検挙者数はやや減少傾向にあるが、今後の精神医療の現場における推移を注意が必要であると考えられた。

5) 『覚せい剤症例』の病態としては、精神病性障害が中心で、とくに長期にわたる遷延性の状態像がうかがわれ、これは従来の調査と同様の傾向であった。

6) 社会における有機溶剤乱用は全体として下火になりつつあり、本調査における『有機溶剤症例』

の占める割合も徐々に減少傾向にあるが、「使用歴を有する薬物」としては48%と覚せい剤に次いで高い割合を示し、これまで同様の高い水準を保っていた。また、「初回使用薬物」としては44.3%と最も高い割合を示しており、薬物乱用への入門薬としての役割は依然として軽視できないと考えられた。

7)『有機溶剤症例』では飲酒・喫煙、薬物乱用がより低年齢で開始されていた。低年齢からの有機溶剤乱用は、成長期における健康問題のみならず、深刻な心理・社会的障害を引き起こすことにつながり、薬物乱用防止教育における重要性があらためて認識された。

8)『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』、『鎮痛薬症例』では平均年齢、使用開始年齢など高く、複数の薬物を併用する傾向がみられた。病態としては、依存症候群を呈する割合が高く、『睡眠薬症例』、『抗不安薬症例』の80%以上が臨床用量依存に該当すると報告された。

9)『鎮咳薬症例』は主たる使用薬物としては4.3%とやや増加傾向にあった。比較的low年齢で乱用を開始しており、性比、交友関係などにおいて規制薬物症例に近い特徴をもっていること、依存症候群に該当する割合は60%以上と高いこと、等の特徴は従来の調査と同様であった。

10)大麻は乱用拡大が懸念される薬物であり、『大麻症例』は全体の2.4%と前回調査よりは若干減少したものの、「大麻使用歴を有する症例」は全体の27.7%と高水準を保ち、症状の遷延例も少なからず存在することがわかった。

11)『リタリン症例』は15例(2.8%)報告され、使用歴を有する症例としては30例と増加傾向がみられた。約半数に気分障害の併存がみられ、自傷・自殺企図、成育史上の問題を有する割合も比較的高く、これらが相互に関連している可能性が示唆された。診断としては依存症候群の割合が高く、依存への進行の速さがわかった。

12)パーソナリティ障害としては、『覚せい剤症例』で反社会性パーソナリティ障害、『多剤症例(医薬品)』、『抗不安薬症例』で境界性パーソナリティ障害の併存率が高い傾向がみられた。しかし、反社会性パーソナリティ障害では、薬物使用後に障

害が顕在化した例が少ないことから、薬物関連精神障害患者におけるパーソナリティの評価は、薬物使用の影響を考慮に入れて慎重に行われるべきと考えられた。

13)その他の薬物としては、報告数は少ないものの、新規に麻薬指定を受けた物質、改正薬事法における新規指定薬物、知事指定薬物など多様な物質が報告された。臨床現場においても、これらの薬理作用や関連法規等についての知識や情報の迅速かつ適切な共有が必要であると思われた。

謝 辞

日々の臨床でご多忙の中、本実態調査にご協力いただきました全国の精神科医療施設の医師の皆様ならびに関係者の方々、患者の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。

F. 研究発表

1) 論文・著書

- (1) Shigeru Ozaki and Kiyoshi Wada : Characteristics of methylphenidate dependence syndrome in psychiatric hospital settings. *Jpn.J.Alcohol & Drug Dependence* 41(2) : 89-99, 2006.
- (2) 尾崎 茂, 和田 清 : 睡眠薬乱用・依存の実態と対策. *臨床精神薬理* 9 : 2011-2016, 2006.
- (3) 尾崎 茂, 和田 清 : ベンゾジアゼピン依存の疫学と国際比較. *臨床精神医学* 35(12) : 1675-1981, 2006.

2) 口頭発表

- (1) 尾崎 茂 : 物質依存と犯罪 - その実態と問題点 - . 第41回日本アルコール・薬物医学会総会シンポジウム「アルコール・薬物依存の犯罪と法律」, 2006/7/27, 京都.
- (2) 尾崎 茂, 和田 清 : 薬物関連精神障害患者におけるパーソナリティの特徴. 第41回日本アルコール・薬物医学会総会, 2006/7/28, 京都.
- (3) 尾崎 茂 : 物質関連障害の診断基準について.

第 18 回日本アルコール精神医学会・第 9 回ニコチン・薬物依存研究フォーラム平成 18 年度合同学術総会，合同シンポジウム「DSM-物質関連障害診断基準草案作成への提言：DSM- の検討課題と今後の研究」。2006/9/29，千葉。

G . 参考文献

- 1) 井澤志名野，早川達郎，和田 清：ベンゾジアゼピン系薬物の使用原則と臨床用量依存の診断と治療。白倉克之ら編，アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドライン，p207-222，じほう，2003。
- 2) Ridenour, T.A., Maldonado-Molina, M., Compton, W.M., et al: Factors associated with the transition from abuse to dependence among substance abusers: implications for a measure of addictive liability. *Drug Alcohol Depend.*, 80(1):1-14, 2005.
- 3) 尾崎 茂，和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 16 年度厚生労働科学研究補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」（主任研究者：和田清）研究報告書：89-126，2005。
- 4) 警察庁刑事局組織犯罪対策部薬物銃器対策課：平成 18 年中の薬物・銃器情勢。2007 年 2 月。
- 5) 福井 進，和田 清，伊豫雅臣他：薬物乱用・依存の実態と動向に関する研究（その 2）- 医療施設実態調査より -。厚生省精神・神経疾患研究委託費 - 薬物依存の発生機序と臨床および治療に関する研究。平成 3 年度報告書：143 - 152，1992。
- 6) 清水順三郎，福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 5 年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的，精神医学的特徴に関する研究。平成 5 年度研究成果報告書：79 - 104，1994。
- 7) 清水順三郎：精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 6 年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的，精神医学的特徴に関する研究。平成 6 年度研究成果報告書：87 - 118，1995。
- 8) 尾崎 茂：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 8 年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究。第 1 分冊「薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究」平成 8 年度研究成果報告書：61 - 86，1997。
- 9) 尾崎 茂，和田 清，福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 10 年度厚生科学研究費補助金「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。平成 10 年度研究報告書：85 - 116，1999。
- 10) 尾崎 茂，和田 清，福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 12 年度厚生科学研究費補助金「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。平成 12 年度研究報告書：77 - 118，2001。
- 11) 尾崎 茂，和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 14 年度厚生科学研究補助金「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究および社会的損失に関する研究」研究報告書：87-128，2003。
- 12) Shigeru Ozaki and Kiyoshi Wada : Characteristics of methylphenidate dependence syndrome in psychiatric hospital settings. *Jpn.J.Alcohol & Drug Dependence* 41(2) : 89-99，2006.
- 13) 樋口輝彦:Methylphenidate のうつ病に対する有効性について。精神医学 47(6) :588-594，2005。
- 14) Yukiko Makino , Satoshi Tanaka , Shingo

Kurobane , et al . Profiling of Illegal Amphetamine-type Stimulant Tablets in Japan . J.Health Sci . , 2003.

- 15) 船田正彦：MDMA 及び脱法ドラッグの神経毒性ならびに精神依存発現メカニズムの解明。平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）研究報告書：1-47，2004。
- 16) 船田正彦：MDMA 類似誘導体の薬物依存性評価システム構築に関する研究。平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「脱法ドラッグの構造修飾特性とその依存性および神経毒性発現の関連性」研究報告書，9-21，2006。

表1 精神科医療施設の種別と回答状況

	総施設数	回答のあった施設数と症例数				1施設あたり 回答症 例数
		回答あり 施設数	症例あり		症例なし 施設数	
			施設数	回答症例数		
国立病院・療養所	47 (2.8%)	33 (70.2%)	10 (21.3%)	147 (27.5%)	23 (48.9%)	14.7
自治体立病院						
都道府県立病院	77 (4.7%)	40 (51.9%)	12 (15.6%)	93 (17.4%)	28 (36.4%)	7.8
市町村立病院	75 (4.5%)	47 (62.7%)	6 (8.0%)	6 (1.1%)	41 (54.7%)	1.0
大学医学部附属病院	84 (5.1%)	51 (60.7%)	10 (11.9%)	17 (3.2%)	41 (48.8%)	1.7
民間病院	1370 (82.9%)	766 (55.9%)	52 (3.8%)	272 (50.8%)	714 (52.1%)	5.2
	1653 (100.0%)	937 (56.7%)	90 (5.4%)	535 (100.0%)	847 (51.2%)	5.9

表2 主たる使用薬物別にみた症例数 (%)

薬物分類	男性	女性	合計
覚せい剤	208 (53.3%)	54 (37.2%)	262 (49.0%)
有機溶剤	64 (16.4%)	17 (11.7%)	81 (15.1%)
睡眠薬	28 (7.2%)	19 (13.1%)	47 (8.8%)
抗不安薬	12 (3.1%)	7 (4.8%)	19 (3.6%)
鎮痛薬	5 (1.3%)	4 (2.8%)	9 (1.7%)
鎮咳薬	16 (4.1%)	7 (4.8%)	23 (4.3%)
大麻	10 (2.6%)	3 (2.1%)	13 (2.4%)
リタリン	10 (2.6%)	5 (3.4%)	15 (2.8%)
その他	12 (3.1%)	6 (4.1%)	18 (3.4%)
多剤(医薬品)	9 (2.3%)	17 (11.7%)	26 (4.9%)
多剤(規制薬物)	16 (4.1%)	6 (4.1%)	22 (4.1%)
計	390 (100.0%)	145 (100.0%)	535 (100.0%)

表3-1 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

	覚せい剤 (262例)		有機溶剤 (81例)		睡眠薬 (47例)		抗不安薬 (19例)		鎮痛薬 (9例)		鎮咳薬 (23例)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
性別	79.4%	20.6%	79.0%	21.0%	59.6%	40.4%	63.2%	36.8%	55.6%	44.4%	69.6%	30.4%
性別比												
年齢構成												
14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
15~19	1 (0.5%)	1 (1.9%)	2 (3.1%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
20~24	8 (3.8%)	13 (24.1%)	6 (9.4%)	4 (23.5%)	1 (3.6%)	3 (15.8%)	1 (8.3%)	1 (14.3%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)
25~29	25 (12.0%)	14 (25.9%)	9 (14.1%)	4 (23.5%)	4 (14.3%)	3 (15.8%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	1 (14.3%)
30~34	42 (20.2%)	13 (24.1%)	11 (17.2%)	2 (11.8%)	6 (21.4%)	2 (10.5%)	2 (16.7%)	2 (28.6%)	1 (20.0%)	2 (50.0%)	2 (12.5%)	1 (14.3%)
35~39	39 (18.8%)	9 (16.7%)	24 (37.5%)	1 (5.9%)	1 (3.6%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (25.0%)	2 (28.6%)
40~44	35 (16.8%)	1 (1.9%)	5 (7.8%)	1 (5.9%)	4 (14.3%)	1 (5.3%)	4 (33.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)
45~49	22 (10.6%)	1 (1.9%)	3 (4.7%)	1 (5.9%)	3 (10.7%)	1 (5.3%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	1 (14.3%)
50~54	16 (7.7%)	1 (1.9%)	1 (1.6%)	1 (5.9%)	4 (14.3%)	1 (5.3%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (25.0%)	1 (14.3%)
55~59	12 (5.8%)	0 (0.0%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	1 (5.3%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
60~64	4 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
65	4 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	1 (20.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	1 (1.9%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	208 (100.0%)	54 (100.0%)	64 (100.0%)	17 (100.0%)	28 (100.0%)	19 (100.0%)	12 (100.0%)	7 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (100.0%)	16 (100.0%)	7 (100.0%)
平均(男女別)	39.6 ± 10.4	29.5 ± 6.9	34.2 ± 8.3	29.0 ± 10.3	43.2 ± 13.7	41.5 ± 20.6	39.8 ± 10.1	34.7 ± 16.6	47.0 ± 19.4	47.8 ± 16.8	40.9 ± 9.0	37.3 ± 10.4
平均(全体)	37.5 ± 10.6		33.1 ± 8.9		42.5 ± 16.7		37.9 ± 12.7		47.3 ± 17.1		39.8 ± 9.4	

表3-2 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

	大麻 (13例)		リタリン (15例)		その他 (18例)		多剤 (医薬品) (26例)		多剤 (規制薬物) (22例)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
性別	76.9%	23.1%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	34.6%	65.4%	72.7%	27.3%
性別比										
年齢構成										
14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
15~19	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)
20~24	2 (20.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	2 (40.0%)	1 (8.3%)	1 (16.7%)	2 (22.2%)	2 (11.8%)	2 (12.5%)	1 (16.7%)
25~29	4 (40.0%)	1 (33.3%)	2 (20.0%)	1 (20.0%)	4 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (35.3%)	5 (31.3%)	0 (0.0%)
30~34	2 (20.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (16.7%)	3 (50.0%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	1 (6.3%)	1 (16.7%)
35~39	2 (20.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	1 (5.9%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
40~44	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	2 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (33.3%)	3 (17.6%)	1 (6.3%)	2 (33.3%)
45~49	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)
50~54	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
55~59	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)
60~64	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
65	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
計	10 (100.0%)	3 (100.0%)	10 (100.0%)	5 (100.0%)	12 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	17 (100.0%)	16 (100.0%)	6 (100.0%)
平均(男女別)	29.0 ± 4.9	24.3 ± 6.7	29.6 ± 7.9	31.8 ± 11.7	33.7 ± 10.3	31.6 ± 6.9	38.7 ± 10.7	29.8 ± 7.5	37.1 ± 13.2	27.5 ± 11.2
平均(全体)	27.9 ± 5.4		30.4 ± 9.1		33.1 ± 9.2		32.9 ± 9.5		34.4 ± 13.1	

表4 主たる使用薬物別にみた最終学歴

	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大麻	リタリン	その他	多剤 (医薬品)	多剤 (規制薬物)	計	
小学校	在学中 中退 卒業 不明		1 (2.1%)									2 (0.4%)	
中学校	在学中 中退 卒業 不明	2 (0.8%) 4 (1.5%) 86 (32.8%) 2 (0.8%)	2 (2.5%) 30 (37.0%) 1 (1.2%)		1 (5.3%) 1 (11.1%)	4 (17.4%)		1 (6.7%)	1 (6.7%)	2 (7.7%)	8 (36.4%)	138 (25.8%)	
高校	在学中 中退 卒業 不明	1 (0.4%) 64 (24.4%) 44 (16.8%) 2 (2.5%)	1 (1.2%) 27 (33.3%) 9 (11.1%) 2 (2.5%)	7 (14.9%) 3 (15.8%) 7 (14.9%)	1 (5.3%) 3 (15.8%) 5 (26.3%)	1 (11.1%) 1 (7.7%) 2 (22.2%) 1 (4.3%)	4 (17.4%) 1 (7.7%) 5 (38.5%) 1 (7.7%)	1 (6.7%) 1 (6.7%) 2 (13.3%) 1 (7.7%)	1 (6.7%) 1 (6.7%) 2 (13.3%)	3 (11.5%) 4 (18.2%) 6 (23.1%) 5 (22.7%)	4 (18.2%) 4 (18.2%) 5 (22.7%)	115 (21.5%)	
専門学校	在学中 中退 卒業 不明	1 (0.4%) 10 (3.8%) 9 (3.4%)	4 (4.9%) 2 (2.5%)	10 (21.3%)	1 (5.3%)	1 (11.1%)		2 (8.7%) 2 (13.3%) 1 (6.7%)	1 (6.7%) 1 (6.7%)	1 (3.8%) 4 (15.4%)	1 (4.5%)	31 (5.8%)	
短大	在学中 中退 卒業 不明		1 (2.1%) 1 (2.1%)			1 (11.1%)		1 (4.3%)				1 (0.2%)	
大学	在学中 中退 卒業 不明	2 (0.8%) 8 (3.1%) 3 (1.1%)	2 (4.3%) 1 (1.2%)	2 (4.3%) 4 (8.5%)	2 (10.5%) 4 (21.1%)	1 (11.1%)	1 (4.3%)	1 (7.7%) 3 (23.1%)	7 (46.7%)	1 (3.8%) 1 (3.8%) 2 (7.7%)	1 (4.5%)	26 (4.9%)	
不明		22 (8.4%)	2 (2.5%)	5 (10.6%)	2 (10.5%)	2 (22.2%)	1 (4.3%)	1 (7.7%)	1 (6.7%)	8 (53.3%)	6 (23.1%)	2 (9.1%)	44 (8.2%)
計		262 (100.0%)	81 (100.0%)	47 (100.0%)	19 (100.0%)	9 (100.0%)	23 (100.0%)	13 (100.0%)	15 (100.0%)	18 (120.0%)	26 (100.0%)	22 (100.0%)	535 (100.0%)

表5-1 主たる使用薬物別にみた職業歴(薬物乱用前および現在)

	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬	
	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)
1 農林漁業	3 (1.1)	2 (0.8)		1 (1.2)								
2 商人(卸・小売り)												
3 不動産業												
4 金融業	1 (0.4)	1 (0.4)										
5 自営職人	2 (0.8)	3 (1.1)	1 (1.2)	1 (1.2)					1 (11.1)			
6 露天・行商	2 (0.8)											
7 その他自営業	2 (0.8)	1 (0.4)			1 (2.1)		1 (5.3)		2 (22.2)			
8 団体役員				1 (1.2)								
9 会社員	9 (3.4)	8 (3.1)	1 (1.2)		8 (17.0)	2 (4.3)	2 (10.5)	1 (5.3)			3 (13.0)	2 (8.7)
10 店員	10 (3.8)	1 (0.4)	2 (2.5)	4 (4.9)	2 (4.3)	2 (4.3)						
11 工具	5 (1.9)	2 (0.8)	6 (7.4)	1 (1.2)	1 (2.1)		2 (10.5)	1 (5.3)			1 (4.3)	1 (4.3)
12 公務員	2 (0.8)				3 (6.4)	1 (2.1)	1 (5.3)	2 (10.5)				
13 風俗営業関係	11 (4.2)	3 (1.1)	1 (1.2)	1 (1.2)	2 (4.3)	2 (4.3)	2 (4.3)				1 (4.3)	1 (4.3)
14 飲食業	12 (4.6)	1 (0.4)	2 (2.5)		3 (6.4)	2 (4.3)	1 (5.3)		1 (11.1)		3 (13.0)	2 (8.7)
15 興業関係												
16 旅館業		2 (0.8)										
17 交通運輸	7 (2.7)	3 (1.1)	2 (2.5)	1 (1.2)	1 (2.1)	1 (2.1)			1 (11.1)	1 (11.1)		
18 土木建築業	32 (12.2)	16 (6.1)	12 (14.8)	4 (4.9)	4 (8.5)						1 (4.3)	
19 日雇い労働者	4 (1.5)			1 (1.2)	1 (2.1)							
20 その他の被雇用者	4 (1.5)	4 (1.5)		1 (1.2)			1 (2.1)	1 (5.3)				1 (4.3)
21 医療薬業関係	2 (0.8)	2 (0.8)			4 (8.5)	3 (6.4)	1 (5.3)				1 (4.3)	2 (8.7)
22 芸能関係	1 (0.4)	1 (0.4)							1 (11.1)		1 (4.3)	
24 小学生												
25 中学生	35 (13.4)		22 (27.2)		1 (2.1)							1 (4.3)
26 高校生	13 (5.0)	1 (0.4)	5 (6.2)	1 (1.2)	1 (2.1)		2 (10.5)	1 (5.3)				1 (4.3)
27 大学生	5 (1.9)	2 (0.8)			1 (2.1)	1 (2.1)	3 (15.8)					
28 各種学校生	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (1.2)					1 (5.3)				1 (4.3)
29 主婦		4 (1.5)		3 (3.7)	2 (4.3)	3 (6.4)	1 (5.3)			2 (22.2)		
30 家事手伝い		4 (1.5)										1 (4.3)
31 無職	43 (16.4)	150 (57.3)	8 (9.9)	46 (56.8)	4 (8.5)	26 (55.3)	1 (5.3)	9 (47.4)	1 (11.1)	4 (44.4)	2 (8.7)	11 (47.8)
32 不定	8 (3.1)	4 (1.5)	3 (3.7)		1 (2.1)						2 (8.7)	1 (4.3)
33 不明	25 (9.5)	22 (8.4)	10 (12.3)	9 (11.1)	1 (2.1)	3 (6.4)	1 (5.3)	2 (10.5)	2 (22.2)	1 (11.1)		
34 その他	23 (8.8)	24 (9.2)	5 (6.2)	6 (7.4)	6 (12.8)		3 (15.8)	1 (5.3)		1 (11.1)	4 (17.4)	2 (8.7)
計	262 (100.0)	262 (100.0)	81 (100.0)	81 (100.0)	47 (100.0)	47 (100.0)	19 (100.0)	19 (100.0)	9 (100.0)	9 (100.0)	23 (100.0)	23 (100.0)

表5-2 主たる使用薬物別にみた職業歴(薬物乱用前および現在)

	大麻		リタリン		その他		多剤(医薬品)		多剤(規制薬物)	
	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)
1 農林漁業										
2 商人(卸・小売り)							1 (3.8)	1 (3.8)		
3 不動産業					1 (5.6)					
4 金融業							1 (3.8)			
5 自営職人					1 (5.6)					
6 露天・行商	1 (7.7)	1 (7.7)							1 (4.5)	
7 その他自営業					1 (5.6)	1 (5.6)				1 (4.5)
8 団体役員										
9 会社員	1 (7.7)	1 (7.7)	4 (26.7)	2 (13.3)	1 (5.6)		2 (7.7)		2 (9.1)	1 (4.5)
10 店員					2 (11.1)		1 (3.8)	1 (3.8)		
11 工員					4 (22.2)	1 (5.6)				
12 公務員			2 (13.3)	3 (20.0)			1 (3.8)			
13 風俗営業関係	1 (7.7)		1 (6.7)	1 (6.7)	1 (5.6)	1 (5.6)	1 (3.8)			1 (4.5)
14 飲食業				1 (6.7)			3 (11.5)		2 (9.1)	
15 興業関係							1 (3.8)			
16 旅館業										
17 交通運輸	1 (7.7)	2 (15.4)								1 (4.5)
18 土木建築業	1 (7.7)				1 (5.6)				2 (9.1)	
19 日雇い労働者								1 (3.8)		1 (4.5)
20 その他の被雇用者	2 (15.4)	1 (7.7)			1 (5.6)	1 (5.6)	1 (3.8)			
21 医療薬業関係					2 (11.1)		1 (3.8)	1 (3.8)		
22 芸能関係										
24 小学生									1 (4.5)	
25 中学生							2 (7.7)		2 (9.1)	
26 高校生	1 (7.7)	1 (7.7)	2 (13.3)				1 (3.8)		2 (9.1)	
27 大学生	2 (15.4)		2 (13.3)		1 (5.6)		1 (3.8)	1 (3.8)	1 (4.5)	
28 各種学校生			1 (6.7)	1 (6.7)						
29 主婦						3 (16.7)	1 (3.8)	2 (7.7)		1 (4.5)
30 家事手伝い		1 (7.7)								
31 無職		3 (23.1)	2 (13.3)	6 (40.0)		3 (16.7)	1 (3.8)	12 (46.2)	2 (9.1)	14 (63.6)
32 不定				1 (6.7)	1 (5.6)	1 (5.6)			3 (13.6)	1 (4.5)
33 不明	2 (15.4)	2 (15.4)	1 (6.7)		3 (16.7)	2 (11.1)	6 (23.1)	5 (19.2)	2 (9.1)	1 (4.5)
34 その他	1 (7.7)	1 (7.7)			1 (5.6)	2 (11.1)	1 (3.8)	2 (7.7)	2 (9.1)	
計	13 (100.0)	13 (100.0)	15 (100.0)	15 (100.0)	18 (100.0)	18 (100.0)	26 (100.0)	26 (100.0)	22 (100.0)	22 (100.0)

表6 暴力団との関係(複数回答)

(主たる使用薬物)	乱用開始前		乱用開始後		これまでなし		不明		計	
	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
覚せい剤 (男)	55	(26.4%)	55	(26.4%)	56	(26.9%)	50	(24.0%)	208	(100.0%)
覚せい剤 (女)	14	(25.9%)	15	(27.8%)	14	(25.9%)	15	(27.8%)	54	(100.0%)
有機溶剤 (男)	4	(6.3%)	12	(18.8%)	33	(51.6%)	14	(21.9%)	64	(100.0%)
有機溶剤 (女)	3	(17.6%)	4	(23.5%)	9	(52.9%)	2	(11.8%)	17	(100.0%)
睡眠薬 (男)	2	(7.1%)	2	(7.1%)	20	(71.4%)	5	(17.9%)	28	(100.0%)
睡眠薬 (女)	1	(5.3%)	4	(21.1%)	11	(57.9%)	4	(21.1%)	19	(100.0%)
抗不安薬 (男)	2	(16.7%)			9	(75.0%)			12	(100.0%)
抗不安薬 (女)	2	(28.6%)			5	(71.4%)			7	(100.0%)
鎮痛薬 (男)	1	(20.0%)			2	(40.0%)	1	(20.0%)	5	(100.0%)
鎮痛薬 (女)					3	(75.0%)	1	(25.0%)	4	(100.0%)
鎮咳薬 (男)			1	(6.3%)	13	(81.3%)	2	(12.5%)	16	(100.0%)
鎮咳薬 (女)					6	(85.7%)	1	(14.3%)	7	(100.0%)
大麻 (男)	1	(10.0%)	1	(10.0%)	6	(60.0%)	2	(20.0%)	10	(100.0%)
大麻 (女)					1	(33.3%)	2	(66.7%)	3	(100.0%)
リタリン (男)	1	(10.0%)			9	(90.0%)			10	(100.0%)
リタリン (女)					5	(100.0%)			5	(100.0%)
その他 (男)			1	(8.3%)	9	(75.0%)	2	(16.7%)	12	(100.0%)
その他 (女)					3	(50.0%)	2	(33.3%)	6	(100.0%)
多剤 (男)	1	(11.1%)	3	(33.3%)	4	(44.4%)			9	(100.0%)
多剤 (医薬品) (女)	1	(5.9%)	2	(11.8%)	6	(35.3%)	6	(35.3%)	17	(100.0%)
多剤 (規制薬物) (男)	3	(18.8%)	2	(12.5%)	7	(43.8%)	5	(31.3%)	16	(100.0%)
多剤 (規制薬物) (女)	1	(16.7%)	1	(16.7%)	1	(16.7%)	3	(50.0%)	6	(100.0%)
計 (男)	70	(17.9%)	77	(19.7%)	168	(43.1%)	81	(20.8%)	390	(100.0%)
計 (女)	22	(15.2%)	26	(17.9%)	64	(44.1%)	36	(24.8%)	145	(100.0%)
男女計	92	(17.2%)	103	(19.3%)	232	(43.4%)	117	(21.9%)	535	(100.0%)

表7 非行グループとの関係(複数回答)

	乱用開始前 にあり		乱用開始後 にあり		これまでなし		不明		計	
(主たる使用薬物)										
覚せい剤 (男)	91	(43.8%)	34	(16.3%)	48	(23.1%)	51	(24.5%)	208	(100.0%)
(女)	22	(40.7%)	11	(20.4%)	11	(20.4%)	16	(29.6%)	54	(100.0%)
有機溶剤 (男)	33	(51.6%)	22	(34.4%)	13	(20.3%)	12	(18.8%)	64	(100.0%)
(女)	10	(58.8%)	7	(41.2%)	3	(17.6%)	3	(17.6%)	17	(100.0%)
睡眠薬 (男)			1	(3.6%)	18	(64.3%)	8	(28.6%)	28	(100.0%)
(女)	3	(15.8%)			13	(68.4%)	3	(15.8%)	19	(100.0%)
抗不安薬 (男)	1	(8.3%)			9	(75.0%)	1	(5.3%)	12	(100.0%)
(女)	2	(28.6%)			3	(42.9%)	2	(28.6%)	7	(100.0%)
鎮痛薬 (男)	1	(20.0%)			2	(40.0%)	1	(20.0%)	5	(100.0%)
(女)					3	(75.0%)	1	(25.0%)	4	(100.0%)
鎮咳薬 (男)	4	(25.0%)			10	(62.5%)	2	(12.5%)	16	(100.0%)
(女)	3	(42.9%)	1	(14.3%)	3	(42.9%)	1	(14.3%)	7	(100.0%)
大麻 (男)	3	(30.0%)	1	(10.0%)	4	(40.0%)	2	(20.0%)	10	(100.0%)
(女)					1	(33.3%)	2	(66.7%)	3	(100.0%)
リタリン (男)	1	(10.0%)			8	(80.0%)	1	(10.0%)	10	(100.0%)
(女)					5	(100.0%)			5	(100.0%)
その他 (男)	2	(16.7%)			8	(66.7%)	2	(16.7%)	12	(100.0%)
(女)					2	(33.3%)	3	(50.0%)	6	(100.0%)
多剤 (男)	2	(22.2%)			5	(55.6%)			9	(100.0%)
(医薬品) (女)	3	(17.6%)			5	(29.4%)	6	(35.3%)	17	(100.0%)
多剤 (男)	7	(43.8%)	1	(6.3%)	6	(37.5%)	3	(18.8%)	16	(100.0%)
(規制薬物) (女)	1	(16.7%)	1	(16.7%)	1	(16.7%)	4	(66.7%)	6	(100.0%)
計 (男)	145	(37.2%)	59	(15.1%)	131	(33.6%)	83	(21.3%)	390	(100.0%)
(女)	44	(30.3%)	20	(13.8%)	50	(34.5%)	41	(28.3%)	145	(100.0%)
男女計	189	(35.3%)	79	(14.8%)	181	(33.8%)	124	(23.2%)	535	(100.0%)

表8 薬物乱用者との関係(複数回答)

	乱用開始前 にあり		乱用開始後 にあり		これまでなし		不明		計	
覚せい剤 (男)	97	(46.6%)	77	(37.0%)	10	(4.8%)	50	(24.0%)	208	(100.0%)
(女)	28	(51.9%)	23	(42.6%)			13	(24.1%)	54	(100.0%)
有機溶剤 (男)	29	(45.3%)	27	(42.2%)	9	(14.1%)	13	(20.3%)	64	(100.0%)
(女)	12	(70.6%)	8	(47.1%)	1	(5.9%)	0		17	(100.0%)
睡眠薬 (男)			2	(7.1%)	18	(64.3%)	7	(25.0%)	28	(100.0%)
(女)	4	(21.1%)	4	(21.1%)	9	(47.4%)	3	(15.8%)	19	(100.0%)
抗不安薬 (男)	1	(8.3%)	1	(8.3%)	8	(66.7%)	1	(8.3%)	12	(100.0%)
(女)	3	(42.9%)	1	(14.3%)	2	(28.6%)	1	(14.3%)	7	(100.0%)
鎮痛薬 (男)					2	(40.0%)	2	(40.0%)	5	(100.0%)
(女)					3	(75.0%)	1	(25.0%)	4	(100.0%)
鎮咳薬 (男)	7	(43.8%)	3	(18.8%)	6	(37.5%)	1	(6.3%)	16	(100.0%)
(女)	4	(57.1%)	2	(28.6%)	1	(14.3%)	1	(14.3%)	7	(100.0%)
大麻 (男)	5	(50.0%)	4	(40.0%)			2	(20.0%)	10	(100.0%)
(女)	1	(33.3%)					2	(66.7%)	3	(100.0%)
リタリン (男)	1	(10.0%)	2	(20.0%)	7	(70.0%)	1	(10.0%)	10	(100.0%)
(女)	1	(20.0%)	1	(20.0%)	2	(40.0%)	1	(20.0%)	5	(100.0%)
その他 (男)	2	(16.7%)	2	(16.7%)	6	(50.0%)	2	(16.7%)	12	(100.0%)
(女)	2	(33.3%)	1	(16.7%)			2	(33.3%)	6	(100.0%)
多剤 (男)	3	(33.3%)	1	(11.1%)	3	(33.3%)			9	(100.0%)
(医薬品) (女)	2	(11.8%)	2	(11.8%)	4	(23.5%)	6	(35.3%)	17	(100.0%)
多剤 (男)	4	(25.0%)	5	(31.3%)	4	(25.0%)	3	(18.8%)	16	(100.0%)
(規制薬物) (女)	2	(33.3%)	2	(33.3%)			2	(33.3%)	6	(100.0%)
計 (男)	149	(38.2%)	124	(31.8%)	73	(18.7%)	82	(21.0%)	390	(100.0%)
(女)	59	(40.7%)	44	(30.3%)	22	(15.2%)	32	(22.1%)	145	(100.0%)
男女計	208	(38.9%)	168	(31.4%)	95	(17.8%)	114	(21.3%)	535	(100.0%)

表9 矯正施設への入所歴の有無

主たる使用薬物	(性)	あり	なし	不明	計
覚せい剤	(男)	126 (60.6%)	54 (26.0%)	28 (13.5%)	208 (100.0%)
	(女)	25 (46.3%)	17 (31.5%)	12 (22.2%)	54 (100.0%)
有機溶剤	(男)	25 (39.1%)	28 (43.8%)	11 (17.2%)	64 (100.0%)
	(女)	6 (35.3%)	11 (64.7%)		17 (100.0%)
睡眠薬	(男)	4 (14.3%)	20 (71.4%)	4 (14.3%)	28 (100.0%)
	(女)	1 (5.3%)	16 (84.2%)	2 (10.5%)	19 (100.0%)
抗不安薬	(男)	1 (8.3%)	10 (83.3%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)
	(女)		7 (100.0%)		7 (100.0%)
鎮痛薬	(男)		3 (60.0%)	2 (40.0%)	5 (100.0%)
	(女)		3 (75.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
鎮咳薬	(男)	2 (12.5%)	10 (62.5%)	4 (25.0%)	16 (100.0%)
	(女)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
大麻	(男)		9 (90.0%)	1 (10.0%)	10 (100.0%)
	(女)		1 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)
リタリン	(男)	2 (20.0%)	8 (80.0%)		10 (100.0%)
	(女)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
その他	(男)	3 (25.0%)	7 (58.3%)	2 (16.7%)	12 (100.0%)
	(女)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	6 (100.0%)
多剤 (医薬品)	(男)	4 (44.4%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)
	(女)	3 (17.6%)	6 (35.3%)	8 (47.1%)	17 (100.0%)
多剤 (規制薬物)	(男)	8 (50.0%)	6 (37.5%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)
	(女)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	6 (100.0%)
計	(男)	175 (44.9%)	158 (40.5%)	57 (14.6%)	390 (100.0%)
	(女)	42 (29.0%)	70 (48.3%)	33 (22.8%)	145 (100.0%)
男女計		217 (40.6%)	228 (42.6%)	90 (16.8%)	535 (100.0%)

表10 - 1 補導・逮捕歴の有無

		薬物乱用前 にあり	薬物乱用後に あり	これまでなし	不明	計
覚せい剤	(男)	46 (22.1%)	137 (65.9%)	28 (13.5%)	19 (9.1%)	208 (100.0%)
	(女)	6 (11.1%)	29 (53.7%)	10 (18.5%)	8 (14.8%)	54 (100.0%)
有機溶剤	(男)	15 (23.4%)	40 (62.5%)	7 (10.9%)	9 (14.1%)	64 (100.0%)
	(女)	3 (17.6%)	11 (64.7%)	6 (35.3%)	1 (5.9%)	17 (100.0%)
睡眠薬	(男)	4 (14.3%)	6 (21.4%)	15 (53.6%)	4 (14.3%)	28 (100.0%)
	(女)		2 (10.5%)	15 (78.9%)	1 (5.3%)	19 (100.0%)
抗不安薬	(男)	1 (8.3%)		9 (75.0%)	1 (8.3%)	12 (100.0%)
	(女)		1 (14.3%)	6 (85.7%)		7 (100.0%)
鎮痛薬	(男)			2 (40.0%)	2 (40.0%)	5 (100.0%)
	(女)		1 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	4 (100.0%)
鎮咳薬	(男)		6 (37.5%)	8 (50.0%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)
	(女)		4 (57.1%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
大麻	(男)		1 (10.0%)	6 (60.0%)	3 (30.0%)	10 (100.0%)
	(女)			1 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)
リタリン	(男)		3 (30.0%)	7 (70.0%)		10 (100.0%)
	(女)		2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
その他	(男)	1 (8.3%)	3 (25.0%)	6 (50.0%)	2 (16.7%)	12 (100.0%)
	(女)			2 (33.3%)	2 (33.3%)	6 (100.0%)
多剤 (医薬品)	(男)		3 (33.3%)	3 (33.3%)		9 (100.0%)
	(女)		3 (17.6%)	6 (35.3%)	4 (23.5%)	17 (100.0%)
多剤 (規制薬物)	(男)	2 (12.5%)	11 (68.8%)	4 (25.0%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)
	(女)		4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)
計	(男)	69 (17.7%)	210 (53.8%)	95 (24.4%)	44 (11.3%)	390 (100.0%)
	(女)	9 (6.2%)	57 (39.3%)	50 (34.5%)	24 (16.6%)	145 (100.0%)
男女計		78 (14.6%)	267 (49.9%)	145 (27.1%)	68 (12.7%)	535 (100.0%)

表10-2 薬物乱用開始前後の補導・逮捕内容(件数)

		補導・逮捕の内容						計(実人数)
		窃盗	傷害・暴行	恐喝	強盗	薬物関連	その他	
覚せい剤	(前)	14 (26.9%)	17 (32.7%)	8 (15.4%)	2 (3.8%)	8 (15.4%)	10 (19.2%)	52
	(後)	18 (10.8%)	39 (23.5%)	14 (8.4%)	4 (2.4%)	126 (75.9%)	20 (12.0%)	166
有機溶剤	(前)	9 (50.0%)	3 (16.7%)	2 (11.1%)	0	5 (27.8%)	2 (11.1%)	18
	(後)	8 (15.7%)	11 (21.6%)	3 (5.9%)	1 (2.0%)	34 (66.7%)	8 (15.7%)	51
大麻	(前)	0	0	0	0	0	0	0
	(後)	0	0	1 (100.0%)	0	0	0	1
睡眠薬	(前)	0	2 (50.0%)	0	0	1 (25.0%)	1 (25.0%)	4
	(後)	2 (25.0%)	5 (62.5%)	0	0	0	1 (12.5%)	8
抗不安薬	(前)	0	1 (100.0%)	0	0	0	0	1
	(後)	0	0	0	0	1 (100.0%)	0	1
鎮痛薬	(前)	0	0	0	0	0	0	0
	(後)	1 (100.0%)	0	0	0	0	0	1
鎮咳薬	(前)	0	0	0	0	0	0	0
	(後)	7 (70.0%)	0	0	0	2 (20.0%)	0	10
リタリン	(前)	0	0	0	0	0	0	0
	(後)	2 (40.0%)	0	1 (20.0%)	0	2 (40.0%)	0	5
多剤 (規制薬物)	(前)	0	0	1 (50.0%)	0	2 (100.0%)	0	2
	(後)	2 (13.3%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	0	6 (40.0%)	1 (6.7%)	15
多剤 (医薬品)	(前)	0	0	0	0	0	0	0
	(後)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	0	0	2 (33.3%)	1 (16.7%)	6
その他	(前)	1 (100.0%)	0	0	0	0	0	1
	(後)	1 (33.3%)	0	0	0	2 (66.7%)	0	3
計	(前)	24 (30.8%)	23 (29.5%)	11 (14.1%)	2 (2.6%)	16 (20.5%)	13 (16.7%)	78
	(後)	43 (16.1%)	58 (21.7%)	20 (7.5%)	5 (1.9%)	175 (65.5%)	31 (11.6%)	267

表11 配偶関係

		未婚	同棲	内縁	既婚	別居	離婚	死別	再婚	その他	不明	計
覚せい剤	(男)	89 (42.8%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	17 (8.2%)	4 (1.9%)	68 (32.7%)	1	1 (0.5%)	2	23 (11.1%)	208
	(女)	24 (44.4%)	2 (3.7%)	3 (5.6%)	3 (5.6%)	2 (3.7%)	10 (18.5%)	0	1 (1.9%)	0	9 (16.7%)	54
有機溶剤	(男)	41 (64.1%)	2 (3.1%)	1 (1.6%)	3 (4.7%)	0	9 (14.1%)	0	0	0	8 (12.5%)	64
	(女)	10 (58.8%)	2 (11.8%)	0	2 (11.8%)	0	3 (17.6%)	0	0	0	0	17
睡眠薬	(男)	13 (46.4%)	1 (3.6%)	0	5 (17.9%)	0	5 (17.9%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)	0	1 (3.6%)	28
	(女)	5 (26.3%)	0	1 (5.3%)	4 (21.1%)	0	3 (15.8%)	4 (21.1%)	0	0	2 (10.5%)	19
抗不安薬	(男)	7 (58.3%)	0	0	3 (25.0%)	0	0	0	1 (8.3%)	0	1 (8.3%)	12
	(女)	3 (42.9%)	0	0	2 (28.6%)	0	2 (28.6%)	0	0	0	0	7
鎮痛薬	(男)	2 (40.0%)	0	0	1 (20.0%)	0	0	1 (20.0%)	0	0	1 (20.0%)	5
	(女)	1 (25.0%)	0	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0	0	1 (25.0%)	0	0	0	4
鎮咳薬	(男)	8 (50.0%)	0	1 (6.3%)	3 (18.8%)	0	1 (6.3%)	0	0	0	3 (18.8%)	16
	(女)	6 (85.7%)	0	0	1 (14.3%)	0	0	0	0	0	0	7
大麻	(男)	8 (80.0%)	0	1 (10.0%)	1 (10.0%)	0	0	0	0	0	0	10
	(女)	3 (100.0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
リタリン	(男)	7 (70.0%)	0	0	3 (30.0%)	0	0	0	0	0	0	10
	(女)	3 (60.0%)	0	0	0	0	1 (20.0%)	0	0	0	1 (20.0%)	5
その他	(男)	6 (50.0%)	0	0	3 (25.0%)	0	1 (8.3%)	0	0	0	2 (16.7%)	12
	(女)	0	0	0	2 (33.3%)	0	1 (16.7%)	0	0	0	3 (50.0%)	6
多剤 (医薬品)	(男)	4 (44.4%)	0	0	1 (11.1%)	0	2 (22.2%)	0	0	0	2 (22.2%)	9
	(女)	5 (29.4%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)	0	2 (11.8%)	0	0	0	6 (35.3%)	17
多剤 (規制薬物)	(男)	10 (62.5%)	0	0	3 (18.8%)	1 (6.3%)	2 (12.5%)	0	0	0	0	16
	(女)	4 (66.7%)	0	0	0	0	1 (16.7%)	0	1 (16.7%)	0	0	6
計	(男)	195 (50.0%)	5 (1.3%)	4 (1.0%)	43 (11.0%)	5 (1.3%)	88 (22.6%)	4 (1.0%)	3 (0.8%)	2 (0.5%)	41 (10.5%)	390
	(女)	64 (44.1%)	5 (3.4%)	6 (4.1%)	17 (11.7%)	2 (1.4%)	23 (15.9%)	5 (3.4%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	21 (14.5%)	145
男女計		259 (48.4%)	10 (1.9%)	10 (1.9%)	60 (11.2%)	7 (1.3%)	111 (20.7%)	9 (1.7%)	5 (0.9%)	2 (0.4%)	62 (11.6%)	535

表12-1 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	覚せい剤 (覚せい剤)		有機溶剤 (有機溶剤)		睡眠薬 (睡眠薬)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢(歳)						
<10			1 (1.6%)			
10~14	3 (1.4%)	2 (3.7%)	25 (39.1%)	6 (35.3%)		
15~19	72 (34.6%)	28 (51.9%)	26 (40.6%)	7 (41.2%)	1 (3.6%)	3 (15.8%)
20~24	70 (33.7%)	14 (25.9%)	1 (1.6%)	1 (5.9%)	4 (14.3%)	4 (21.1%)
25~29	24 (11.5%)	4 (7.4%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	4 (14.3%)	3 (15.8%)
30~34	12 (5.8%)	1 (1.9%)	2 (3.1%)		4 (14.3%)	1 (5.3%)
35~39	6 (2.9%)		1 (1.6%)		5 (17.9%)	1 (5.3%)
40~44	1 (0.5%)			1 (5.9%)	1 (3.6%)	2 (10.5%)
45~49			1 (1.6%)		2 (7.1%)	
50~54					1 (3.6%)	
55~59						
60~64					1 (3.6%)	
65~						1 (5.3%)
不明	20 (9.6%)	5 (9.3%)	7 (10.9%)	1 (5.9%)	5 (17.9%)	4 (21.1%)
計	208 (100.0%)	54 (100.0%)	64 (100.0%)	17 (100.0%)	28 (100.0%)	19 (100.0%)
平均年齢(男女別)	21.7 ± 5.2	19.5 ± 4.2	16.6 ± 6.3	17.6 ± 7.2	32.7 ± 10.9	30.5 ± 18.3
平均年齢(全体)	21.2 ± 5.1		16.8 ± 6.5		31.8 ± 14.1	

表12-2 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	抗不安薬 (抗不安薬)		鎮痛薬 (鎮痛薬)		鎮咳薬 (鎮咳薬)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢(歳)						
10~14		1 (14.3%)				1 (14.3%)
15~19	1 (8.3%)	1 (14.3%)	1 (20.0%)		5 (31.3%)	2 (28.6%)
20~24	3 (25.0%)	1 (14.3%)		1 (25.0%)	4 (25.0%)	2 (28.6%)
25~29		2 (28.6%)			4 (25.0%)	
30~34	3 (25.0%)			1 (25.0%)		1 (14.3%)
35~39	1 (8.3%)					1 (14.3%)
40~44	3 (25.0%)					
45~49			1 (20.0%)	1 (25.0%)		
50~54					1 (6.3%)	
55~59			1 (20.0%)			
不明	1 (8.3%)	2 (28.6%)	2 (40.0%)	1 (25.0%)	2 (12.5%)	
計	12 (100.0%)	7 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (100.0%)	16 (100.0%)	7 (100.0%)
平均年齢(男女別)	30.2 ± 8.3	21.4 ± 6.0	39.7 ± 18.6	34.0 ± 13.5	23.3 ± 9.0	23.3 ± 9.4
平均年齢(全体)	27.4 ± 8.6		36.8 ± 14.8		23.3 ± 8.9	

表12-3 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	大麻 (大麻)		その他 (その他)	
	男性	女性	男性	女性
年齢(歳)				
15~19	7 (70.0%)	1 (33.3%)		1 (20.0%)
20~24	2 (20.0%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	1 (20.0%)
25~29		1 (33.3%)	1 (11.1%)	1 (20.0%)
30~34			2 (22.2%)	
35~39			1 (11.1%)	
45~49			2 (22.2%)	
50~54				1 (20.0%)
55~59				1 (20.0%)
不明	1 (10.0%)	1 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)
計	10 (100.0%)	3 (100.0%)	9 (100.0%)	5 (100.0%)
平均年齢(男女別)	20.7 ± 4.7	20.5 ± 6.4	31.0 ± 9.1	35.2 ± 18.1
平均年齢(全体)	20.7 ± 4.7		32.4 ± 12.3	

表12-4 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	多剤(医薬品)			
	(睡眠薬)		(抗不安薬)	
年齢(歳)	男性	女性	男性	女性
15~19		2 (16.7%)		3 (25.0%)
20~24		3 (25.0%)		2 (16.7%)
25~29	1 (50.0%)	2 (16.7%)	1 (50.0%)	2 (16.7%)
30~34		3 (25.0%)		3 (25.0%)
35~39				
40~44		1 (8.3%)		1 (8.3%)
不明	1 (50.0%)	1 (8.3%)	1 (50.0%)	1 (8.3%)
計	2 (100.0%)	12 (100.0%)	2 (100.0%)	12 (100.0%)
平均年齢(男女別)	28.0	26.8 ± 6.7	28.0	26.4 ± 7.1
平均年齢(全体)	26.9 ± 6.4		26.5 ± 6.8	

表12-5 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	多剤(規制薬物)					
	(覚せい剤)		(有機溶剤)		(大麻)	
年齢(歳)	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10~14	1 (14.3%)		2 (50.0%)			
15~19	1 (14.3%)		1 (25.0%)	1 (100.0%)	1 (33.3%)	
20~24	3 (42.9%)		1 (25.0%)		1 (33.3%)	
25~29	1 (14.3%)					
30~34		1 (50.0%)				
35~39					1 (33.3%)	
不明	1 (14.3%)	1 (50.0%)				2 (100.0%)
計	7 (100.0%)	2 (100.0%)	4 (100.0%)	1 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)
平均年齢(男女別)	20.5 ± 4.3	33.0	15.8 ± 2.8	15.0	25.3 ± 11.4	-
平均年齢(全体)	22.3 ± 6.2		15.7 ± 2.5		25.3 ± 11.4	

表13 主たる薬物別にみた薬物使用期間

使用期間(年)	主たる使用薬物						
	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大麻
平均	12.0 ± 9.0	12.3 ± 8.1	8.8 ± 8.6	7.6 ± 6.6	7.3 ± 5.4	14.1 ± 7.9	5.2 ± 5.1
<1	5 (1.9%)	1 (1.2%)	0	2 (10.5%)	0	1 (4.3%)	1 (7.7%)
1~2	14 (5.3%)	4 (4.9%)	3 (6.4%)	0	0	1 (4.3%)	2 (15.4%)
2~3	12 (4.6%)	3 (3.7%)	6 (12.8%)	2 (10.5%)	2 (22.2%)	0	1 (15.4%)
3~4	7 (2.7%)	5 (6.2%)	2 (4.3%)	2 (10.5%)	0	0	2 (15.4%)
4~5	6 (2.3%)	3 (3.7%)	2 (4.3%)	0	0	0	1 (7.7%)
5~10	45 (17.2%)	15 (18.5%)	8 (17.0%)	4 (21.1%)	2 (22.2%)	4 (17.4%)	3 (23.1%)
10~15	44 (16.8%)	5 (6.2%)	4 (8.5%)	2 (10.5%)	1 (11.1%)	2 (8.7%)	1 (7.7%)
15~20	26 (9.9%)	14 (17.3%)	4 (8.5%)	2 (10.5%)	1 (11.1%)	3 (13.0%)	1 (7.7%)
20~25	22 (8.4%)	12 (14.8%)	0	1 (5.3%)	0	2 (8.7%)	0
25~30	6 (2.3%)	2 (2.5%)	1 (2.1%)	0	0	3 (13.0%)	0
30~35	8 (3.1%)	1 (1.2%)	0	0	0	2 (8.7%)	0
35	3 (1.1%)	0	1 (2.1%)	0	0	0	0
不明	64 (24.4%)	16 (19.8%)	16 (34.0%)	4 (21.1%)	3 (33.3%)	5 (21.7%)	1 (7.7%)
計	262 (100.0%)	81 (100.0%)	47 (100.0%)	19 (100.0%)	9 (100.0%)	23 (100.0%)	13 (100.0%)

表14-1 主たる使用薬物別にみた併用薬物と使用開始年齢

(併用薬物)	主たる使用薬物			
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤(規制薬物)
なし	81 (30.9%)	43 (53.1%)	3 (23.1%)	0
覚せい剤	262 (100.0%) 21.2 ± 5.1	30 (37.0%) 21.8 ± 5.8	6 (46.2%) 22.8 ± 4.6	17 (77.3%) 22.4 ± 6.6
有機溶剤	143 (54.6%) 15.5 ± 2.9	81 (100.0%) 16.8 ± 6.5	1 (7.7%) 15	14 (63.6%) 16.1 ± 5.0
睡眠薬	28 (10.7%) 27.5 ± 10.2	9 (11.1%) 25.0 ± 9.5	2 (15.4%) 23	4 (18.2%) 34.0 ± 14.7
抗不安薬	17 (6.5%) 29.9 ± 15.0	5 (6.2%) 29.5 ± 10.6	0 (0.0%)	4 (18.2%) 21.7 ± 0.6
鎮痛薬	7 (2.7%) 22.8 ± 11.7	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	9 (3.4%) 25.5 ± 10.5	2 (2.5%) 18.5 ± 2.1	0 (0.0%)	1 (4.5%) -
リタリン	6 (2.3%) 25.3 ± 7.9	1 (1.2%) -	1 (7.7%) 21	3 (13.6%) 27.0 ± 10.4
大麻	92 (35.1%) 21.2 ± 5.7	14 (17.3%) 20.9 ± 4.3	13 (100.0%) 20.7 ± 4.7	12 (54.5%) 20.5 ± 5.2
コカイン	29 (11.1%) 23.3 ± 5.3	1 (1.2%) -	1 (7.7%) 34	3 (13.6%) 23.3 ± 2.1
ヘロイン	9 (3.4%) 22.0 ± 5.4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%) 21.0

(複数回答)

表14-2 主たる使用薬物別にみた併用薬物と使用開始年齢

(併用薬物)	主たる使用薬物					
	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	多剤(医薬品)
なし	25 (53.2%)	6 (31.6%)	6 (66.7%)	11 (47.8%)	4 (26.7%)	0
覚せい剤	6 (12.8%) 22.3 ± 4.6	2 (10.5%) 21.5 ± 2.1	0 (0.0%)	4 (17.4%) 23.5 ± 5.0	4 (26.7%) 25.5 ± 6.0	6 (23.1%) 19.2 ± 3.4
有機溶剤	3 (6.4%) 14.3 ± 2.3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (17.4%) 14.3 ± 2.1	2 (13.3%) -	5 (19.2%) 14.6 ± 0.9
睡眠薬	47 (100.0%) 31.8 ± 14.1	10 (52.6%) 28.1 ± 9.7	3 (33.3%) 53.0 ± 2.8	2 (8.7%) 20.0	6 (40.0%) 24.4 ± 5.7	25 (96.2%) 24.2 ± 6.2
抗不安薬	11 (23.4%) 30.5 ± 6.4	19 (100.0%) 27.4 ± 8.6	2 (22.2%) 51.0	3 (13.0%) 29.5 ± 13.4	6 (40.0%) 23.8 ± 6.4	24 (92.3%) 23.3 ± 5.8
鎮痛薬	4 (8.5%) 28.3 ± 3.4	3 (15.8%) 20.5 ± 7.8	9 (100.0%) 36.8 ± 14.8	1 (4.3%) 20.0	0 (0.0%)	3 (11.5%) 24.5 ± 3.5
鎮咳薬	5 (10.6%) 24.2 ± 10.1	1 (5.3%) 28.0	0 (0.0%)	23 (100.0%) 23.3 ± 8.9	1 (6.7%) 17.0	4 (15.4%) 20.8 ± 2.1
リタリン	2 (4.3%) 29.0 ± 2.8	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.3%) 30.0	15 (100.0%) 22.9 ± 5.4	1 (3.8%) 33
大麻	5 (10.6%) 20.6 ± 5.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (26.1%) 15.8 ± 1.9	2 (13.3%) 28.5 ± 0.7	2 (7.7%) 17.5 ± 2.1
コカイン	1 (2.1%) 22.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.3%) 20.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

(複数回答)

表15 - 1 主たる使用薬物別にみた過去1年間における使用薬物

(使用薬物)	主たる使用薬物				
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤(規制薬物)	その他
覚せい剤	75 (28.6%)	5 (6.2%)	2 (15.4%)	5 (22.7%)	0 (0.0%)
有機製剤	7 (2.7%)	38 (46.9%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	0 (0.0%)
大麻	13 (5.0%)	0 (0.0%)	7 (53.8%)	5 (22.7%)	1 (5.6%)
コカイン	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (33.3%)
MDMA	4 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	2 (9.1%)	0 (0.0%)
マジックマッシュルーム	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
LSD	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
睡眠薬	11 (4.2%)	1 (1.2%)	1 (7.7%)	2 (9.1%)	0 (0.0%)
抗不安薬	7 (2.7%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)	2 (9.1%)	1 (5.6%)
鎮痛薬	7 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)
鎮咳薬	3 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)
リタリン	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)
薬物別計	262 (100.0%)	81 (100.0%)	13 (100.0%)	22 (100.0%)	18 (100.0%)

表15 - 2 主たる使用薬物別にみた過去1年間における使用薬物

(使用薬物)	主たる使用薬物					
	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	多剤(医薬品)
覚せい剤	1 (2.1%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)
有機製剤	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
大麻	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
コカイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
MDMA	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
マジックマッシュルーム	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
LSD	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
睡眠薬	36 (76.6%)	10 (52.6%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	5 (33.3%)	15 (57.7%)
抗不安薬	6 (12.8%)	18 (94.7%)	2 (22.2%)	1 (4.3%)	5 (33.3%)	15 (57.7%)
鎮痛薬	4 (8.5%)	3 (15.8%)	9 (100.0%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)
鎮咳薬	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (56.5%)	1 (6.7%)	1 (3.8%)
リタリン	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (66.7%)	0 (0.0%)
薬物別計	47 (100.0%)	19 (100.0%)	9 (100.0%)	23 (100.0%)	15 (100.0%)	26 (100.0%)

表16 主たる使用薬物別にみた喫煙歴

	喫煙歴あり	禁煙中	喫煙歴なし	不明・記載なし	計	平均年齢
(主たる使用薬物)						
覚せい剤	216 (82.4%)	8 (3.1%)	5 (1.9%)	33 (12.6%)	262 (100.0%)	15.3 ± 2.9
有機溶剤	67 (82.7%)	2 (2.5%)	1 (1.2%)	11 (13.6%)	81 (100.0%)	14.8 ± 3.3
大麻	8 (61.5%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)	17.0 ± 1.6
睡眠薬	32 (68.1%)	3 (6.4%)	6 (12.8%)	6 (12.8%)	47 (100.0%)	18.8 ± 4.7
抗不安薬	12 (63.2%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	5 (26.3%)	19 (100.0%)	15.6 ± 1.8
鎮痛薬	7 (77.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)	18.5 ± 2.1
鎮咳薬	17 (73.9%)	1 (4.3%)	1 (4.3%)	4 (17.4%)	23 (100.0%)	16.0 ± 2.3
リタリン	9 (60.0%)	1 (6.7%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)	15 (100.0%)	15.5 ± 0.6
多剤(規制薬物)	20 (76.9%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	5 (19.2%)	26 (100.0%)	15.4 ± 1.5
多剤(医薬品)	13 (59.1%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	6 (27.3%)	22 (100.0%)	15.2 ± 3.2
その他	9 (50.0%)	2 (11.1%)	2 (11.1%)	5 (27.8%)	18 (100.0%)	20.0 ± 1.0
計	410 (76.6%)	20 (3.7%)	25 (4.7%)	80 (15.0%)	535 (100.0%)	15.6 ± 3.1

表17 主たる使用薬物別にみた飲酒歴

	飲酒歴あり	禁酒中	飲酒歴なし	不明・記載なし	計	平均年齢
覚せい剤	169 (64.5%)	33 (12.6%)	21 (8.0%)	39 (14.9%)	262 (100.0%)	16.2 ± 2.7
有機溶剤	54 (66.7%)	5 (6.2%)	9 (11.1%)	13 (16.0%)	81 (100.0%)	16.3 ± 2.8
大麻	6 (46.2%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	13 (100.0%)	17.3 ± 2.2
睡眠薬	21 (44.7%)	6 (12.8%)	10 (21.3%)	10 (21.3%)	47 (100.0%)	17.9 ± 3.7
抗不安薬	10 (52.6%)	1 (5.3%)	4 (21.1%)	4 (21.1%)	19 (100.0%)	15.9 ± 1.9
鎮痛薬	5 (55.6%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	3 (33.3%)	9 (100.0%)	19.0 ± 1.2
鎮咳薬	17 (73.9%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	4 (17.4%)	23 (100.0%)	16.3 ± 2.2
リタリン	8 (53.3%)	0 (0.0%)	5 (33.3%)	2 (13.3%)	15 (100.0%)	17.8 ± 1.3
多剤(規制薬物)	15 (57.7%)	3 (11.5%)	4 (15.4%)	4 (15.4%)	26 (100.0%)	20.8 ± 12.1
多剤(医薬品)	11 (50.0%)	1 (4.5%)	5 (22.7%)	5 (22.7%)	22 (100.0%)	15.0 ± 5.7
その他	9 (50.0%)	2 (11.1%)	2 (11.1%)	5 (27.8%)	18 (100.0%)	19.3 ± 4.5
計	325 (60.7%)	57 (10.7%)	61 (11.4%)	92 (17.2%)	535 (100.0%)	16.6 ± 2.9

表18 薬物別にみた乱用開始から依存に至る期間(月)

	薬物別LOTAD*												
	覚せい剤	有機製剤	大麻	コカイン	ヘロイン	MDMA	マジックマッシュルーム	LSD	睡眠剤	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン
平均	30.2	19.5	32.7	7.0	6.5	10.9	6.5	20.0	28.7	17.7	23.3	22.6	9.2
S.D.	50.2	39.7	53.2	7.1	6.4	15.3	7.8	6.9	36.2	19.2	49.4	30.5	9.3
報告症例数	141	94	17	2	4	6	2	3	38	27	8	15	13

表19 初回使用薬物

	n	%
有機溶剤	237	(44.3%)
覚せい剤	102	(19.1%)
睡眠薬	54	(10.1%)
大麻	35	(6.5%)
抗不安薬	17	(3.2%)
鎮咳薬	17	(3.2%)
リタリン	13	(2.4%)
その他	11	(2.1%)
鎮痛薬	9	(1.7%)
ヘロイン	6	(1.1%)
MDMA(エクスタシー)	5	(0.9%)
不明・記載なし	29	(5.4%)
合計	535	(100.0%)

表20-1 薬物初回使用の動機(複数回答)

(動機)	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
誘われて	96 (46.2%)	27 (50.0%)	32 (50.0%)	9 (52.9%)	3 (10.7%)	3 (15.8%)	1 (8.3%)	1 (14.3%)	0	0
刺激を求めて	50 (24.0%)	5 (9.3%)	11 (17.2%)	1 (5.9%)	0	0	1 (8.3%)	1 (14.3%)	0	0
好奇心・興味から	101 (48.6%)	18 (33.3%)	26 (40.6%)	11 (64.7%)	2 (7.1%)	4 (21.1%)	1 (8.3%)	0	0	0
断り切れずに	17 (8.2%)	6 (11.1%)	3 (4.7%)	3 (17.6%)	1 (3.6%)	1 (5.3%)	0	1 (14.3%)	0	0
自暴自棄になって	6 (2.9%)	1 (1.9%)	2 (3.1%)	3 (17.6%)	0	2 (10.5%)	0	0	0	0
覚醒効果を求めて	7 (3.4%)	1 (1.9%)	1 (1.6%)	0	0	0	0	0	0	0
疲労の除去	6 (2.9%)	0	0	0	0	0	0	1 (14.3%)	0	0
性的効果を求めて	3 (1.4%)	5 (9.3%)	0	0	0	0	0	0	0	0
ストレス解消	18 (8.7%)	2 (3.7%)	1 (1.6%)	2 (11.8%)	1 (3.6%)	2 (10.5%)	3 (25.0%)	1 (14.3%)	0	0
抑うつ気分の軽減	6 (2.9%)	0	1 (1.6%)	0	3 (10.7%)	1 (5.3%)	4 (33.3%)	1 (14.3%)	0	1 (25.0%)
不安の軽減	6 (2.9%)	2 (3.7%)	1 (1.6%)	2 (11.8%)	8 (28.6%)	6 (31.6%)	9 (75.0%)	2 (28.6%)	0	1 (25.0%)
不眠の軽減	2 (1.0%)	0	2 (3.1%)	0	17 (60.7%)	8 (42.1%)	1 (8.3%)	0	0	1 (25.0%)
疼痛の軽減	1 (0.5%)	0	0	0	0	1 (5.3%)	0	2 (28.6%)	3 (60.0%)	2 (50.0%)
咳嗽の軽減	0	0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0	0	0
やせるため	0	3 (5.6%)	2 (3.1%)	0 (1.0%)	0	0	0	0	0	0
その他	3 (1.4%)	2 (3.7%)	1 (1.6%)	0	0	0	0	0	0	0
症例数	208 (100.0%)	54 (100.0%)	64 (100.0%)	17 (100.0%)	28 (100.0%)	19 (100.0%)	12 (100.0%)	7 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (100.0%)

表21-1 薬物初回使用の契機となった人物(複数回答)

	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
なし(自発的使用)	14 (6.7%)	2 (3.7%)	9 (14.1%)	0	5 (17.9%)	2 (10.5%)	1 (8.3%)	1 (14.3%)	2 (40.0%)	1 (25.0%)
配偶者	0	0	1 (1.6%)	1 (5.9%)	0	0	0	1 (14.3%)	0	0
同棲相手	0	2 (3.7%)	0	1 (5.9%)	1 (3.6%)	0	0	0	0	0
恋人・愛人	1 (0.5%)	11 (20.4%)	1 (1.6%)	1 (5.9%)	0	1 (5.3%)	0	0	0	0
同性の友人	107 (51.4%)	15 (27.8%)	29 (45.3%)	6 (35.3%)	7 (7.1%)	3 (15.8%)	1 (8.3%)	0	0	0
異性の友人	6 (2.9%)	17 (31.5%)	5 (7.8%)	8 (47.1%)	0	0	0	1 (14.3%)	0	0
知人	17 (8.2%)	4 (7.4%)	3 (4.7%)	0	0	0	0	1 (14.3%)	0	0
医師	0	0	0	0	13 (46.4%)	9 (47.4%)	8 (66.7%)	2 (28.6%)	1 (20.0%)	2 (50.0%)
薬剤師	0	0	0	0	2 (7.1%)	0	0	0	0	0
親	1 (0.5%)	0	0	0	1 (3.6%)	0	0	1 (14.3%)	0	0
同胞	5 (2.4%)	0	2 (3.1%)	0	0	0	0	0	0	0
密売人	4 (1.9%)	0	0	0	0	0	1 (8.3%)	0	0	0
その他	8 (3.8%)	2 (3.7%)	2 (3.1%)	0	0	0	1 (8.3%)	0	1 (20.0%)	0
症例数	208 (100.0%)	54 (100.0%)	64 (100.0%)	17 (100.0%)	28 (100.0%)	19 (100.0%)	12 (100.0%)	7 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (100.0%)

表21-2 薬物初回使用の契機となった人物(複数回答)

	主たる使用薬物									
	鎮咳薬		大麻		リタリン		多剤 (医薬品)		多剤 (規制薬物)	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
なし(自発的使用)	3 (18.8%)	3 (42.9%)	0	0	0	0	2 (22.2%)	3 (17.6%)	2 (12.5%)	0
配偶者	0	0	0	0	0	0	0	1 (5.9%)	0	1 (16.7%)
同棲相手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恋人・愛人	0	1 (14.3%)	0	0	0	0	0	0	0	0
同性の友人	5 (31.3%)	2 (28.6%)	5 (50.0%)	0	0	2 (40.0%)	3 (33.3%)	2 (11.8%)	9 (56.3%)	4 (66.7%)
異性の友人	0	0	0	1 (33.3%)	0	0	0	1 (5.9%)	0	3 (50.0%)
知人	0	1 (14.3%)	1 (10.0%)	0	0	0	0	0	2 (12.5%)	0
医師	1 (6.3%)	0	0	0	8 (80.0%)	3 (60.0%)	3 (33.3%)	7 (41.2%)	0	0
薬剤師	1 (6.3%)	0	0	0	1 (10.0%)	0	0	0	0	0
親	0	0	0	0	0	0	0	1 (5.9%)	1 (6.3%)	0
同胞	0	0	0	0	0	0	0	1 (5.9%)	0	0
密売人	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (6.3%)	0
その他	1 (6.3%)	0	1 (10.0%)	0	0	0	2 (22.2%)	1 (5.9%)	0	0
症例数	16 (100.0%)	7 (100.0%)	10 (100.0%)	3 (100.0%)	10 (100.0%)	5 (100.0%)	9 (100.0%)	17 (100.0%)	16 (100.0%)	6 (100.0%)

表 2 2 - 1 薬物の入手経路(複数回答)

	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
最近1年間は使用せず	113 (54.3%)	24 (44.4%)	24 (37.5%)	4 (23.5%)	3 (10.7%)	2 (10.5%)	0	0	1 (20.0%)	1 (25.0%)
友人	8 (3.8%)	3 (5.6%)	3 (4.7%)	4 (23.5%)	0	0	1 (8.3%)	0	0	0
知人	11 (5.3%)	3 (5.6%)	3 (4.7%)	1 (5.9%)	1 (3.6%)	0	0	0	0	0
恋人・愛人	1 (0.5%)	5 (9.3%)	1 (1.6%)	1 (5.9%)	0	0	0	0	0	0
家族	2 (1.0%)	0	0	0	0	0	0	1 (14.3%)	0	0
密売人(日本人)	28 (13.5%)	4 (7.4%)	4 (6.3%)	3 (17.6%)	0	1 (5.3%)	0	0	0	0
密売人(外国人)	10 (4.8%)	3 (5.6%)	0	0	0	0	0	0	0	0
医師	0	0	0	0	21 (75.0%)	11 (57.9%)	9 (75.0%)	5 (71.4%)	0	2 (50.0%)
薬局	0	0	0	0	4 (14.3%)	4 (21.1%)	2 (16.7%)	1 (14.3%)	2 (40.0%)	2 (50.0%)
その他	3 (1.4%)	2 (3.7%)	11 (17.2%)	5 (29.4%)	0	0	0	0	1 (20.0%)	0
症例数	208 (100.0%)	54 (100.0%)	64 (100.0%)	17 (100.0%)	28 (100.0%)	19 (100.0%)	12 (100.0%)	7 (100.0%)	5 (100.0%)	4 (100.0%)

表 2 2 - 2 薬物の入手経路(複数回答)

	主たる使用薬物									
	鎮咳薬		大麻		リタリン		多剤 (医薬品)		多剤 (規制薬物)	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
最近1年間は使用せず	6 (37.5%)	2 (28.6%)	3 (30.0%)	0	1 (10.0%)	2 (40.0%)	1 (11.1%)	3 (17.6%)	6 (37.5%)	3 (50.0%)
友人	0	0	1 (10.0%)	1 (33.3%)	0	0	0	0	3 (18.8%)	1 (16.7%)
知人	0	0	1 (10.0%)	0	0	0	0	0	2 (12.5%)	1 (16.7%)
恋人・愛人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
密売人(日本人)	0	0	2 (20.0%)	0	0	1 (20.0%)	0	1 (5.9%)	2 (12.5%)	0
密売人(外国人)	0	0	1 (10.0%)	0	0	0	0	0	0	0
医師	0	0	0	0	9 (90.0%)	2 (40.0%)	5 (55.6%)	12 (70.6%)	3 (18.8%)	0
薬局	8 (50.0%)	4 (57.1%)	0	0	0	1 (20.0%)	3 (33.3%)	2 (11.8%)	1 (6.3%)	0
その他	0	1 (14.3%)	0	0	0	0	2 (22.2%)	0	2 (12.5%)	0
症例数	16 (100.0%)	7 (100.0%)	10 (100.0%)	3 (100.0%)	10 (100.0%)	5 (100.0%)	9 (100.0%)	17 (100.0%)	16 (100.0%)	6 (100.0%)

表23 - 1 主たる使用薬物別にみたICD-10分類による主診断

	ICD-10分類									薬物別 症例数
	[F1x.0]	[F1x.1]	[F1x.2]	[F1x.4]	[F1x.5]	[F1x.57]	[F1x.6]	[F1x.7]	[F1x.8]	
	急性中 毒	有害な 使用	依存症 候群	せん妄 を伴う離 脱状態	精神病 性障害 (症状持 続<6M)	精神病 性障害 (症状持 続>6M) *	健忘症 候群	残遺性 障害お よび遅 発性精 神病性 障害	他の精 神およ び行動 の障害	
覚せい剤	13 (5.0%)	5 (1.9%)	46 (17.6%)	0 (0.0%)	34 (13.0%)	66 (25.2%)	0 (0.0%)	90 (34.4%)	8 (3.1%)	262 (100.0%)
有機溶剤	8 (9.9%)	4 (4.9%)	29 (35.8%)	0 (0.0%)	3 (3.7%)	21 (25.9%)	1 (1.2%)	13 (16.0%)	2 (2.5%)	81 (100.0%)
睡眠薬	1 (2.1%)	0 (0.0%)	40 (85.1%)	2 (4.3%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	47 (100.0%)
抗不安薬	1 (5.3%)	2 (10.5%)	15 (78.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
鎮痛薬	0 (0.0%)	1 (11.1%)	7 (77.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (100.0%)
鎮咳薬	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (65.2%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (26.1%)	0 (0.0%)	23 (100.0%)
大麻	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (30.8%)	0 (0.0%)	4 (30.8%)	4 (30.8%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	13 (100.0%)
リタリン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (73.3%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (20.0%)	0 (0.0%)	15 (100.0%)
その他	3 (16.7%)	0 (0.0%)	11 (61.1%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	18 (100.0%)
多剤(医薬品)	1 (3.8%)	2 (7.7%)	19 (73.1%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
多剤(規制薬物)	0 (0.0%)	2 (9.1%)	5 (22.7%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	3 (13.6%)	0 (0.0%)	9 (40.9%)	0 (0.0%)	22 (100.0%)
合計	27 (5.0%)	16 (3.0%)	202 (37.8%)	3 (0.6%)	50 (9.3%)	96 (17.9%)	1 (0.2%)	127 (23.7%)	12 (2.2%)	535 (100.0%)

(注) 精神病性障害(症状持続>6M)* : ICD-10には含まれない項目

表23 - 2 主・副診断いずれかにおける依存症候群

	依存症候群に該当する症例(%)		薬物別症例数
覚せい剤	155	(59.2%)	262
有機溶剤	51	(63.0%)	81
大麻	9	(69.2%)	13
睡眠薬	45	(95.7%)	47
抗不安薬	16	(84.2%)	19
鎮痛薬	7	(77.8%)	9
鎮咳薬	19	(82.6%)	23
リタリン	14	(93.3%)	15
多剤(規制薬物)	15	(68.2%)	22
多剤(医薬品)	22	(84.6%)	26
その他	12	(66.7%)	18
合計	365	(68.2%)	535

表24 性別にみたICD-10による主診断

	男 性		女 性		計	
	症例数	(%)	症例数	(%)	症例数	(%)
[F1x.0] 急性中毒	20	(5.1%)	7	(4.8%)	27	(5.0%)
[F1x.1] 有害な使用	12	(3.1%)	4	(2.8%)	16	(3.0%)
[F1x.2] 依存症候群	129	(33.1%)	73	(50.3%)	202	(37.8%)
[F1x.4] せん妄離脱状態	2	(0.5%)	1	(0.7%)	3	(0.6%)
[F1x.5] 精神病性障害 (<6M)	34	(8.7%)	16	(11.0%)	50	(9.3%)
[F1x.57] 精神病性障害 (>6M)	82	(21.0%)	14	(9.7%)	96	(17.9%)
[F1x.6] 健忘症候群	1	(0.3%)	0	(0.0%)	1	(0.2%)
[F1x.7] 残遺・遅発性障害	100	(25.6%)	27	(18.6%)	127	(23.7%)
[F1x.8] その他	9	(2.3%)	2	(1.4%)	11	(2.1%)
(不明・記載なし)	1	(0.3%)	1	(0.7%)	2	(0.4%)
計	390	(100.0%)	145	(100.0%)	535	(100.0%)

表25 - 1 主たる使用薬物別にみた臨床用量依存症例

主たる使用薬物	症例数	各薬物別症例における割合(%)	各薬物別症例数
睡眠薬および抗不安薬	56	(84.8%)	66
多剤(医薬品)	21	(80.8%)	26
リタリン	7	(46.7%)	15
多剤(規制薬物)	6	(27.3%)	22
鎮咳薬	4	(17.4%)	23
その他	2	(11.1%)	18
鎮痛薬	1	(11.1%)	9
大麻	1	(7.7%)	13
覚せい剤	6	(2.3%)	262
合計	104	(22.9%)	454

表25 - 2 臨床用量依存のガイドライン項目該当数

診断ガイドライン	該当症例数	(%)
1) 不安や不眠などの治療目的で開始した臨床用量を6ヶ月以上継続服用している	78	(75.0%)
2) 本来の症状は解消されて寛解状態にある	35	(33.7%)
3) その間、使用量の著しい増加を認めない	47	(45.2%)
4) 中断によって反跳現象 / 退薬症候が出現する	32	(30.8%)
5) 計画的な漸減・中止により退薬症候の出現が避けられた場合に、ベンゾジアゼピンの服用なしに経過する	27	(26.0%)

表26 精神病エピソードの既往と精神科治療開始年齢

主たる使用薬物	精神病エピソードの既往					不明・記載なし	精神科治療開始年齢	薬物別症例数	
	既往あり		既往なし		例数				(%)
	例数	(%)	発症年齢	例数					
覚せい剤	183	(69.8%)	27.3 ± 8.3	34	(13.0%)	45	(17.2%)	29.3 ± 9.4	262
有機溶剤	41	(50.6%)	23.9 ± 7.2	25	(30.9%)	15	(18.5%)	24.0 ± 7.1	81
大麻	8	(61.5%)	24.1 ± 5.6	2	(15.4%)	3	(23.1%)	25.5 ± 5.1	13
睡眠薬	11	(23.4%)	34.4 ± 20.8	30	(63.8%)	6	(12.8%)	36.9 ± 18.0	47
抗不安薬	3	(15.8%)	19	16	(84.2%)	0	(0.0%)	32.2 ± 9.8	19
鎮痛薬	4	(44.4%)	41.0 ± 21.9	4	(44.4%)	1	(11.1%)	41.2 ± 14.6	9
鎮咳薬	5	(21.7%)	26.8 ± 5.1	11	(47.8%)	7	(30.4%)	33.2 ± 11.1	23
リタリン	9	(60.0%)	25.8 ± 6.1	5	(33.3%)	1	(6.7%)	24.0 ± 7.1	15
多剤(規制薬物)	16	(72.7%)	26.3 ± 12.0	5	(22.7%)	1	(4.5%)	30.0 ± 12.6	22
多剤(医薬品)	6	(23.1%)	27.5 ± 8.1	14	(53.8%)	6	(23.1%)	28.0 ± 9.1	26
その他	3	(16.7%)	26.0 ± 1.4	9	(50.0%)	6	(33.3%)	31.1 ± 8.9	18
合計	289	(54.0%)	27.0 ± 9.3	155	(29.0%)	91	(17.0%)	29.4 ± 10.9	535

表27 精神疾患の家族歴

	家族歴なし		家族歴あり		不明・記載なし		薬物別症例数
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	
覚せい剤	143	(54.6%)	64	(24.4%)	55	(21.0%)	262
有機溶剤	47	(58.0%)	18	(22.2%)	16	(19.8%)	81
大麻	7	(53.8%)	5	(38.5%)	1	(7.7%)	13
睡眠薬	26	(55.3%)	10	(21.3%)	11	(23.4%)	47
抗不安薬	10	(52.6%)	4	(21.1%)	5	(26.3%)	19
鎮痛薬	2	(22.2%)	3	(33.3%)	4	(44.4%)	9
鎮咳薬	11	(47.8%)	7	(30.4%)	5	(21.7%)	23
リタリン	8	(53.3%)	5	(33.3%)	2	(13.3%)	15
多剤(規制薬物)	10	(45.5%)	5	(22.7%)	7	(31.8%)	22
多剤(医薬品)	10	(38.5%)	7	(26.9%)	9	(34.6%)	26
その他	8	(44.4%)	2	(11.1%)	8	(44.4%)	18
計	282	(52.7%)	130	(24.3%)	123	(23.0%)	535

表28-1 気分障害の併存(薬物別)

	気分障害の併存の有無						不明・記載なし	薬物別 症例数			
	(1)併存あり		(2)併存が疑われる		(1)+(2)	併存なし					
覚せい剤	16	(6.1%)	40	(15.3%)	56	(21.4%)	158	(60.3%)	48	(22.4%)	262
有機溶剤	2	(2.5%)	6	(7.4%)	8	(9.9%)	55	(67.9%)	18	(28.6%)	81
大麻	1	(7.7%)	3	(23.1%)	4	(30.8%)	8	(61.5%)	1	(8.3%)	13
睡眠薬	8	(17.0%)	11	(23.4%)	19	(40.4%)	24	(51.1%)	4	(9.3%)	47
抗不安薬	4	(21.1%)	2	(10.5%)	6	(31.6%)	12	(63.2%)	1	(5.6%)	19
鎮痛薬	2	(22.2%)	0	(0.0%)	2	(22.2%)	6	(66.7%)	1	(12.5%)	9
鎮咳薬	3	(13.0%)	4	(17.4%)	7	(30.4%)	15	(65.2%)	1	(4.5%)	23
リリソ	6	(40.0%)	2	(13.3%)	8	(53.3%)	7	(46.7%)	0	(0.0%)	15
多剤(規制薬物)	1	(4.5%)	6	(27.3%)	7	(31.8%)	15	(68.2%)	0	(0.0%)	22
多剤(医薬品)	4	(15.4%)	13	(50.0%)	17	(65.4%)	4	(15.4%)	5	(23.8%)	26
その他	4	(22.2%)	1	(5.6%)	5	(27.8%)	9	(50.0%)	4	(28.6%)	18
計	51	(9.5%)	88	(16.4%)	139	(26.0%)	313	(58.5%)	83	(18.4%)	535

表28-2 気分障害の併存(性別)

	気分障害の併存の有無						不明・記載なし	性別症 例数			
	(1)併存あり		(2)併存が疑われる		(1)+(2)	併存なし					
男性	34	(8.7%)	55	(14.1%)	89	(22.8%)	239	(61.3%)	62	(15.9%)	390
女性	17	(11.7%)	33	(22.8%)	50	(34.5%)	74	(51.0%)	21	(14.5%)	145
計	51	(9.5%)	88	(16.4%)	139	(26.0%)	313	(58.5%)	83	(15.5%)	535

表28-3 気分障害の類型(薬物別)

	気分障害の類型別症例数(%薬物別気分障害症例)								気分障害の並存 あり(計)	
	うつ病性障害		双極性障害		気分循環性障害		NOS・その他			
覚せい剤	36	(64.3%)	3	(5.4%)	2	(3.6%)	7	(12.5%)	56	(100.0%)
有機溶剤	1	(12.5%)	2	(25.0%)	0	(0.0%)	2	(25.0%)	8	(100.0%)
大麻	3	(75.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	4	(100.0%)
睡眠薬	15	(78.9%)	1	(5.3%)	1	(5.3%)	2	(10.5%)	19	(100.0%)
抗不安薬	6	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	6	(100.0%)
鎮痛薬	2	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(100.0%)
鎮咳薬	4	(57.1%)	1	(14.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	7	(100.0%)
リリソ	7	(87.5%)	1	(12.5%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	8	(100.0%)
多剤(規制薬物)	5	(71.4%)	0	(0.0%)	1	(14.3%)	1	(14.3%)	7	(100.0%)
多剤(医薬品)	17	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(5.9%)	17	(100.0%)
その他	3	(60.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(20.0%)	5	(100.0%)
計	99	(71.2%)	8	(5.8%)	4	(2.9%)	14	(10.1%)	139	(100.0%)

(うつ病性障害:大うつ病性障害,気分変調性障害を含む)

表28-4 気分障害の類型(性別)

	気分障害の類型別症例数(%薬物別気分障害症例)								気分障害の並存 あり(計)	
	うつ病性障害		双極性障害		気分循環性障害		NOS・その他			
男性	61	(68.5%)	8	(9.0%)	3	(3.4%)	6	(6.7%)	89	(100.0%)
女性	38	(76.0%)	0	(0.0%)	1	(2.0%)	8	(16.0%)	50	(100.0%)
計	99	(71.2%)	8	(5.8%)	4	(2.9%)	14	(10.1%)	139	(100.0%)

表28 - 5 気分障害の発症と薬物使用との時間的關係

	薬物使用前		薬物使用后		計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
うつ病性障害	37	(45.7%)	44	(54.3%)	81	(100.0%)
双極性障害	2	(28.6%)	5	(71.4%)	7	(100.0%)
気分循環性障害	3	(100.0%)	0	(0.0%)	3	(100.0%)
特定不能	2	(50.0%)	2	(50.0%)	4	(100.0%)
その他	2	(25.0%)	6	(75.0%)	8	(100.0%)
計	46	(44.7%)	57	(55.3%)	103	(100.0%)

表29 - 1 成育史上の問題の有無(薬物別)

	成育史上何らかの問題が報告された症例 (%薬物別症例)	成育史上の問題の内容				
		「15歳以前」の 親との離別	不登校	いじめられ体験	家庭内暴力	被虐待体験
覚せい剤	98 (37.4%)	37 (37.8%)	35 (35.7%)	22 (22.4%)	22 (22.4%)	28 (28.6%)
有機溶剤	33 (40.7%)	11 (33.3%)	12 (36.4%)	14 (42.4%)	8 (24.2%)	3 (9.1%)
大麻	5 (38.5%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)
睡眠薬	12 (25.5%)	3 (25.0%)	5 (41.7%)	6 (50.0%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)
抗不安薬	12 (63.2%)	4 (33.3%)	3 (25.0%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)	4 (33.3%)
鎮痛薬	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	7 (30.4%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)
リタリソ	7 (46.7%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)
多剤(規制薬物)	11 (50.0%)	4 (36.4%)	4 (36.4%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
多剤(医薬品)	16 (61.5%)	4 (25.0%)	8 (50.0%)	7 (43.8%)	5 (31.3%)	8 (50.0%)
その他	3 (16.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
計	204 (38.1%)	73 (35.8%)	72 (35.3%)	58 (28.4%)	44 (21.6%)	50 (24.5%)

表29 - 2 成育史上の問題の有無(薬物別)

	成育史上何らかの問題が報告された症例 (%性別症例)	成育史上の問題の内容				
		「15歳以前」の 親との離別	不登校	いじめられ体験	家庭内暴力	被虐待体験
男性	130 (33.3%)	47 (36.2%)	45 (34.6%)	30 (23.1%)	28 (21.5%)	26 (20.0%)
女性	74 (51.0%)	26 (35.1%)	27 (36.5%)	28 (37.8%)	16 (21.6%)	24 (32.4%)
計	204 (38.1%)	73 (35.8%)	72 (35.3%)	58 (28.4%)	44 (21.6%)	50 (24.5%)

表30 - 1 自傷行為または自殺企図の有無(薬物別)

	あり			なし			不明・記載なし			薬物別計		
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
覚せい剤	88	(33.6%)	120	(45.8%)	54	(20.6%)	262	(100.0%)				
有機溶剤	21	(25.9%)	47	(58.0%)	13	(16.0%)	81	(100.0%)				
大麻	4	(30.8%)	7	(53.8%)	2	(15.4%)	13	(100.0%)				
睡眠薬	17	(36.2%)	23	(48.9%)	7	(14.9%)	47	(100.0%)				
抗不安薬	11	(57.9%)	5	(26.3%)	3	(15.8%)	19	(100.0%)				
鎮痛薬	2	(22.2%)	4	(44.4%)	3	(33.3%)	9	(100.0%)				
鎮咳薬	5	(21.7%)	12	(52.2%)	6	(26.1%)	23	(100.0%)				
リタリソ	6	(40.0%)	8	(53.3%)	1	(6.7%)	15	(100.0%)				
多剤(規制薬物)	10	(45.5%)	6	(27.3%)	6	(27.3%)	22	(100.0%)				
多剤(医薬品)	18	(69.2%)	7	(26.9%)	1	(3.8%)	26	(100.0%)				
その他	4	(22.2%)	9	(50.0%)	5	(27.8%)	18	(100.0%)				
計	186	(34.8%)	248	(46.4%)	101	(18.9%)	535	(100.0%)				

表30 - 2 自傷行為または自殺企図の有無(性別)

	あり	なし	不明・記載なし	性別計
男性	104 (26.7%)	212 (54.4%)	74 (19.0%)	390 (100.0%)
女性	82 (56.6%)	36 (24.8%)	27 (18.6%)	145 (100.0%)
計	186 (34.8%)	248 (46.4%)	101 (18.9%)	535 (100.0%)

表31 - 1 反社会性パーソナリティ障害の併存(薬物別)

	(1)診断基準を 満たす	(2)診断基準は 満たさないが傾 向がある	(1)および(2)	薬物使用との時間的關係	
				薬物使用前から 存在した	薬物使用後に 顕在化した
覚せい剤	21 (8.0%)	49 (18.7%)	70 (26.7%)	25 (35.7%)	21 (30.0%)
有機溶剤	6 (7.4%)	9 (11.1%)	15 (18.5%)	7 (46.7%)	4 (26.7%)
大麻	1 (7.7%)	2 (15.4%)	3 (23.1%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)
睡眠薬	2 (4.3%)	4 (8.5%)	6 (12.8%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)
抗不安薬	1 (5.3%)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)
鎮痛薬	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	0 (0.0%)	4 (17.4%)	4 (17.4%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
リリソ	0 (0.0%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
多剤(規制薬物)	2 (9.1%)	5 (22.7%)	7 (31.8%)	4 (57.1%)	2 (28.6%)
多剤(医薬品)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	3 (11.5%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)
その他	0 (0.0%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
計	33 (6.2%)	81 (15.1%)	114 (21.3%)	44 (38.6%)	34 (29.8%)

表31 - 2 反社会性パーソナリティ障害の併存(性別)

	(1)診断基準を 満たす	(2)診断基準は 満たさないが傾 向がある	(1)および(2)	薬物使用との時間的關係	
				薬物使用前から 存在した	薬物使用後に 顕在化した
男性	27 (6.9%)	66 (16.9%)	93 (23.8%)	34 (36.6%)	26 (28.0%)
女性	6 (4.1%)	15 (10.3%)	21 (14.5%)	10 (47.6%)	8 (38.1%)
計	33 (6.2%)	81 (15.1%)	114 (21.3%)	44 (38.6%)	34 (29.8%)

表31 - 3 境界性パーソナリティ障害の併存(薬物別)

	(1)診断基準を 満たす	(2)診断基準は 満たさないが傾 向がある	(1)および(2)	薬物使用との時間的關係	
				薬物使用前から 存在した	薬物使用後に 顕在化した
覚せい剤	7 (2.7%)	28 (10.7%)	35 (13.4%)	11 (31.4%)	5 (14.3%)
有機溶剤	1 (1.2%)	6 (7.4%)	7 (8.6%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)
大麻	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)
睡眠薬	6 (12.8%)	5 (10.6%)	11 (23.4%)	7 (63.6%)	0 (0.0%)
抗不安薬	3 (15.8%)	4 (21.1%)	7 (36.8%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)
鎮痛薬	0 (0.0%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)
鎮咳薬	2 (8.7%)	2 (8.7%)	4 (17.4%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)
リタリソ	0 (0.0%)	4 (26.7%)	4 (26.7%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)
多剤(規制薬物)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	4 (18.2%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)
多剤(医薬品)	5 (19.2%)	6 (23.1%)	11 (42.3%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)
その他	1 (5.6%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)
計	26 (4.9%)	61 (11.4%)	87 (16.3%)	41 (47.1%)	11 (12.6%)

表31 - 4 境界性パーソナリティ障害の併存(性別)

	(1)診断基準を 満たす	(2)診断基準は 満たさないが傾 向がある	(1)および(2)	薬物使用との時間的關係	
				薬物使用前から 存在した	薬物使用後に 顕在化した
男性	4 (1.0%)	27 (6.9%)	31 (7.9%)	10 (32.3%)	3 (9.7%)
女性	22 (15.2%)	34 (23.4%)	56 (38.6%)	31 (55.4%)	8 (14.3%)
計	26 (4.9%)	61 (11.4%)	87 (16.3%)	41 (47.1%)	11 (12.6%)

図1 主たる使用薬物別にみた症例(%)の推移

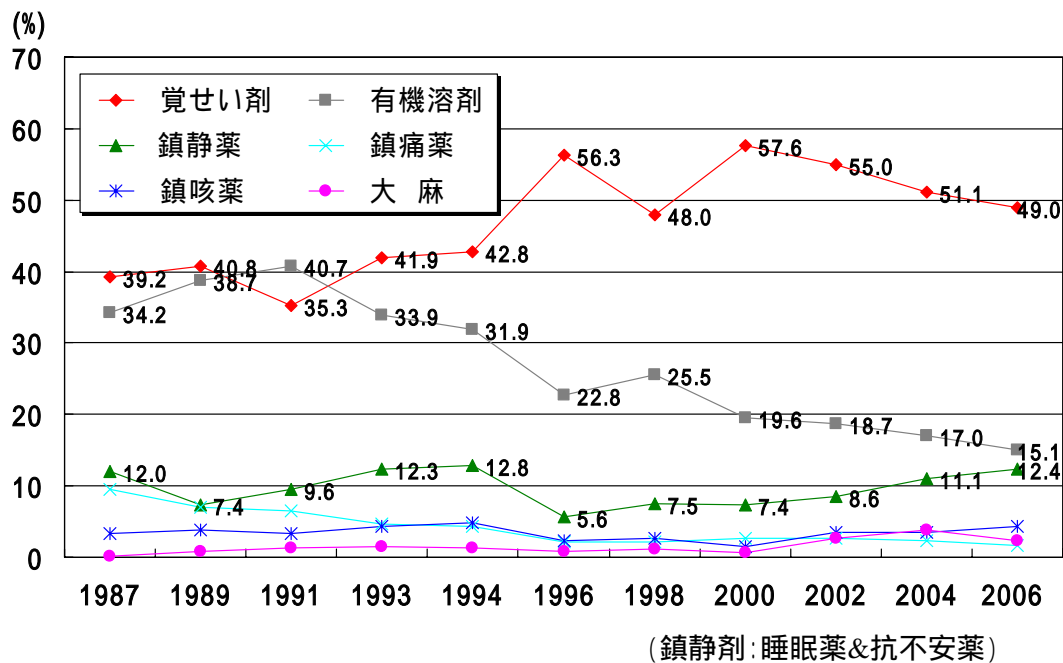


図2 使用歴のある薬物の推移

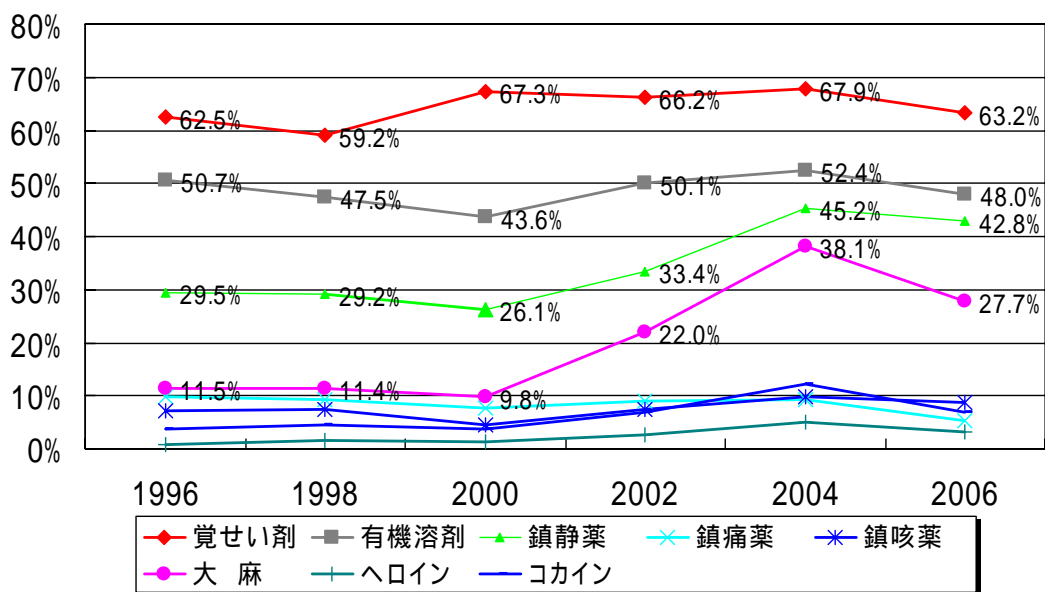


図3 初回使用薬物の推移

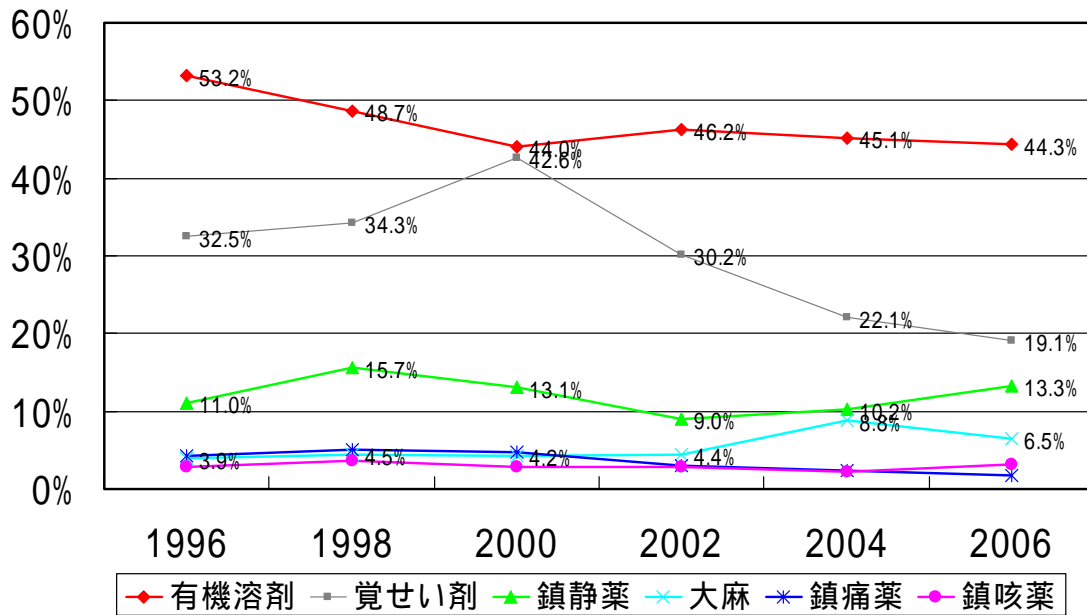
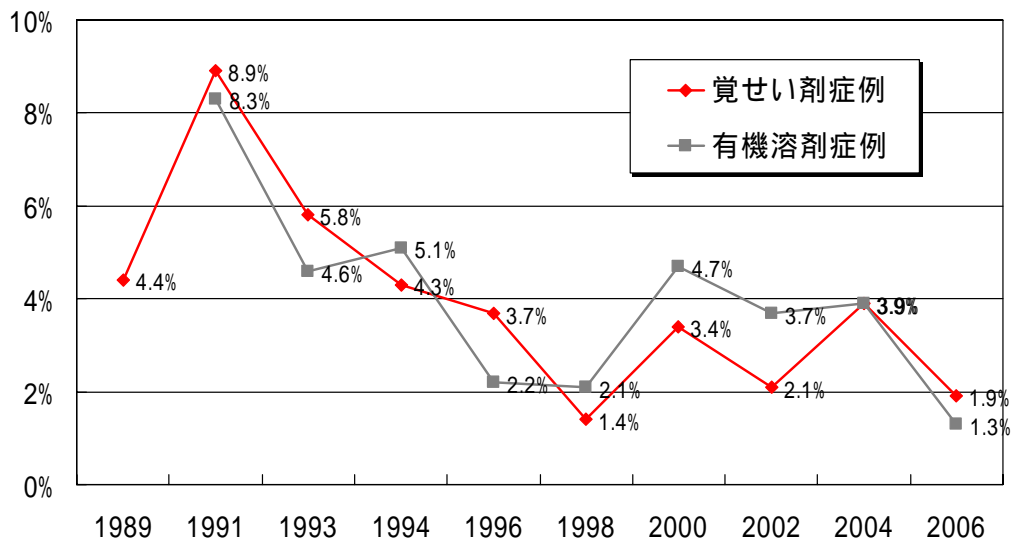


図4 初期乱用例(使用期間:1年未満)の推移

- 覚せい剤, 有機溶剤症例 -



(使用期間 = 調査時年齢 - 初回使用年齢)

図5 長期乱用症例(使用開始後5年以上)の推移
 - 覚せい剤, 有機溶剤症例 -

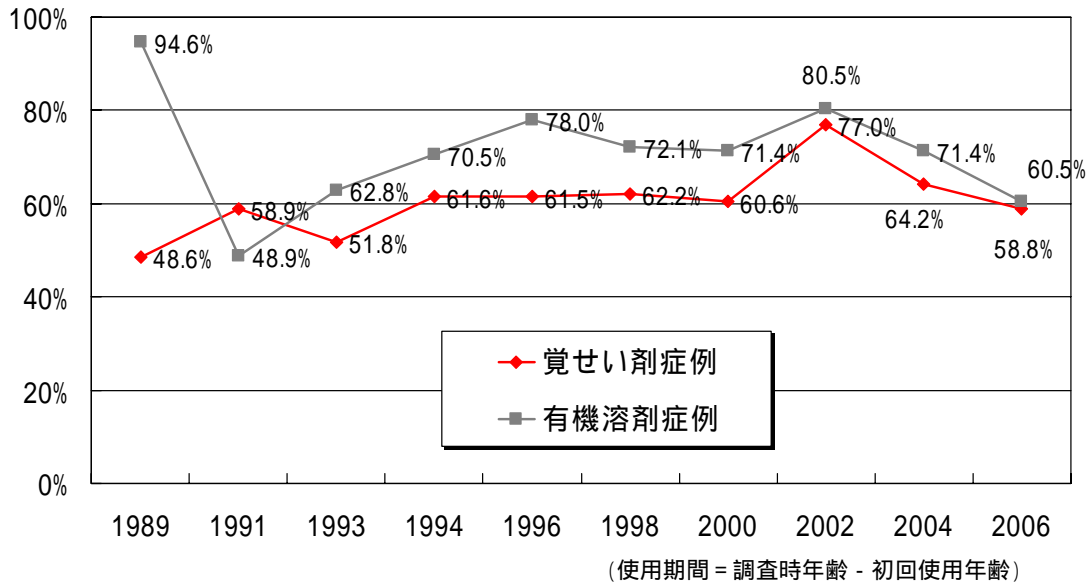


図6 覚せい剤初回使用方法の推移(性別)

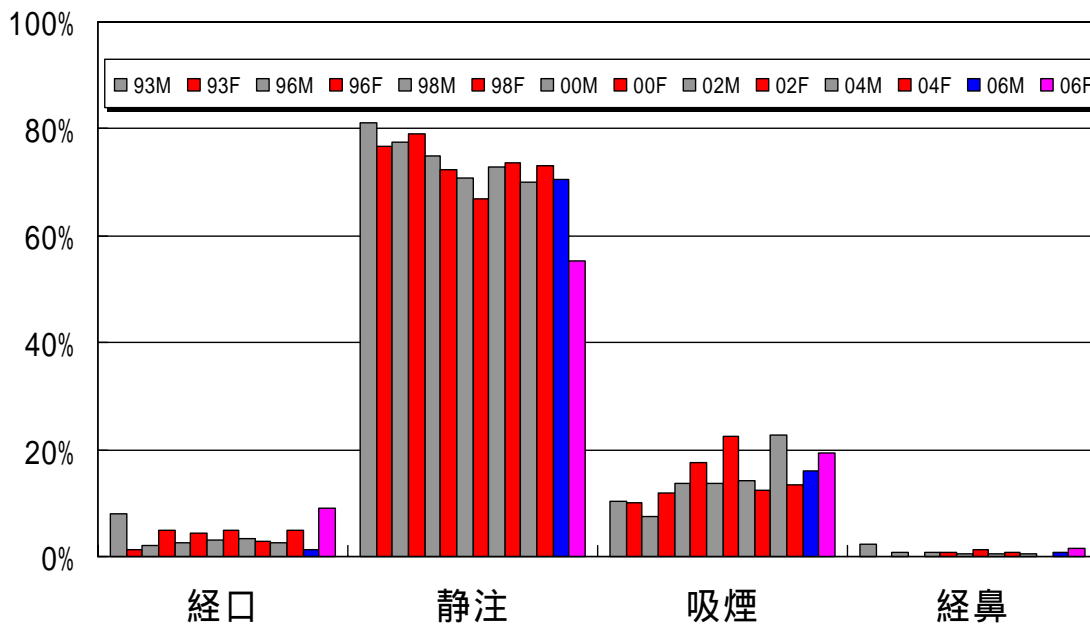


図5 長期乱用症例(使用開始後5年以上)の推移
 - 覚せい剤, 有機溶剤症例 -

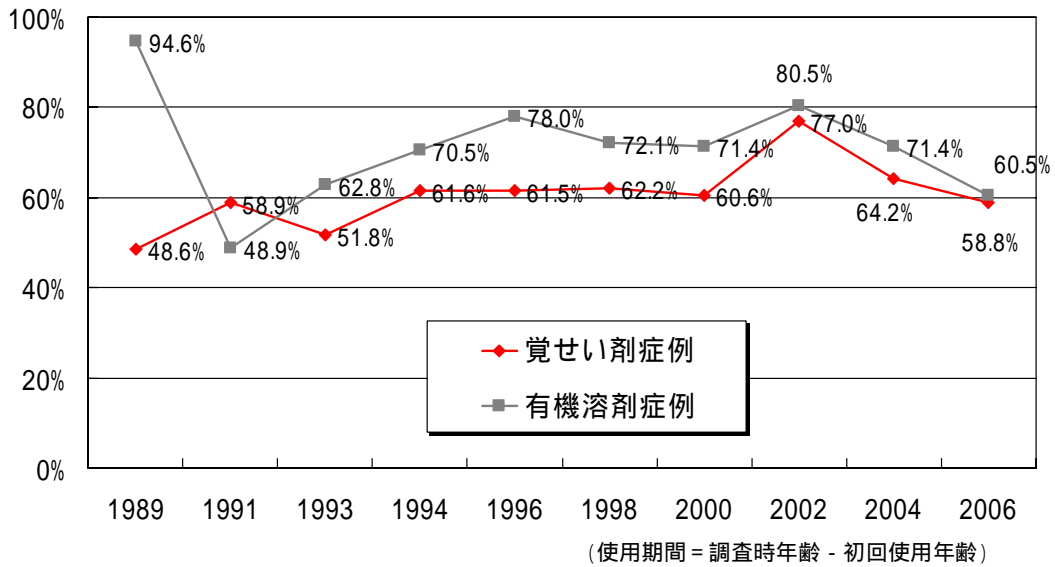
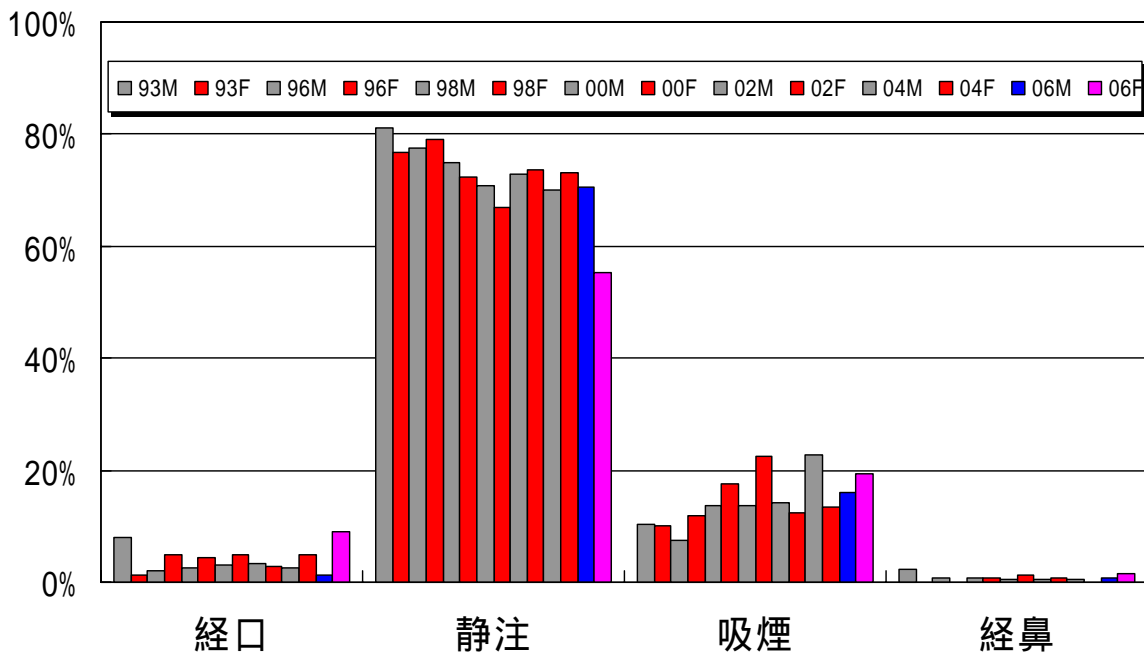


図6 覚せい剤初回使用方法の推移(性別)



薬物関連精神疾患調査用紙

(2006 年度版)

本調査の実施要領は以下の通りです；

- (1) 調査期間: 2006 年9月1日～10月31日
- (2) 対象患者: 上記期間に、貴施設にて外来(初診・再診ともに含みます)または入院で診療を受けた、アルコール以外の薬物を主たる使用薬物とするすべての「薬物関連精神疾患」患者。
- (3) 方法: 口頭で同意を取得できた場合は本調査用紙による面接、また面接調査が困難な場合は診療録からの転記とします。
- (4) 調査用紙返送期限: 2006 年11月30日

* 面接による調査 診療録からの転記 (どちらかにチェックをお願いします)

* 報告症例がない場合、下記のいずれかにチェックをお願いします

調査期間中に **該当患者なし**

該当患者はいたが面接調査への協力を拒否された

(このような患者さんは何名くらいおられたか、参考までにお知らせ下さい: 症例数 _____ 例)

貴施設名 _____

記載年月日 2006 年 月 日

記載医師名 _____ 医師

* 本調査に関するお知らせ、追加文書の添付等のため、先生のメールアドレスをお知らせ頂ける場合は、右に御記入下さい。 _____ @ _____ (職場用, 個人用)

***** お問い合わせは下記までお願いします *****

厚生労働科学研究「全国精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」

分担研究者: 尾崎 茂 (E-mail: ozaki@ncnp.go.jp) 事務担当: 大槻

国立精神・神経センター精神保健研究所, 薬物依存研究部

〒187-8553 小平市小川東町 4-1-1

【tel】 ①042-346-1869(直通), ②042-341-2712, 内線 6218・6225 【fax】042-346-1954

- 1)性別 1.男 2.女
 2)調査時年齢 1.満()歳 99.不明
 3)最終学歴 1.小学校 2.中学校 3.高校 4.専門学校 5.短大 6.大学 99.不明
 4)在学・卒業の別 1.在学中 2.中退 3.卒業 99.不明
 5)職歴 1.乱用前職業(, 99.不明) 2.現在の職業(, 99.不明)

(下記のコード番号を記入。【例】主婦・29、無職・31、“暴力団員”の場合は「31無職」を含め日常的業種を選択)

01. 農林漁業 02. 商人(卸・小売り) 03. 不動産業 04. 金融業 05. 自営の職人 06. 露天・行商 07. その他の自営業 08. 団体役員
 09. 会社員 10. 店員 11. 工員 12. 公務員 13. 風俗営業関係者 14. 風俗営業以外の飲食業関係者 15. 興業関係者 16. 旅館業関係者
 17. 交通運輸業関係者 18. 土木建築業関係者 19. 日雇い労働者 20. その他の被雇用者 21. 医療業関係 22. 芸能関係 23. 船員
 24. 小学生 25. 中学生 26. 高校生 27. 大学生 28. 各種学校生 29. 主婦 30. 家事手伝い 31. 無職 32. 不定 33.その他

6)薬物乱用開始前・後における交友関係(複数選択可)

- ①暴力団員との関係 0.これまでなし 1.乱用前にあり 2.乱用後にあり 99.不明
 ②非行グループとの関係 0.これまでなし 1.乱用前にあり 2.乱用後にあり 99.不明
 ③薬物乱用者との関係 0.これまでなし 1.乱用前にあり 2.乱用後にあり 99.不明

7)補導・逮捕歴 0.これまでなし 1.乱用前にあり(内容下記より:) 2.乱用後にあり(内容下記より:) 99.不明
 【内容】1.窃盗 2.暴行・傷害 3.恐喝 4.強盗 5.薬物関連(所持・使用等) 6.その他 88.不明

8)矯正施設への入所歴 0.なし 1.あり(2.刑務所・少年刑務所 3.拘置所 4.少年院 5.鑑別所 6.その他:) 99.不明

9)現在の配偶関係 1.未婚 2.同棲 3.内縁 4.既婚 5.別居 6.離婚 7.死別 8.再婚 9.その他() 99.不明

10)タバコの使用歴 0.使用歴なし 1.使用歴あり(使用開始年齢: 歳, 88.不明) 2.禁煙中 99.使用歴は不明

11)アルコールの使用歴 0.使用歴なし 1.使用歴あり(使用開始年齢: 歳, 88.不明) 2.禁酒中 99.使用歴は不明

12)これまでの薬物使用歴について(例)にならって記入して下さい。ただし治療で用いた薬物は除きます。

(「方法*」は下欄から該当する番号を選択。「年齢」が不明の場合は「99」。「依存*」は薬物使用の“コントロール喪失”を目安として。)

使用薬物	【これまで】			【初回使用時】		【過去1年間】		【過去1ヶ月間】		乱用開始から「依存*」に至る期間	最終使用年齢
	使用の有無	年齢	方法*	使用の有無	方法*	使用の有無	方法*				
(例) 覚せい剤	1.あり 2.なし 3.不明	20歳 ^(1~8)	2	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	4, 2	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	約28ヵ月	25歳		
1. 覚せい剤	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
2. 有機溶剤	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「有機溶剤」(=各種「吸入剤」含む)薬物名: シナー, トルエン, ラッカー, ホンド, ガス類, その他(薬物名):											
3. 大麻	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「大麻」の形態: マリファナ(葉), 樹脂, ハンシオイル, その他;											
4. コカイン	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
5. ヘロイン	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
6. MDMA(エクスタシー)	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
7. マジックマッシュルーム	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
8. LSD	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
9. その他①	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「その他①」(薬物名):											
10. 睡眠薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「睡眠薬」剤名: トリアゾラム, フルトラゼハム, プロムワレリル尿素, “ウト”, プロチゾラム, ニトラゼハム, その他(薬剤名):											
11. 抗不安薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「抗不安薬」剤名: エチゾラム, アルプラゾラム, シアゼハム, プロマゼハム, その他(薬剤名):											
12. 鎮痛薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「鎮痛薬」剤名: セデス, ナロン, ソセコン・ベンタジン, その他(薬剤名):											
13. 鎮咳薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「鎮咳薬」剤名(ワロン液, プロシド, トニ, その他(薬剤名):											
14. リタリン	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
15. その他②	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)			歳	
*「その他②」(薬物名):											

- 「方法*」 1. 経口 2. 静注 3. 吸引(主に有機溶剤) 4. 加熱吸煙(いわゆる“あぶり”: コカイン・クラック, 覚せい剤など)
 (複数選択可) 5. 喫煙(主に大麻) 6. 経鼻 7. その他 8. 不明

13) はじめて使用した薬物は何ですか？(* 処方薬・医薬品については、治療目的以外の使用(=乱用)とします。)

1. 覚せい剤 2. 有機溶剤 3. 大麻 4. コカイン 5. ヘロイン 6. MDMA(エクスタシー) 7. マジックマッシュルーム 8. LSD
9. 睡眠薬 10. 抗不安薬 11. 鎮痛薬 12. 鎮咳薬 13. リタリン 14. その他() 99. 不明

14) (質問13))の薬物をはじめて使用した動機は次のうちどれでしたか？(複数選択可)

1. 誘われて 2. 刺激を求めて 3. 好奇心・興味から 4. 断りきれずに 5. 自暴自棄になって 6. 覚醒効果を求めて
7. 疲労の除去 8. 性的効果を求めて 9. ストレス解消 10. 抑うつ気分の軽減 11. 不安の軽減 12. 不眠の軽減
13. 疼痛の軽減 14. 咳嗽の軽減 15. やせるため 16. その他() 99. 不明

15) (質問13))の薬物を使用するきっかけとなった人物は次のうち誰でしたか？(複数選択可)

1. なし(自発的使用) 2. 配偶者 3. 同棲中の相手 4. 恋人・愛人 5. 同性の友人 6. 異性の友人 7. 知人
8. 医師 9. 薬剤師 10. 親 11. 同胞 12. 密売人 13. その他() 99. 不明

16) 調査時点における「主たる薬物」(=現在の精神科的症状に関して臨床的に最も関連が深いと思われる薬物)をひとつ選択して下さい。(複数の薬物が同程度に関与していると考えられる場合は、複数選択して下さい。)

1. 覚せい剤 2. 有機溶剤 3. 大麻 4. コカイン 5. ヘロイン 6. MDMA(エクスタシー) 7. マジックマッシュルーム 8. LSD
9. 睡眠薬 10. 抗不安薬 11. 鎮痛薬 12. 鎮咳薬 13. リタリン 14. その他() 99. 不明

17) 前問で選択した「主たる薬物」の最近1年間における主な入手経路は以下のうちどれですか？(複数選択可)

1. 最近1年間は使用していない 2. 友人 3. 知人 4. 恋人・愛人 5. 家族 6. 密売人(日本人) 7. 密売人(外国人)
8. 医師 9. 薬局 10. その他() 99. 不明

18) 質問16)で選択した「主たる薬物」について、現在、精神科的には以下のどの診断(ICD-10)に該当しますか。該当する診断に○をつけて下さい。(主診断:ひとつ, 副診断:複数選択可。)

ICD-10 診断分類	主診断	副診断
1. (F1x.0) 急性中毒		
2. (F1x.1) 有害な使用(心身の健康に害が起きているが、「依存症候群」「精神病性障害」は満たさないもの)		
3. (F1x.2) 依存症候群		
4. (F1x.3) 離脱状態		
5. (F1x.4) せん妄を伴う離脱状態(アルコール性振戦せん妄等)		
6. (F1x.5x) 精神病性障害(使用后2週以内の発症、症状の持続は48時間以上で物質使用中断後6ヶ月以内)		
7. (F1x.57) 精神病性障害(使用后2週以内の発症、症状の持続は48時間以上で物質使用中断後6ヶ月以上)		
8. (F1x.6) 健忘症候群		
9. (F1x.7) 残遺性障害(フラッシュバック、気分・認知・人格障害等)遅発性の精神病性障害(使用后2~6週の発症)		
10. (F1x.8) 他の精神および行動の障害		

19) 前問(質問 18))で、主・副診断いずれかで『ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬の「依存症候群」』に該当する場合、いわゆる「臨床用量依存」に該当するか否かについてお尋ねします。下記にあげた“臨床用量依存のガイドライン”5項目のうち、あてはまるものに○をつけて下さい。

- ① 不安や不眠などの治療目的で開始した臨床用量を6ヵ月以上継続服用している。 1. はい 2. いいえ 99. 不明
② 本来の症状は解消されて寛解状態にある。 1. はい 2. いいえ 99. 不明
③ その間、使用量の著しい増加を認めない。 1. はい 2. いいえ 99. 不明
④ 中断によって反跳現象／退薬症候が出現する。 1. はい 2. いいえ 99. 不明
⑤ 計画的な漸減・中止により退薬症候の出現が避けられた場合に、ベンゾジアゼピンの服用なしに経過する。 1. はい 2. いいえ 99. 不明

(参考文献:ベンゾジアゼピン系薬物の使用原則と臨床用量依存の診断と治療。白倉ら編:アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドライン, p207-222, じほう, 2003)

20) これまでに「精神病エピソード」の既往が存在する場合、その発症年齢は何歳でしたか？

1. ()歳 2. 既往はあるが発症年齢は不明 3. 既往はない 99. 既往は不明

21) 薬物関連精神疾患に関する精神科治療の開始年齢は何歳でしたか？(他院での治療歴があれば含めて下さい。)

1. ()歳 99. 不明

22) 精神疾患の家族歴はありますか？(アルコール・薬物関連精神疾患またはその他の精神疾患)

0. なし 1. 父親 2. 母親 3. 同胞 4. 子供 5. 祖父 6. 祖母 7. 父親の同胞 8. 母親の同胞 9. その他() 99. 不明
*「あり」の場合、その精神疾患名(, 不明)

23) 気分障害の一部に物質使用障害の併存率が高いとの指摘があります。この症例では、「**気分(感情)障害**」の併存(薬物使用開始前の既往も含めて)があると考えられますか？

0.併存はない 1.併存が疑われる 2.併存がある 99.不明

24) 前問で“併存がある(疑いも含む)”場合、以下の点についてお尋ねします。

① 気分障害の類型(DSM-IV)： 1.うつ病性障害(大うつ病性障害, 気分変調性障害を含む)

2.双極性障害(3. I 型 4. II 型* 5.気分循環性障害 6.特定不能 88.病型は不明)

7.その他() 99.不明 (II 型*: 軽躁病エピソードを伴う反復性大うつ病エピソード)

② 発症年齢: _____ 歳頃, 99.不明

③ 出現時期: 1.薬物使用前 2.薬物使用後 (3.薬物誘発性*である 4.薬物誘発性*ではない 88.不明) 99.不明

(薬物誘発性*: 薬物使用から1ヵ月以内の出現)

25) これまでに、下記のような**成育史上の問題**がありましたか？(複数回答可)

0.なし 1.「15歳以前」の親との離別(2.父親 3.母親 4.両親) 5.不登校 6.いじめられ体験 7.家庭内暴力

8.被虐待(その内容: 9.身体的 10.性的 11.心理的(ネグレクトなど) 12.その他(), 年齢: _____ 歳頃)

13.その他(内容:) 99.不明

26) これまでに、**自傷行為**または**自殺企図**がみられたことがありますか？

0.なし 1.あり(2.自傷行為 3.自殺企図 4.両方 5.どちらともいえない 88.どちらかは不明) 99.不明

27) 下記の「**パーソナリティ障害**」(DSM-IV)が併存していますか？以下の診断基準を参考にしてください。

① 反社会性パーソナリティ障害； 1.診断基準を満たす 2.診断基準は満たさないが傾向がある 99.不明

② 境界性パーソナリティ障害； 1.診断基準を満たす 2.診断基準は満たさないが傾向がある 99.不明

28) 前問で**パーソナリティ障害**(傾向も含む)に該当する場合、その特徴は薬物使用前から存在したと考えられますか？

1.薬物使用前から存在した

2.薬物使用後に顕在化した(薬物使用に伴う認知・行動の変化に関係があると考えられる)

3.その他() 99.不明

29) その他コメント等ありましたら、お書き下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【参考】DSM-IV パーソナリティ障害の診断基準

① 反社会性パーソナリティ障害 (301.7)

A. 他人の権利を無視し侵害する広範な様式で、15歳以降起こっており、以下のうち3つ(またはそれ以上)によって示される。

(1) 法にかなう行動という点では社会的規範に適合しないこと。これは逮捕の原因になる行為を繰り返し行うことで示される。

(2) 人をだます傾向。これは繰り返し嘘をつくこと、偽名を使うこと、または自分の利益や快楽のために人をだますことによって示される。

(3) 衝動性または将来の計画を立てられないこと。

(4) 易怒性および攻撃性。これは身体的な喧嘩または暴力を繰り返すことによって示される。

(5) 自分または他人の安全を考えない向こう見ずさ。

(6) 一貫して無責任であること。これは仕事を安定して続けられない、または経済的な義務を果たさない、ということを繰り返すことによって示される。

(7) 良心の呵責の欠如。これは他人を傷つけたり、いじめたり、または他人のものを盗んだりしたことに無関心であったり、それを正当化したりすることによって示される。

B. その人は少なくとも18歳である。

C. 15歳以前に発症した行為障害の証拠がある。

D. 反社会的な行為が起こるのは、統合失調症や躁病エピソードの経過中のみではない。

② 境界性パーソナリティ障害 (301.83)

対人関係、自己像、感情の不安定および著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ(またはそれ以上)によって示される。

(1) 現実、または想像の中で見捨てられることを避けようとするなりふりかまわない努力。(注)基準5で取り上げられる自殺行為または自傷行為は含めない。

(2) 理想化とこき下ろしとの両極端を揺れ動くことによって特徴づけられる、不安定で激しい対人関係様式。

(3) 同一性障害: 著明で持続的な不安定な自己像または自己感。

(4) 自己を傷つける可能性のある衝動性で、少なくとも2つの領域にわたるもの(例: 浪費、性行為、物質乱用、無謀な運転、むちゃ食い)。(注)基準5で取り上げられる自殺行為または自傷行為は含めない。

(5) 自殺の行動、そぶり、脅し、または自傷行為の繰り返し。

(6) 顕著な気分反応性による感情不安定性(例: 通常は2~3時間持続し、2~3日以上持続することはまれな、エピソード的に起こる強い不快気分、いらいら、または不安)。

(7) 慢性的な空虚感。

(8) 不適切で激しい怒り、または怒りの制御の困難(例: しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取っ組み合いの喧嘩を繰り返す)。

(9) 一過性のストレス関連性の妄想様観念または重篤な解離性症状。

薬物関連精神疾患調査用紙

(2008年度版)

本調査の実施要領は以下の通りです；

- (1) 調査期間: 2008年9月1日～10月31日
- (2) 対象患者: 上記期間に、貴施設にて外来(初診・再診ともに含みます)または入院で診療を受けた、アルコール以外の薬物を主たる使用薬物とするすべての「薬物関連精神疾患」患者。
- (3) 方法: 口頭で同意を取得できた場合は本調査用紙による面接、また面接調査が困難な場合は診療録からの転記とします。
- (4) 調査用紙返送期限: 2008年11月30日

* 面接による調査 診療録からの転記 (どちらかにチェックをお願いします)

* 報告症例がない場合、下記のいずれかにチェックをお願いします

調査期間中に **該当患者なし**

該当患者はいたが面接調査への協力を拒否された

(このような患者さんは何名くらいおられたか、参考までにお知らせ下さい: 症例数 _____ 例)

貴施設名 _____

記載年月日 2008年 月 日

記載医師名 _____ 医師

* 本調査に関するお知らせ、追加文書の添付等のため、先生のメールアドレスをお知らせ頂ける場合は、右に御記入下さい。 _____ @ _____ (職場用, 個人用)

***** お問い合わせは下記までお願いします *****

厚生労働科学研究「全国精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」

分担研究者: 尾崎 茂 (E-mail: ozaki@ncnp.go.jp)

国立精神・神経センター精神保健研究所, 薬物依存研究部

〒187-8553 小平市小川東町 4-1-1

【tel】 ①042-346-1869(直通), ②042-341-2712, 内線 6218・6225 【fax】042-346-1954

- 1)性別 1.男 2.女
 2)調査時年齢 1.満()歳 99.不明
 3)最終学歴 1.小学校 2.中学校 3.高校 4.専門学校 5.短大 6.大学 99.不明
 4)在学・卒業の別 1.在学中 2.中退 3.卒業 99.不明
 5)職歴 1.乱用前職業(, 99.不明) 2.現在の職業(, 99.不明)

(下記のコード番号を記入。【例】主婦・29、無職・31、“暴力団員”の場合は「31無職」を含め日常的業種を選択)

01. 農林漁業 02. 商人(卸・小売り) 03. 不動産業 04. 金融業 05. 自営の職人 06. 露天・行商 07. その他の自営業 08. 団体役員
 09. 会社員 10. 店員 11. 工員 12. 公務員 13. 風俗営業関係者 14. 風俗営業以外の飲食業関係者 15. 興業関係者 16. 旅館業関係者
 17. 交通運輸業関係者 18. 土木建築業関係者 19. 日雇い労働者 20. その他の被雇用者 21. 医療業関係 22. 芸能関係 23. 船員
 24. 小学生 25. 中学生 26. 高校生 27. 大学生 28. 各種学校生 29. 主婦 30. 家事手伝い 31. 無職 32. 不定 33.その他

6)薬物乱用開始前・後における交友関係(複数選択可)

- ①暴力団員との関係 0.これまでなし 1.乱用前にあり 2.乱用後にあり 99.不明
 ②非行グループとの関係 0.これまでなし 1.乱用前にあり 2.乱用後にあり 99.不明
 ③薬物乱用者との関係 0.これまでなし 1.乱用前にあり 2.乱用後にあり 99.不明

7)補導・逮捕歴 0.これまでなし 1.乱用前にあり【内容_{下記より}: 】 2.乱用後にあり【内容_{下記より}: 】 99.不明

【内容】①窃盗 ②暴行・傷害 ③恐喝 ④強盗 ⑤薬物関連(所持・使用等) ⑥道交法 ⑦その他

8)刑事・矯正施設入所歴 0.なし 1.あり【①鑑別所 ②少年院 ③留置場 ④拘置所 ⑤刑務所 ⑥その他()】 99.不明

9)現在の配偶関係 1.未婚 2.同棲 3.内縁 4.既婚 5.別居 6.離婚 7.死別 8.再婚 9.その他() 99.不明

10)タバコの使用歴 0.なし 1.あり【①使用開始: __歳, 不明 ②最終使用: __歳, 不明】 99.使用歴は不明

11)アルコールの使用歴 0.なし 1.あり【①使用開始: __歳, 不明 ②最終使用: __歳, 不明】 99.使用歴は不明

12)アルコール問題の既往 0.なし 1.あり【①問題飲酒レベル(過去・現在) ②依存レベル(過去・現在) ③程度は不明】 99.不明

13)これまでの薬物使用歴について(例)にならって記入して下さい。ただし治療で用いた薬物は除きます。

(「方法*」は下欄から該当する番号を選択。「年齢」が不明の場合は「99」。「依存*」は薬物使用の“コントロール喪失”を目安として。)

使用薬物	【これまで】	【初回使用时】	【過去1年間】	【過去1ヶ月間】	乱用開始から 「依存*」に至 る期間(月)	最終使用 年齢
	使用の有無	年齢 方法*	使用の有無 方法*	使用の有無 方法*		
(例) 覚せい剤	1.あり 2.なし 3.不明	20歳 ^(1~8) 2 ^{(あり)2なし 3.不明^(1~8)}	4, 2 ^{(あり)2なし 3.不明^(1~8)}	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	約28ヵ月	25歳
1. 覚せい剤	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
2. 有機溶剤	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「有機溶剤」(=各種「吸入剤」含む)薬物名: シナー, トルエン, ラッカー, ホント, ガス類, その他(薬物名);						
3. 大麻	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「大麻」の形態: マリファナ(葉), 樹脂, ハシシオイル, その他;						
4. コカイン	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
5. ヘロイン	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
6. MDMA(エクスタシー)	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
7. マジックマッシュルーム	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
8. LSD	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
9. その他①	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「その他①」(薬物名):						
10. 睡眠薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「睡眠薬」剤名: トリアゾラム, フルトラゼハム, プロムフレリル尿素, “ウット”, プロチゾラム, ニトラゼハム, その他(薬剤名);						
11. 抗不安薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「抗不安薬」剤名: エチゾラム, アルプラゾラム, ジアゼハム, プロマゼハム, その他(薬剤名);						
12. 鎮痛薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「鎮痛薬」剤名: セデス, ナロン, ソセゴン・ベンタジン, その他(薬剤名);						
13. 鎮咳薬	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「鎮咳薬」剤名(ブロン液, ブロ錠, トン, その他(薬剤名));						
14. リタリン	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
15. その他②	1.あり 2.なし 3.不明	歳 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)	1.あり 2.なし 3.不明 ^(1~8)		歳
*「その他②」(薬物名):						

- 「方法*」 1. 経口 2. 静注 3. 吸引(主に有機溶剤) 4. 加熱吸煙(いわゆる“あぶり”: コカイン・クラック, 覚せい剤など)
 (複数選択可) 5. 喫煙(主に大麻) 6. 経鼻 7. その他 8. 不明

14) はじめて使用した薬物は何ですか？(* 処方薬・医薬品については、治療目的以外の使用(=乱用)とします。)

1.覚せい剤 2.有機溶剤 3.大麻 4.コカイン 5.ヘロイン 6.MDMA(エクスタシー) 7.マジックマッシュルーム 8.LSD
9.睡眠薬 10.抗不安薬 11.鎮痛薬 12.鎮咳薬 13.リタリン 14.その他() 99.不明

15) 初回使用薬物(“質問14”)の薬物を はじめて使用した動機は次のうちどれでしたか？(複数選択可)

1.誘われて 2.刺激を求めて 3.好奇心・興味から 4.断りきれずに 5.自暴自棄になって 6.覚醒効果を求めて
7.疲労の軽減 8.性的効果を求めて 9.ストレス解消 10.抑うつ気分の軽減 11.不安の軽減 12.不眠の軽減
13.疼痛の軽減 14.咳嗽の軽減 15.やせるため 16.その他() 99.不明

16) 初回使用薬物(“質問14”)の薬物を 使用するきっかけとなった人物は次のうち誰でしたか？(複数選択可)

1.なし(自発的使用) 2.配偶者 3.同棲中の相手 4.恋人・愛人 5.同性の友人 6.異性の友人 7.知人
8.医師 9.薬剤師 10.親 11.同胞 12.密売人 13.その他() 99.不明

17) インターネットなどのメディアが薬物を使用するきっかけとなっていますか？

0.なっていない
1.なっている【具体的に: ①インターネット ②TV ③書籍・雑誌 ④新聞報道 ⑤その他()】
99.不明

18) 調査時点における「主たる薬物」(=現在の精神科的症状に関して臨床的に最も関連が深いと思われる薬物)をひとつ選択して下さい。(複数の薬物が同程度に関与していると考えられる場合は、複数選択して下さい。)

1.覚せい剤 2.有機溶剤 3.大麻 4.コカイン 5.ヘロイン 6.MDMA(エクスタシー) 7.マジックマッシュルーム 8.LSD
9.睡眠薬 10.抗不安薬 11.鎮痛薬 12.鎮咳薬 13.リタリン 14.その他() 99.不明

19) “質問18)”で選択した「主たる薬物」の最近1年間における主な入手経路は以下のうちどれですか？(複数選択可)

1.最近1年間は使用していない 2.友人 3.知人 4.恋人・愛人 5.家族 6.密売人(日本人) 7.密売人(外国人)
8.医師 9.薬局 10.インターネット 11.その他() 99.不明

20) “質問18)”で選択した「主たる薬物」について、現在、精神科的には以下のどの診断(ICD-10)に該当しますか。該当する診断に○をつけて下さい。(主診断:ひとつ, 副診断:複数選択可。)

ICD-10 診断分類	主診断	副診断
1. (F1x.0) 急性中毒		
2. (F1x.1) 有害な使用(心身の健康に害が起きているが、「依存症候群」「精神病性障害」は満たさないもの)		
3. (F1x.2) 依存症候群		
4. (F1x.3) 離脱状態		
5. (F1x.4) せん妄を伴う離脱状態(アルコール性振戦せん妄等)		
6. (F1x.5x) 精神病性障害(物質使用中または使用后2週以内の発症、症状の持続は48時間以上で6ヶ月以内)		
7. (F1x.5*) 精神病性障害(物質使用中または使用后2週以内の発症、症状の持続は48時間以上で6ヶ月以上)		
8. (F1x.6) 健忘症候群		
9. (F1x.7) 残遺性障害(フラッシュバック、気分・認知・人格障害等)・遅発性精神病性障害(使用后2~6週の発症)		
10. (F1x.8) 他の精神および行動の障害		

21) これまでに薬物使用に誘発された「精神病エピソード」の既往がある場合、その発症年齢は何歳でしたか？

1. 既往がある【発症:()歳, 不明】 2. 既往はない 99. 既往は不明

22) 精神疾患の家族歴はありますか？(アルコール・薬物関連精神疾患またはその他の精神疾患)

0.なし 1.あり 99.不明
*「あり」の場合【①続柄(); 精神疾患名(), ②続柄(); 精神疾患名()】、不明

23) これまでに、自傷行為または自殺企図がみられたことがありますか？

0.なし 1.あり【その内容: ①自傷行為(歳頃) ②自殺企図(歳頃) ③どちらともいえない】 99.不明

24) これまでに経験した「生育史上の問題」について、下記から選んで下さい(複数回答可)。

0. とくになし 1. 15歳以前の親との離別【①父親 ②母親】 2. 不登校 3. いじめられ体験 4. 家庭内暴力
5. 被虐待【内容: ①身体的 ②性的 ③心理的(ネグレクトなど) ④その他(); 年齢: ____歳頃】
6. その他(内容:) 99. 不明

25) 薬物関連精神疾患に関する精神科治療の開始年齢は何歳でしたか?(他院での治療歴があれば含めて下さい)

1. ()歳 99. 不明

26) 今回の外来受診または入院に至る受診経路は以下のうちどれですか?

1. 自発的な受診
2. 周囲のすすめ【①家族 ②友人・知人 ③職場関係者 ④学校 ⑤その他()】
3. 医療機関【①精神科クリニック ②精神科病院 ③一般科医療機関 ④その他()】
4. 保健福祉・行政機関【①精神保健福祉センター ②保健所 ③福祉事務所 ④児童相談所 ⑤一般救急搬送
⑥精神科救急システム ⑦鑑定 ⑧その他()】
5. 刑事司法機関【①警察 ②保護観察所 ③裁判所 ④弁護士 ⑤保護司 ⑥民生委員 ⑦その他()】
6. 民間リハビリ施設・自助グループ【①ダルク ②NA ③AA ④その他()】
7. その他() 99. 不明

27) これまでに「薬物依存症」または「アルコール依存症」用の何らかのプログラムを利用したことがありますか? 利用したことがある場合、実施場所と内容を下記から選んで下さい(複数選択可)。

0. 利用したことはない
1. 利用したことがある
A. 次のどちらのプログラムを利用しましたか?
①「薬物依存症」のためのプログラム ②「アルコール依存症」のためのプログラム 99. 不明
B. プログラムの実施場所はどこでしたか?
①精神科医療機関 ②精神保健福祉センター ③保健所 ④自助グループ【A.NA I.AA U.断酒会】
⑤民間リハビリ施設(ダルク等) ⑥その他() 99. 不明
C. プログラムの内容はどのようなものでしたか?
①教育プログラム(講義形式のもの、教育ビデオ、テキスト学習、等)
②グループミーティング ③自助グループ(NA, AA等)・ダルク等のメンバーによるメッセージ
④認知行動療法 ⑤運動療法 ⑥内観療法 ⑦生活技能訓練(SST, 等)
⑧家族のためのプログラム ⑨その他() 99. 不明

28) この患者さんの治療および回復において問題と考えられる点について、重要なものから 3項目を下記より選んで下さい。

1. 断薬への動機付けが希薄なこと
2. 薬物の使用欲求・渴望のコントロールが困難なこと
3. 遷延性・持続性の精神病性障害
4. 長期にわたる薬物使用に伴う認知機能障害
5. 精神疾患の併存【①気分障害 ②不安障害 ③摂食障害 ④パーソナリティ障害 ⑤その他()】
6. 基本的なソーシャルスキルが身に付いていないこと
7. 家族の問題(薬物関連問題に関する理解や協力の乏しさ, 虐待の既往, 家族の物質使用障害・精神疾患, 等)
8. 薬物使用に関連した交友関係を断ち切れないこと
9. 自助グループにつながらないこと【①地域に存在しない ②存在するが本人が拒否 ③その他()】
10. 住居など地域の受け皿がないこと
11. 就労または経済的問題
12. 刑事司法的問題【具体的に: 】
13. その他

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

表1 精神科医療施設の種別と回答状況

	総施設数	回答のあった施設数と症例数				1施設あたり有効回答症例数
		回答あり施設数*	症例報告あり		症例なし施設数	
			施設数*	有効症例数		
国立病院	44 (2.7%)	27 (61.4%)	9 (20.5%)	37 (13.0%)	18 (40.9%)	4.1
自治体立病院						
都道府県立病院	74 (4.6%)	33 (44.6%)	11 (14.9%)	40 (14.1%)	22 (29.7%)	3.6
市町村立病院	69 (4.3%)	35 (50.7%)	5 (7.2%)	4 (1.4%)	30 (43.5%)	0.8
大学医学部附属病院	83 (5.1%)	51 (61.4%)	12 (14.5%)	21 (7.4%)	39 (47.0%)	1.8
民間病院	1352 (83.4%)	639 (47.3%)	71 (5.3%)	182 (64.1%)	568 (42.0%)	2.6
計	1622 (100.0%)	785 (48.4%)	108 (6.7%)	284 (100.0%)	677 (41.7%)	2.6

(回答あり施設数*, 症例報告あり施設数*には, 「回答拒否例 (計115例)」を報告した施設を含む)

表2 主たる使用薬物別にみた症例数 (%)

主たる使用薬物	男性	女性	合計
覚せい剤	102 (68.9%)	46 (31.1%)	148 (52.1%)
有機溶剤	32 (80.0%)	8 (20.0%)	40 (14.1%)
睡眠薬	18 (75.0%)	6 (25.0%)	24 (8.5%)
抗不安薬	9 (69.2%)	4 (30.8%)	13 (4.6%)
鎮痛薬	1 (16.7%)	5 (83.3%)	6 (2.1%)
鎮咳薬	5 (62.5%)	3 (37.5%)	8 (2.8%)
大麻	6 (85.7%)	1 (14.3%)	7 (2.5%)
リタリン	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (0.7%)
多剤 (規制薬物)	9 (60.0%)	6 (40.0%)	15 (5.3%)
多剤 (医薬品)	8 (50.0%)	8 (50.0%)	16 (5.6%)
その他	3 (60.0%)	2 (40.0%)	5 (1.8%)
計	194 (68.3%)	90 (31.7%)	284 (100.0%)

表3-1 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

	覚せい剤 (148例)		有機溶剤 (40例)		睡眠薬 (24例)		抗不安薬 (13例)		鎮痛薬 (6例)		鎮咳薬 (8例)	
	男性 性比 (68.9%)	女性 (31.1%)	男性 (80.0%)	女性 (20.0%)	男性 (75.0%)	女性 (25.0%)	男性 (69.2%)	女性 (30.8%)	男性 (16.7%)	女性 (83.3%)	男性 (62.5%)	女性 (37.5%)
年齢構成												
≤14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
15~19	1 (1.0%)	0 (0.0%)	3 (9.4%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
20~24	4 (3.9%)	6 (13.0%)	2 (6.3%)	2 (25.0%)	1 (5.6%)	1 (16.7%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
25~29	9 (8.8%)	8 (17.4%)	5 (15.6%)	1 (12.5%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)
30~34	18 (17.6%)	7 (15.2%)	4 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
35~39	20 (19.6%)	13 (28.3%)	6 (18.8%)	2 (25.0%)	2 (11.1%)	3 (50.0%)	1 (11.1%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
40~44	10 (9.8%)	6 (13.0%)	5 (15.6%)	2 (25.0%)	4 (22.2%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
45~49	15 (14.7%)	2 (4.3%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
50~54	5 (4.9%)	1 (2.2%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	4 (22.2%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
55~59	9 (8.8%)	1 (2.2%)	4 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
60~64	8 (7.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
65≤	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	2 (2.0%)	2 (4.3%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	102 (100.0%)	46 (100.0%)	32 (100.0%)	8 (100.0%)	18 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	4 (100.0%)	1 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	3 (100.0%)
平均 (男女別)	41.3±11.7	34.5±8.0	35.8±11.6	30.8±10.6	47.3±14.7	39.8±11.9	32.9±9.0	47.8±13.5	41	40.4±10.1	34.4±4.6	29.0±15.6
平均 (全体)	39.2±11.1		34.8±11.4		45.5±14.2		37.8±12.4		40.5±9.0		32.4±9.5	

表3-2 主たる使用薬物別にみた性別・年齢の分布

性別 性比	大麻 (7例)		リタリン (2例)		その他 (5例)		多剤 (医薬品) (16例)		多剤 (規制薬物) (15例)	
	男性 (85.7%)	女性 (14.3%)	男性 (50.0%)	女性 (50.0%)	男性 (60.0%)	女性 (40.0%)	男性 (50.0%)	女性 (50.0%)	男性 (60.0%)	女性 (40.0%)
年齢構成										
≤14	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
15~19	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)
20~24	2 (33.3%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)
25~29	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)
30~34	2 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	3 (37.5%)	2 (22.2%)	1 (16.7%)
35~39	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)
40~44	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)
45~49	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
50~54	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
55~59	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
60~64	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
65≤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)
計	6 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)	8 (100.0%)	8 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)
平均 (男女別)	28.1±5.6	20	30	41	31.7±7.6	36.5±16.3	39.9±8.5	35.1±8.0	30.9±6.5	30.3±10.5
平均 (全体)	27.0±6.0		35.5±7.8		33.6±10.1		37.3±8.3		30.6±8.1	

表4 主たる使用薬物別にみた最終学歴

	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大麻	リタリン	その他	多剤	多剤	計	
										(医薬品)	規制薬物		
在学中										1 (2.5%)		1 (0.4%)	
中学校	中退	2 (1.4%)										2 (0.7%)	
卒業	51 (34.5%)	13 (32.5%)	1 (4.2%)	3 (23.1%)		2 (25.0%)			2 (40.0%)	3 (18.8%)	3 (20.0%)	78 (27.5%)	
不明	4 (2.7%)	1 (2.5%)										5 (1.8%)	
高校	在学中	1 (0.7%)	1 (2.5%)				1 (14.3%)					1 (6.7%)	4 (1.4%)
中退	37 (25.0%)	8 (20.0%)	2 (8.3%)	1 (7.7%)	1 (16.7%)		2 (28.6%)			2 (12.5%)	4 (26.7%)	57 (20.1%)	
卒業	27 (18.2%)	9 (22.5%)	9 (37.5%)	5 (38.5%)	2 (33.3%)	2 (25.0%)		1 (50.0%)		5 (31.3%)	3 (20.0%)	63 (22.2%)	
不明	1 (0.7%)		1 (4.2%)									2 (0.7%)	
専門学校	在学中												
中退	4 (2.7%)	3 (7.5%)									1 (6.7%)	8 (2.8%)	
卒業	4 (2.7%)	2 (5.0%)	2 (8.3%)		3 (50.0%)		2 (28.6%)		2 (40.0%)	1 (6.3%)		16 (5.6%)	
不明	1 (0.7%)						1 (14.3%)					2 (0.7%)	
短大	在学中												
中退			3 (12.5%)									3 (1.1%)	
卒業	1 (0.7%)	2 (5.0%)		2 (15.4%)								5 (1.8%)	
不明													
大学	在学中						1 (14.3%)		1 (20.0%)			2 (0.7%)	
中退	2 (1.4%)					1 (12.5%)				2 (12.5%)	1 (6.7%)	6 (2.1%)	
卒業	2 (1.4%)		5 (20.8%)	2 (15.4%)		1 (12.5%)		1 (50.0%)		2 (12.5%)	2 (13.3%)	15 (5.3%)	
不明													
不明	11 (7.4%)		1 (4.2%)				2 (25.0%)			1 (6.3%)		15 (5.3%)	
計	148 (100.0%)	40 (100.0%)	24 (100.0%)	13 (100.0%)	6 (100.0%)	8 (100.0%)	7 (100.0%)	2 (100.0%)	5 (100.0%)	16 (100.0%)	15 (100.0%)	284 (100.0%)	

表5-1 主たる使用薬物別にみた職業歴（薬物乱用前および現在）

	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬		鎮咳薬	
	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)
1 農林漁業	2	2			2							
2 商人（卸・小売り）			1	1								
3 不動産業											1	
4 金融業	1	1										
5 自営職人		2		1			1	1				
6 露天・行商	1											
7 その他自営業					1		1					
8 団体役員												
9 会社員	8	2	1		6	2	1	1	1			
10 店員	7		2			1						
11 工員	10	2	2	1			1	1				
12 公務員	1		1						1			
13 風俗営業関係	8	2	1		1	1						
14 飲食業	13	3	1				1		1		2	
15 興業関係												
16 旅館業	1											
17 交通運輸	8	1	4		1							
18 土木建築業	24	4	3	1	1		1				1	
19 日雇い労働者	2	3							1			
20 その他の被雇用者	5	3			2	1						
21 医療業関係	2	1			4	2	1					1
22 芸能関係												
24 小学生							1					
25 中学生	8		8	1					1		1	
26 高校生	3	1	3	1	1						1	
27 大学生						1					1	
28 各種学校生			1									
29 主婦	5	5		2	2	1	1	1	2	2		
30 家事手伝い	1											1
31 無職	13	92	7	29	12	2	8		2		5	
32 不定	3				1	1						
33 不明	20	20	3	3	4	1	1		2	1	1	
34 その他	2	4	2		1	1						
計	148	148	40	40	24	24	13	13	6	6	8	8

表5-2 主たる使用薬物別にみた職業歴（薬物乱用前および現在）

	大麻		リタリン		その他		多剤（医薬品）		多剤（規制薬物）	
	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)	乱用前(%)	現在(%)
1 農林漁業		1								
2 商人（卸・小売り）										
3 不動産業										
4 金融業										
5 自営職人	1	1								
6 露天・行商										
7 その他自営業					1	1				
8 団体役員										
9 会社員			1		1		2	2	2	
10 店員							1			
11 工員										1
12 公務員								1		
13 風俗営業関係	1	1			1		1	2	1	
14 飲食業							3	1		
15 興業関係										
16 旅館業							1			
17 交通運輸					1					1
18 土木建築業		1								
19 日雇い労働者										
20 その他の被雇用者	2	1					1	1		
21 医療業関係							3	2		
22 芸能関係										
24 小学生										
25 中学生							1			
26 高校生							1		2	
27 大学生	1	1								
28 各種学校生	1									
29 主婦				1	2					1
30 家事手伝い								1		
31 無職		1	1	1	1	1	10	7		
32 不定										
33 不明	1				1	2	2	5	2	
34 その他							1			
計	7	7	2	2	5	5	16	16	15	15

表6 暴力団との関係（複数回答）

	乱用開始前 にあり	乱用開始後 にあり	これまで なし	不明	計
(主たる使用薬物)					
覚せい剤 (男)	30 (29.4%)	24 (23.5%)	33 (32.4%)	26 (25.5%)	102 (100.0%)
(女)	12 (26.1%)	9 (19.6%)	9 (19.6%)	17 (37.0%)	46 (100.0%)
有機溶剤 (男)		2 (6.3%)	18 (56.3%)	10 (31.3%)	32 (100.0%)
(女)		1 (12.5%)	6 (75.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
睡眠薬 (男)	1 (5.6%)		16 (88.9%)	1 (5.6%)	18 (100.0%)
(女)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)	6 (100.0%)
抗不安薬 (男)		2 (22.2%)	7 (77.8%)		9 (100.0%)
(女)			4 (100.0%)		4 (100.0%)
鎮痛薬 (男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)			5 (100.0%)		5 (100.0%)
鎮咳薬 (男)		1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
(女)			3 (100.0%)		3 (100.0%)
大麻 (男)	1 (16.7%)		3 (50.0%)	2 (33.3%)	6 (100.0%)
(女)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
リタリン (男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
その他 (男)			2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
(女)			2 (100.0%)		2 (100.0%)
多剤 (医薬品) (男)		2 (25.0%)	6 (75.0%)		8 (100.0%)
(女)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
多剤 (規制薬物) (男)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)
(女)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)		6 (100.0%)
計 (男)	34 (17.5%)	33 (17.0%)	93 (47.9%)	43 (22.2%)	194 (100.0%)
(女)	17 (18.9%)	16 (17.8%)	40 (44.4%)	21 (23.3%)	90 (100.0%)
男女計	51 (18.0%)	49 (17.3%)	133 (46.8%)	64 (22.5%)	284 (100.0%)

表7 非行グループとの関係（複数回答）

	乱用開始前 にあり	乱用開始後 にあり	これまで なし	不明	計
(主たる使用薬物)					
覚せい剤 (男)	43 (42.2%)	12 (11.8%)	20 (19.6%)	32 (31.4%)	102 (100.0%)
(女)	12 (26.1%)	5 (10.9%)	12 (26.1%)	18 (39.1%)	46 (100.0%)
有機溶剤 (男)	10 (31.3%)	4 (12.5%)	9 (28.1%)	10 (31.3%)	32 (100.0%)
(女)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	8 (100.0%)
睡眠薬 (男)			16 (88.9%)	2 (11.1%)	18 (100.0%)
(女)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	6 (100.0%)
抗不安薬 (男)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
(女)			4 (100.0%)		4 (100.0%)
鎮痛薬 (男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)	1 (20.0%)		4 (80.0%)		5 (100.0%)
鎮咳薬 (男)	1 (20.0%)		3 (60.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
(女)			2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
大麻 (男)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	4 (66.7%)		6 (100.0%)
(女)	1 (100.0%)				1 (100.0%)
リタリン (男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
その他 (男)	1 (33.3%)		2 (66.7%)		3 (100.0%)
(女)			2 (100.0%)		2 (100.0%)
多剤 (医薬品) (男)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
(女)	4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
多剤 (規制薬物) (男)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)
(女)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)
計 (男)	65 (33.5%)	20 (10.3%)	68 (35.1%)	49 (25.3%)	194 (100.0%)
(女)	25 (27.8%)	14 (15.6%)	32 (35.6%)	26 (28.9%)	90 (100.0%)
男女計	90 (31.7%)	34 (12.0%)	100 (35.2%)	75 (26.4%)	284 (100.0%)

表8 薬物乱用者との関係（複数回答）

	乱用開始前 にあり	乱用開始後 にあり	これまで なし	不明	計
覚せい剤 (男)	51 (50.0%)	30 (29.4%)	10 (9.8%)	24 (23.5%)	102 (100.0%)
(女)	25 (54.3%)	14 (30.4%)	3 (6.5%)	12 (26.1%)	46 (100.0%)
有機溶剤 (男)	11 (34.4%)	8 (25.0%)	7 (21.9%)	9 (28.1%)	32 (100.0%)
(女)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
睡眠薬 (男)	3 (16.7%)	2 (11.1%)	14 (77.8%)	1 (5.6%)	18 (100.0%)
(女)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	6 (100.0%)
抗不安薬 (男)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	5 (55.6%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
(女)			4 (100.0%)		4 (100.0%)
鎮痛薬 (男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)			3 (60.0%)	2 (40.0%)	5 (100.0%)
鎮咳薬 (男)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
(女)			2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
大麻 (男)	6 (100.0%)	2 (33.3%)			6 (100.0%)
(女)	1 (100.0%)				1 (100.0%)
リタリン (男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
その他 (男)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)		3 (100.0%)
(女)	1 (50.0%)		1 (50.0%)		2 (100.0%)
多剤 (男)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	4 (50.0%)	3 (37.5%)	8 (100.0%)
(医薬品) (女)		4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	8 (100.0%)
多剤 (男)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	9 (100.0%)
(規制薬物) (女)	3 (50.0%)	3 (50.0%)		2 (33.3%)	6 (100.0%)
計 (男)	79 (40.7%)	50 (25.8%)	46 (23.7%)	42 (21.6%)	194 (100.0%)
(女)	34 (37.8%)	24 (26.7%)	21 (23.3%)	22 (24.4%)	90 (100.0%)
男女計	113 (39.8%)	74 (26.1%)	67 (23.6%)	64 (22.5%)	284 (100.0%)

表9 矯正施設への入所歴の有無

主たる使用薬物	あり	なし	不明	計
覚せい剤 (男)	76 (74.5%)	19 (18.6%)	7 (6.9%)	102 (100.0%)
(女)	29 (63.0%)	13 (28.3%)	4 (8.7%)	46 (100.0%)
有機溶剤 (男)	19 (59.4%)	11 (34.4%)	2 (6.3%)	32 (100.0%)
(女)	4 (50.0%)	4 (50.0%)		8 (100.0%)
睡眠薬 (男)	1 (5.6%)	16 (88.9%)	1 (5.6%)	18 (100.0%)
(女)		5 (83.3%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)
抗不安薬 (男)	4 (44.4%)	5 (55.6%)		9 (100.0%)
(女)		4 (100.0%)		4 (100.0%)
鎮痛薬 (男)	1 (100.0%)			1 (100.0%)
(女)		4 (80.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
鎮咳薬 (男)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
(女)		2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
大麻 (男)	2 (33.3%)	4 (66.7%)		6 (100.0%)
(女)		1 (100.0%)		1 (100.0%)
リタリン (男)		1 (100.0%)		1 (100.0%)
(女)		1 (100.0%)		1 (100.0%)
その他 (男)		3 (100.0%)		3 (100.0%)
(女)		2 (100.0%)		2 (100.0%)
多剤 (男)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
(医薬品) (女)	2 (25.0%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
多剤 (男)	2 (22.2%)	6 (66.7%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
(規制薬物) (女)		6 (100.0%)		6 (100.0%)
計 (男)	109 (56.2%)	72 (37.1%)	13 (6.7%)	194 (100.0%)
(女)	35 (38.9%)	47 (52.2%)	8 (8.9%)	90 (100.0%)
男女計	144 (50.7%)	119 (41.9%)	21 (7.4%)	284 (100.0%)

表10-1 補導・逮捕歴の有無（複数選択）

		薬物乱用前 にあり	薬物乱用後 にあり	これまで なし	不明	計
覚せい剤	(男)	21 (20.6%)	69 (67.6%)	14 (13.7%)	4 (3.9%)	102 (100.0%)
	(女)	3 (6.5%)	27 (58.7%)	10 (21.7%)	6 (13.0%)	46 (100.0%)
有機溶剤	(男)	3 (9.4%)	17 (53.1%)	8 (25.0%)	4 (12.5%)	32 (100.0%)
	(女)		4 (50.0%)	4 (50.0%)		8 (100.0%)
睡眠薬	(男)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	15 (83.3%)	1 (5.6%)	18 (100.0%)
	(女)	1 (16.7%)		4 (66.7%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)
抗不安薬	(男)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
	(女)			4 (100.0%)		4 (100.0%)
鎮痛薬	(男)		1 (100.0%)			1 (100.0%)
	(女)			3 (60.0%)	2 (40.0%)	5 (100.0%)
鎮咳薬	(男)		1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
	(女)			2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
大麻	(男)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)		6 (100.0%)
	(女)	1 (100.0%)				1 (100.0%)
リタリン	(男)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
	(女)			1 (100.0%)		1 (100.0%)
その他	(男)			3 (100.0%)		3 (100.0%)
	(女)			2 (100.0%)		2 (100.0%)
多剤 (医薬品)	(男)	1 (12.5%)	3 (37.5%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
	(女)	1 (12.5%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)		8 (100.0%)
多剤 (規制薬物)	(男)	1 (11.1%)	2 (22.2%)	6 (66.7%)	1 (11.1%)	9 (100.0%)
	(女)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)
計	(男)	30 (15.5%)	99 (51.0%)	58 (29.9%)	13 (6.7%)	194 (100.0%)
	(女)	7 (7.8%)	35 (38.9%)	35 (38.9%)	11 (12.2%)	90 (100.0%)
男女計		37 (13.0%)	134 (47.2%)	93 (32.7%)	24 (8.5%)	284 (100.0%)

表10-2 薬物乱用開始前後の補導・逮捕内容（件数）

		補導・逮捕の内容						合計 (実人数)
		窃盗	傷害・暴行	恐喝	強盗	薬物関連	その他	
覚せい剤	(前)	8 (16.7%)	13 (27.1%)	5 (10.4%)	3 (6.3%)	14 (29.2%)	5 (10.4%)	48
	(後)	9 (9.2%)	8 (8.2%)	3 (3.1%)	2 (2.0%)	70 (71.4%)	6 (6.1%)	98
有機溶剤	(前)	2 (66.7%)	1 (33.3%)					3
	(後)	9 (33.3%)	2 (7.4%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	12 (44.4%)	2 (7.4%)	27
大麻	(前)	2 (50.0%)					2 (50.0%)	4
	(後)					2 (100.0%)		2
睡眠薬	(前)	1 (50.0%)				1 (50.0%)		2
	(後)						1 (100.0%)	1
抗不安薬	(前)	1 (25.0%)					3 (75.0%)	4
	(後)	1 (20.0%)				2 (40.0%)	2 (40.0%)	5
鎮痛薬	(前)							
	(後)						1 (100.0%)	1
鎮咳薬	(前)							
	(後)	1 (50.0%)					1 (50.0%)	2
リタリン	(前)							
	(後)							
多剤 (規制薬物)	(前)	2 (100.0%)						2
	(後)	1 (20.0%)				3 (60.0%)	1 (20.0%)	5
多剤 (医薬品)	(前)	1 (33.3%)				1 (33.3%)	1 (33.3%)	3
	(後)	1 (16.7%)				4 (66.7%)	1 (16.7%)	6
その他	(前)							
	(後)							
計	(前)	17 (25.8%)	14 (21.2%)	5 (7.6%)	3 (4.5%)	16 (24.2%)	11 (16.7%)	66
	(後)	22 (15.0%)	10 (6.8%)	4 (2.7%)	3 (2.0%)	93 (63.3%)	15 (10.2%)	147

表 1 1 配偶関係

	未婚	同棲	内縁	既婚	別居	離婚	死別	再婚	その他	不明	計
覚せい剤	(男) 54 (52.9%)	2 (2.0%)	3 (2.9%)	8 (7.8%)	3 (2.9%)	19 (18.6%)	2 (2.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	9 (8.8%)	102
	(女) 15 (32.6%)	2 (4.3%)	1 (2.2%)	6 (13.0%)	2 (4.3%)	15 (32.6%)	3 (6.5%)	1 (2.2%)		1 (2.2%)	46
有機溶剤	(男) 23 (71.9%)		1 (3.1%)			6 (18.8%)				2 (6.3%)	32
	(女) 4 (50.0%)		1 (12.5%)	2 (25.0%)		1 (12.5%)					8
睡眠薬	(男) 7 (38.9%)	1 (5.6%)		7 (38.9%)		1 (5.6%)				2 (11.1%)	18
	(女) 2 (33.3%)			2 (33.3%)		1 (16.7%)		1 (16.7%)			6
抗不安薬	(男) 5 (55.6%)	1 (11.1%)				3 (33.3%)					9
	(女) 2 (50.0%)			1 (25.0%)		1 (25.0%)					4
鎮痛薬	(男) 1 (100.0%)										1
	(女) 1 (20.0%)			2 (40.0%)		2 (40.0%)					5
鎮咳薬	(男) 3 (60.0%)			2 (40.0%)							5
	(女) 2 (66.7%)			1 (33.3%)							3
大麻	(男) 4 (66.7%)					2 (33.3%)					6
	(女) 1 (100.0%)										1
リタリン	(男) 1 (100.0%)										1
	(女)			1 (100.0%)							1
その他	(男) 2 (66.7%)			1 (33.3%)							3
	(女)			2 (100.0%)							2
多剤 (医薬品)	(男) 4 (50.0%)			1 (12.5%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)					8
	(女) 3 (37.5%)			1 (12.5%)		3 (37.5%)			1 (12.5%)		8
多剤 (規制薬物)	(男) 5 (55.6%)		1 (11.1%)	1 (11.1%)		2 (22.2%)					9
	(女) 3 (50.0%)			1 (16.7%)					2 (33.3%)		6
計	(男) 109 (56.2%)	4 (2.1%)	5 (2.6%)	20 (10.3%)	4 (2.1%)	35 (18.0%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	13 (6.7%)	194
	(女) 33 (36.7%)	2 (2.2%)	2 (2.2%)	19 (21.1%)	2 (2.2%)	23 (25.6%)	3 (3.3%)	2 (2.2%)		4 (4.4%)	90
男女計	142 (50.0%)	6 (2.1%)	7 (2.5%)	39 (13.7%)	6 (2.1%)	58 (20.4%)	5 (1.8%)	3 (1.1%)	1 (0.4%)	17 (6.0%)	284

表 1 2-1 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	覚せい剤 (覚せい剤)		有機溶剤 (有機溶剤)		睡眠薬 (睡眠薬)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢 (歳)						
<10						
10~14	1 (1.0%)	2 (4.3%)	11 (34.4%)	2 (25.0%)		
15~19	32 (31.4%)	22 (47.8%)	14 (43.8%)	3 (37.5%)	2 (11.1%)	
20~24	39 (38.2%)	9 (19.6%)	4 (12.5%)	2 (25.0%)		
25~29	9 (8.8%)	3 (6.5%)			6 (33.3%)	
30~34	6 (5.9%)	3 (6.5%)	1 (3.1%)		2 (11.1%)	1 (16.7%)
35~39	4 (3.9%)	2 (4.3%)	1 (3.1%)	1 (12.5%)	2 (11.1%)	
40~44	1 (1.0%)					
45~49	1 (1.0%)				1 (5.6%)	1 (16.7%)
50~54	1 (1.0%)				2 (11.1%)	
55~59					1 (5.6%)	
60~64						
65~					1 (5.6%)	
不明	8 (7.8%)	5 (10.9%)	1 (3.1%)		1 (5.6%)	4 (66.7%)
計	102 (100.0%)	46 (100.0%)	32 (100.0%)	8 (100.0%)	18 (100.0%)	6 (100.0%)
平均年齢 (男女別)	22.4±6.9	20.6±6.1	17.2±5.4	20.0±8.5	35.6±14.2	37.5±10.6
平均年齢 (全体)	21.9±6.7		17.7±6.2		35.8±13.6	

表 1 2-2 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	抗不安薬 (抗不安薬)		鎮痛薬 (鎮痛薬)		鎮咳薬 (鎮咳薬)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢 (歳)						
10~14						
15~19	1 (11.1%)				1 (20.0%)	2 (66.7%)
20~24	2 (22.2%)				2 (40.0%)	
25~29	1 (11.1%)			1 (20.0%)		
30~34	1 (11.1%)					1 (33.3%)
35~39		2	1 (100.0%)		1 (20.0%)	
40~44				1 (20.0%)		
45~49				1 (20.0%)		
50~54						
55~59						
不明	4 (44.4%)	2 (50.0%)		2 (40.0%)	1 (20.0%)	
計	9 (100.0%)	4 (50.0%)	1 (100.0%)	5 (100.0%)	5 (100.0%)	3 (100.0%)
平均年齢 (男女別)	24.0±5.7	37.5±2.1	35.0	38.0±11.3	25.0±10.1	23.7±9.0
平均年齢 (全体)	27.9±8.1		37.3±9.3		24.4±8.8	

表 1 2-3 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	大 麻 (大 麻)		その他 (その他)	
	男性	女性	男性	女性
年齢 (歳)				
10~14	1 (16.7%)			
15~19	1 (16.7%)	1 (100.0%)		
20~24	2 (33.3%)			
25~29				
30~34	1 (16.7%)		1 (33.3%)	
35~39				
45~49				1 (50.0%)
50~54				
55~59				
不明	1 (16.7%)		2 (66.7%)	1 (50.0%)
計	6 (100.0%)	1 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)
平均年齢 (男女別)	20.6±6.8	19.0	29.5±3.5	34.0±15.6
平均年齢 (全体)	20.3±6.2		31.8±9.6	

表 1 2-4 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	多剤 (医薬品)			
	(睡眠薬)		(抗不安薬)	
年齢 (歳)	男性	女性	男性	女性
15~19	2 (11.1%)			2 (25.0%)
20~24			2 (25.0%)	2 (25.0%)
25~29	6 (33.3%)		1 (12.5%)	
30~34	2 (11.1%)	1 (16.7%)		1 (12.5%)
35~39	2 (11.1%)		1 (12.5%)	
40~44			1 (12.5%)	
45~49	1 (5.6%)	1 (16.7%)	1 (12.5%)	
50~54	2 (11.1%)			
55~59	1 (5.6%)			
60~64				
65~69	1 (5.6%)			
不明	1 (5.6%)	4 (66.7%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)
計	18 (100.0%)	6 (100.0%)	8 (100.0%)	8 (100.0%)
平均年齢 (男女別)	31.4±9.7	21.7±6.0	32.5±10.2	21.2±6.8
平均年齢 (全体)	26.9±9.4		27.4±10.3	

表 1 2-5 主たる使用薬物別にみた薬物初回使用年齢

主たる使用薬物 (使用薬物)	多剤 (規制薬物)					
	(覚せい剤)		(有機溶剤)		(大麻)	
年齢 (歳)	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10~14			2 (22.2%)	1 (16.7%)		
15~19	3 (33.3%)	3 (50.0%)	4 (44.4%)	1 (16.7%)	1 (11.1%)	2 (33.3%)
20~24	3 (33.3%)	1 (16.7%)			1 (11.1%)	2 (33.3%)
25~29		1 (16.7%)				
30~34						
35~39	1 (11.1%)	1 (16.7%)				1 (16.7%)
不明	2 (22.2%)		3 (33.3%)	4 (66.7%)	7 (77.8%)	1 (16.7%)
計	9 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)
平均年齢 (男女別)	21.7±7.1	22.3±7.6	15.3±2.5	14.5±0.7	20.5±3.5	22.6±7.6
平均年齢 (全体)	22.0±7.0		15.1±2.2		22.0±6.5	

表 1 3 主たる薬物別にみた薬物使用期間

使用期間 (年)	主たる使用薬物						
	覚せい剤	有機溶剤	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	大麻
平均	12.0±10.3	13.5±9.9	8.2±5.9	4.3±5.8	5.3±1.2	7.8±6.4	4.8±4.5
<1	4 (2.7%)	2 (5.0%)	1 (4.2%)	0	0	1 (12.5%)	2 (28.6%)
1~2	7 (4.7%)	1 (2.5%)	1 (4.2%)	2 (15.4%)	0	0	0
2~3	5 (3.4%)	1 (2.5%)	0	0	0	1 (12.5%)	0
3~4	3 (2.0%)	3 (7.5%)	1 (4.2%)	0	0	1 (12.5%)	2 (28.6%)
4~5	12 (8.1%)	0	4 (16.7%)	0	1 (16.7%)	0	0
5~10	30 (20.3%)	5 (12.5%)	0	0	2 (33.3%)	0	0
10~15	16 (10.8%)	6 (15.0%)	3 (12.5%)	1 (7.7%)	0	3 (37.5%)	2 (28.6%)
15~20	8 (5.4%)	4 (10.0%)	0	0	0	0	0
20~25	9 (6.1%)	5 (12.5%)	1 (4.2%)	0	0	0	0
25~30	7 (4.7%)	1 (2.5%)	0	0	0	0	0
30~35	4 (2.7%)	2 (5.0%)	0	0	0	0	0
35≤	5 (3.4%)	1 (2.5%)	0	0	0	0	0
不明	38 (25.7%)	9 (22.5%)	13 (54.2%)	10 (76.9%)	3 (50.0%)	2 (25.0%)	1 (14.3%)
<5年以上>	79 (53.4%)	24 (60.0%)	4 (16.7%)	1 (7.7%)	2 (33.3%)	3 (37.5%)	2 (28.6%)
<10年以上>	49 (33.1%)	19 (47.5%)	4 (16.7%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	2 (28.6%)
計	148 (100.0%)	40 (100.0%)	24 (100.0%)	13 (100.0%)	6 (100.0%)	8 (100.0%)	7 (100.0%)

表 1 4-1 主たる使用薬物別にみた併用薬物と使用開始年齢

(併用薬物)	主たる使用薬物			
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤 (規制薬物)
なし	20 (13.5%)	6 (15.0%)	0	0
覚せい剤	148 (100.0%) 21.9±6.7	7 (17.5%) 27.3±11.4	3 (42.9%) 21.7±3.8	13 (92.9%) 22.0±7.0
有機溶剤	62 (41.9%) 15.6±4.7	40 (100.0%) 17.7±6.2	0 (0.0%)	8 (57.1%) 15.1±2.2
睡眠薬	16 (10.8%) 28.6±9.5	4 (10.0%) 25.3±5.2	2 (28.6%) 19.0±1.4	5 (35.7%) 18.6±1.7
抗不安薬	5 (3.4%) 27.0±3.0	1 (2.5%) 30.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮痛薬	6 (4.1%) 18.8±8.8	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	4 (2.7%) 20.5±7.3	1 (2.5%) 18.0	0 (0.0%)	1 (7.1%) 20.0
リタリン	3 (2.0%) 33.3±11.5	1 (2.5%) 22.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)
大麻	38 (25.7%) 21.7±6.8	6 (15.0%) 19.0±3.9	7 (100.0%) 20.3±3.8	7 (50.0%) 22.0±6.5
コカイン	13 (8.8%) 22.6±4.4	0 (0.0%)	2 (28.6%) 24.5±7.8	2 (14.3%) 29.5±9.2
ヘロイン	4 (2.7%) 24.0±4.1	0 (0.0%)	1 (14.3%) 28.0	0 (0.0%)

(複数回答)

表 1 4-2 主たる使用薬物別にみた併用薬物と使用開始年齢

(併用薬物)	主たる使用薬物					
	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	多剤 (医薬品)
なし	4 (16.7%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0
覚せい剤	4 (16.7%) 28.0±8.6	2 (15.4%) 19.0±1.4	0 (0.0%)	1 (12.5%) 19.0	0 (0.0%)	4 (25.0%) 19.8±2.5
有機溶剤	0 (0.0%)	2 (15.4%) 13.5±3.5	0 (0.0%)	1 (12.5%) 16.0	0 (0.0%)	7 (43.8%) 15.0±1.5
睡眠薬	24 (100.0%) 35.8±13.6	5 (38.5%) 27.0±6.6	0 (0.0%)	1 (12.5%) 29.0	0 (0.0%)	13 (81.3%) 26.9±9.4
抗不安薬	7 (29.2%) 33.6±15.9	13 (100.0%) 27.9±8.1	1 (16.7%) 28.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (68.8%) 27.4±10.3
鎮痛薬	2 (8.3%) 39.5±24.7	1 (7.7%) 18.0	6 (100.0%) 37.3±9.3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (18.8%) 29.0±6.6
鎮咳薬	2 (8.3%) 34.0±8.5	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (100.0%) 24.4±8.8	0 (0.0%)	2 (12.5%) 31.0±12.7
リタリン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%) 24.5±7.8	0 (0.0%)
大麻	1 (4.2%) 23.0	3 (23.1%) 19.3±2.1	0 (0.0%)	2 (25.0%) 17.0±1.4	1 (50.0%) 17.0	4 (25.0%) 19.8±3.6
コカイン	0 (0.0%)	1 (7.7%) 30.0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%) 20.0
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%) 20.0

(複数回答)

表 1 5 - 1 主たる使用薬物別にみた過去1年間における使用薬物

(使用薬物)	主たる使用薬物				
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤 (規制薬物)	その他
覚せい剤	48 (32.4%)	1 (2.5%)	1 (14.3%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
有機製剤	3 (2.0%)	20 (50.0%)	0 (0.0%)	3 (20.0%)	0 (0.0%)
大麻	2 (1.4%)	1 (2.5%)	5 (71.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
コカイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)
MDMA	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
マジックマッシュルーム	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
LSD	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
睡眠薬	8 (5.4%)	3 (7.5%)	1 (14.3%)	3 (20.0%)	1 (20.0%)
抗不安薬	3 (2.0%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)
鎮痛薬	4 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
リタリン	0 (0.0%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
薬物別計	148 (100.0%)	40 (100.0%)	7 (100.0%)	15 (100.0%)	5 (100.0%)

表 1 5 - 2 主たる使用薬物別にみた過去1年間における使用薬物

(使用薬物)	主たる使用薬物					
	睡眠薬	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	多剤 (医薬品)
覚せい剤	2 (8.3%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
有機製剤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)
大麻	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)
コカイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ヘロイン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
MDMA	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
マジックマッシュルーム	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
LSD	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
睡眠薬	14 (58.3%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	10 (62.5%)
抗不安薬	2 (8.3%)	5 (38.5%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (56.3%)
鎮痛薬	1 (4.2%)	0 (0.0%)	6 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)
鎮咳薬	1 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	5 (62.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
リタリン	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
薬物別計	24 (100.0%)	13 (100.0%)	6 (100.0%)	8 (100.0%)	2 (100.0%)	16 (100.0%)

表16 主たる使用薬物別にみた喫煙歴

(主たる使用薬物)	喫煙歴あり		喫煙歴なし		不明・記載なし		計	使用開始年齢
	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
覚せい剤	118	(79.7%)	5	(3.4%)	25	(16.9%)	148 (100.0%)	15.7±3.4
有機溶剤	38	(95.0%)	0	(0.0%)	2	(5.0%)	40 (100.0%)	15.4±2.0
大麻	6	(85.7%)	1	(14.3%)	0	(0.0%)	7 (100.0%)	15.6±2.3
睡眠薬	17	(70.8%)	2	(8.3%)	5	(20.8%)	24 (100.0%)	19.3±4.4
抗不安薬	10	(76.9%)	2	(15.4%)	1	(7.7%)	13 (100.0%)	16.6±3.4
鎮痛薬	4	(66.7%)	0	(0.0%)	2	(33.3%)	6 (100.0%)	22.3±6.8
鎮咳薬	7	(87.5%)	0	(0.0%)	1	(12.5%)	8 (100.0%)	16.0±2.2
リタリン	1	(50.0%)	1	(50.0%)	0	(0.0%)	2 (100.0%)	12.0
多剤(規制薬物)	11	(73.3%)	0	(0.0%)	4	(26.7%)	15 (100.0%)	14.4±1.8
多剤(医薬品)	13	(81.3%)	0	(0.0%)	3	(18.8%)	16 (100.0%)	16.0±1.9
その他	4	(80.0%)	1	(20.0%)	0	(0.0%)	5 (100.0%)	20.0
計	229	(80.6%)	12	(4.2%)	43	(15.1%)	284 (100.0%)	16.1±3.4

表17-1 主たる使用薬物別にみた飲酒歴

(主たる使用薬物)	飲酒歴あり		飲酒歴なし		不明・記載なし		計	使用開始年齢
	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
覚せい剤	110	(74.3%)	18	(12.2%)	20	(13.5%)	148 (100.0%)	17.3±3.1
有機溶剤	27	(67.5%)	9	(22.5%)	4	(10.0%)	40 (100.0%)	16.1±2.8
大麻	7	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	7 (100.0%)	17.2±2.3
睡眠薬	14	(58.3%)	7	(29.2%)	3	(12.5%)	24 (100.0%)	26.0±13.3
抗不安薬	8	(61.5%)	3	(23.1%)	2	(15.4%)	13 (100.0%)	17.6±4.4
鎮痛薬	5	(83.3%)	0	(0.0%)	1	(16.7%)	6 (100.0%)	19.0±1.4
鎮咳薬	6	(75.0%)	1	(12.5%)	1	(12.5%)	8 (100.0%)	16.0±1.7
リタリン	1	(50.0%)	1	(50.0%)	0	(0.0%)	2 (100.0%)	12.0
多剤(規制薬物)	9	(60.0%)	2	(13.3%)	4	(26.7%)	15 (100.0%)	15.3±2.7
多剤(医薬品)	14	(87.5%)	0	(0.0%)	2	(12.5%)	16 (100.0%)	17.8±4.1
その他	5	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	5 (100.0%)	17.7±2.1
計	206	(72.5%)	41	(14.4%)	37	(13.0%)	284 (100.0%)	17.8±5.3

表17-2 アルコール問題の既往と程度(薬物別)

	アルコール問題の既往		アルコール問題の程度(「問題あり」における頻度)					症例数
	なし	あり	問題飲酒レベル(過去)	問題飲酒レベル(現在)	依存レベル(過去)	依存レベル(現在)	不明	
覚せい剤	83 (56.1%)	32 (21.6%)	16 (50.0%)	5 (15.6%)	7 (21.9%)	9 (28.1%)	5 (15.6%)	148
有機溶剤	27 (67.5%)	4 (10.0%)	3 (75.0%)					40
大麻	7 (100.0%)	0 (0.0%)						7
睡眠薬	17 (70.8%)	5 (20.8%)		1 (20.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)		24
抗不安薬	4 (30.8%)	7 (53.8%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	13
鎮痛薬	5 (83.3%)	1 (16.7%)				1 (100.0%)		6
鎮咳薬	5 (62.5%)	2 (25.0%)	1 (50.0%)		2 (100.0%)			8
リタリン	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (100.0%)		1 (100.0%)			2
多剤(規制薬物)	5 (33.3%)	5 (33.3%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	15
多剤(医薬品)	5 (31.3%)	9 (56.3%)	5 (55.6%)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	2 (22.2%)	16
その他	3 (60.0%)	2 (40.0%)	1 (50.0%)		1 (50.0%)			5
計	162 (57.0%)	68 (23.9%)	31 (45.6%)	9 (13.2%)	18 (26.5%)	18 (26.5%)	9 (13.2%)	284

表 17-3 アルコール問題の既往と程度 (性別)

	アルコール問題の既往		アルコール問題の程度 (「問題あり」における頻度)						症例数
	なし	あり	問題飲酒レベル(過去)	問題飲酒レベル(現在)	依存レベル(過去)	依存レベル(現在)	不明		
男性	112 (57.7%)	44 (22.7%)	21 (47.7%)	5 (11.4%)	13 (29.5%)	11 (25.0%)	8 (18.2%)	194	
女性	50 (55.6%)	24 (26.7%)	10 (41.7%)	4 (16.7%)	5 (20.8%)	7 (29.2%)	1 (4.2%)	90	
計	162 (57.0%)	68 (23.9%)	31 (45.6%)	9 (13.2%)	18 (26.5%)	18 (26.5%)	9 (13.2%)	284	

表 18 乱用開始から「依存」に至る期間 (月)

薬物	n	平均	標準偏差	最小値	最大値
覚せい剤	71	28.5	39.5	1	216
有機溶剤	46	26.9	52.8	0.25	324
大麻	11	7.5	6.5	0	20
コカイン	1	1.0	.	1	1
ヘロイン	3	5.3	5.9	1	12
MDMA	7	5.0	8.4	0.25	24
LSD	3	12.3	11.5	1	24
睡眠薬	21	14.8	25.8	1	120
抗不安薬	12	22.6	29.2	1	96
鎮痛薬	7	11.0	11.8	1	36
鎮咳薬	13	10.0	14.8	1	48
リタリン	7	23.0	43.1	1	120

表 19 初回使用薬物

	n	%
有機溶剤	117	(41.2%)
覚せい剤	82	(28.9%)
睡眠薬	30	(10.6%)
大麻	23	(8.1%)
抗不安薬	17	(6.0%)
鎮咳薬	9	(3.2%)
リタリン	1	(0.4%)
その他	3	(1.1%)
鎮痛薬	6	(2.1%)
コカイン	3	(1.1%)
ヘロイン	1	(0.4%)
LSD	1	(0.4%)
マジック・マッシュルーム	2	(0.7%)
MDMA (エクスタシー)	2	(0.7%)
不明・記載なし	14	(4.9%)
症例総数	284	(100.0%)

(複数回答)

表 20-1 薬物初回使用の動機（複数回答）

	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
誘われて	50 (49.0%)	25 (54.3%)	15 (46.9%)	3 (37.5%)	0	1 (16.7%)	3 (33.3%)	0	0	0
刺激を求めて	27 (26.5%)	8 (17.4%)	8 (25.0%)	2 (25.0%)	0	0	1 (11.1%)	0	0	0
好奇心・興味から	62 (60.8%)	14 (30.4%)	17 (53.1%)	5 (62.5%)	1 (5.6%)	0	3 (33.3%)	0	0	0
断り切れずに	12 (11.8%)	8 (17.4%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0	0	0	0	0	0
自暴自棄になって	1 (1.0%)	1 (2.2%)	1 (3.1%)	0	0	0	2 (22.2%)	0	0	0
覚醒効果を求めて	3 (2.9%)	0	1 (3.1%)	0	0	0	0	0	0	0
疲労の除去	2 (2.0%)	1 (2.2%)	0	0	3 (16.7%)	0	0	0	0	0
性的効果を求めて	2 (2.0%)	1 (2.2%)	0	0	0	0	0	0	0	0
ストレス解消	5 (4.9%)	2 (4.3%)	5 (15.6%)	4 (50.0%)	2 (11.1%)	0	0	0	0	0
抑うつ気分の軽減	3 (2.9%)	3 (6.5%)	2 (6.3%)	0	2 (11.1%)	1 (16.7%)	0	1 (25.0%)	0	0
不安の軽減	0	1 (2.2%)	2 (6.3%)	0	3 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (33.3%)	4 (100.0%)	0	1 (20.0%)
不眠の軽減	0	1 (2.2%)	1 (3.1%)	0	13 (72.2%)	3 (50.0%)	1 (11.1%)	1 (25.0%)	0	2 (40.0%)
疼痛の軽減	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (100.0%)	2 (40.0%)
咳嗽の軽減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
やせるため	0	0	1 (3.1%)	0	0	0	0	0	0	0
その他	1 (1.0%)	1 (2.2%)	0	0	3 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (11.1%)	0	0	0
症例数	102 (100.0%)	46 (100.0%)	32 (100.0%)	8 (100.0%)	18 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	4 (100.0%)	1 (100.0%)	5 (100.0%)

表 20-2 薬物初回使用の動機（複数回答）

	主たる使用薬物									
	鎮咳薬		大麻		リタリン		多剤 (医薬品)		多剤 (規制薬物)	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
誘われて	2 (40.0%)	0	3 (50.0%)	0	0	0	2 (25.0%)	3 (37.5%)	4 (44.4%)	2 (33.3%)
刺激を求めて	0	1 (33.3%)	2 (33.3%)	0	0	0	1 (12.5%)	0	2 (22.2%)	1 (16.7%)
好奇心・興味から	3 (60.0%)	0	2 (33.3%)	1 (100.0%)	0	0	6 (75.0%)	4 (50.0%)	6 (66.7%)	4 (66.7%)
断り切れずに	0	0	1 (16.7%)	0	0	0	0	1 (12.5%)	0	2 (33.3%)
自暴自棄になって	0	0	0	0	0	0	0	1 (12.5%)	0	0
覚醒効果を求めて	2 (40.0%)	0	1 (16.7%)	0	0	0	0	0	0	0
疲労の除去	1 (20.0%)	0	1 (16.7%)	0	0	0	0	0	0	0
性的効果を求めて	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (11.1%)	0
ストレス解消	1 (20.0%)	0	0	0	0	0	0	2 (25.0%)	1 (11.1%)	1 (16.7%)
抑うつ気分の軽減	0	0	0	0	1 (100.0%)	0	3 (37.5%)	0	0	0
不安の軽減	0	0	0	0	0	0	4 (50.0%)	2 (25.0%)	0	1 (16.7%)
不眠の軽減	0	0	0	0	0	0	2 (25.0%)	1 (12.5%)	0	1 (16.7%)
疼痛の軽減	0	0	0	0	0	0	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0	0
咳嗽の軽減	1 (20.0%)	1 (33.3%)	0	0	0	0	0	1 (12.5%)	0	0
やせるため	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (11.1%)	1 (16.7%)
症例数	5 (100.0%)	3 (100.0%)	6 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	8 (100.0%)	8 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)

表 2 1 - 1 薬物初回使用の契機となった人物（複数回答）

	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
なし（自発的使用）	10 (9.8%)	3 (6.5%)	7 (21.9%)	4 (50.0%)	6 (33.3%)	1 (16.7%)	2 (22.2%)	0	0	0
配偶者	0	7 (15.2%)	1 (3.1%)	0	0	0	0	0	0	0
同棲相手	0	3 (6.5%)	0	0	0	0	0	0	0	0
恋人・愛人	2 (2.0%)	4 (8.7%)	0	1 (12.5%)	0	1 (16.7%)	1 (11.1%)	0	0	0
同性の友人	47 (46.1%)	7 (15.2%)	16 (50.0%)	0	0	0	2 (22.2%)	0	0	0
異性の友人	5 (4.9%)	8 (17.4%)	0	0	0	1 (16.7%)	0	0	0	0
知人	14 (13.7%)	3 (6.5%)	1 (3.1%)	1 (12.5%)	1 (5.6%)	0	1 (11.1%)	0	0	0
医師	0	1 (2.2%)	0	0	9 (50.0%)	0	2 (22.2%)	3 (75.0%)	1 (100.0%)	3 (60.0%)
薬剤師	0	0	0	0	1 (5.6%)	0	0	0	0	1 (20.0%)
親	0	0	0	0	0	1 (16.7%)	0	0	0	0
同胞	1 (1.0%)	1 (2.2%)	1 (3.1%)	0	0	0	0	0	0	0
密売人	5 (4.9%)	1 (2.2%)	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2 (2.0%)	2 (4.3%)	1 (3.1%)	1 (12.5%)	1 (5.6%)	0	0	0	0	0
症例数	102 (100.0%)	46 (100.0%)	32 (100.0%)	8 (100.0%)	18 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	4 (100.0%)	1 (100.0%)	5 (100.0%)

表 2 1 - 2 薬物初回使用の契機となった人物（複数回答）

	主たる使用薬物									
	鎮咳薬		大麻		リタリン		多剤 (医薬品)		多剤 (規制薬物)	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
なし（自発的使用）	1 (20.0%)	0	2 (33.3%)	0	0	1 (100.0%)	0	1 (12.5%)	1 (11.1%)	0
配偶者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同棲相手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恋人・愛人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同性の友人	2 (40.0%)	0	3 (50.0%)	1 (100.0%)	0	0	5 (62.5%)	3 (37.5%)	5 (55.6%)	2 (33.3%)
異性の友人	0	0	0	0	0	0	0	1 (12.5%)	0	3 (50.0%)
知人	2 (40.0%)	0	2 (33.3%)	0	0	0	0	1 (12.5%)	1 (11.1%)	1 (16.7%)
医師	0	0	0	0	1 (100.0%)	0	2 (25.0%)	2 (25.0%)	0	1 (16.7%)
薬剤師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同胞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
密売人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1 (20.0%)	0	0	0	0	0	1 (12.5%)	0	0	1 (16.7%)
症例数	5 (100.0%)	3 (100.0%)	6 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	8 (100.0%)	8 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)

表 2 1 - 3 メディアが薬物使用開始のきっかけになっているか

	なっている		その内訳 (複数選択)				なっていない		不明・無回答	症例数	
			インターネット	TV	書籍・雑誌	新聞報道					
覚せい剤	3	(2.0%)	3				120	(81.1%)	26	(17.6%)	148
有機溶剤	2	(5.0%)	1	2	1		32	(80.0%)	6	(15.0%)	40
大麻	0	(0.0%)					6	(85.7%)	1	(14.3%)	7
睡眠薬	2	(8.3%)		1		1	18	(75.0%)	4	(16.7%)	24
抗不安薬	1	(7.7%)	1	1	1	1	11	(84.6%)	0	(0.0%)	13
鎮痛薬	0	(0.0%)					5	(83.3%)	1	(16.7%)	6
鎮咳薬	1	(12.5%)	1				5	(62.5%)	2	(25.0%)	8
リタリン	1	(50.0%)	1				1	(50.0%)	0	(0.0%)	2
多剤 (規制薬物)	1	(6.7%)					11	(73.3%)	3	(20.0%)	15
多剤 (医薬品)	1	(6.3%)					13	(81.3%)	2	(12.5%)	16
その他	0	(0.0%)					5	(100.0%)	0	(0.0%)	5
	12	(4.2%)	7	4	2	2	227	(79.9%)	45	(15.8%)	284

表 2 2 - 1 薬物の入手経路 (複数回答)

	主たる使用薬物									
	覚せい剤		有機溶剤		睡眠薬		抗不安薬		鎮痛薬	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
最近 1 年間は使用せず	62 (60.8%)	16 (34.8%)	14 (43.8%)	0	1 (5.6%)	1 (16.7%)	2 (22.2%)	0	0	0
友人	8 (7.8%)	3 (6.5%)	2 (6.3%)	1 (12.5%)	0	0	1 (11.1%)	0	0	0
知人	8 (7.8%)	3 (6.5%)	0	2 (25.0%)	0	0	0	0	0	0
恋人・愛人	0	6 (13.0%)	0	0	0	0	1 (11.1%)	0	0	0
家族	0	1 (2.2%)	0	0	0	0	0	0	0	0
密売人 (日本人)	13 (12.7%)	7 (15.2%)	2 (6.3%)	3 (37.5%)	1 (5.6%)	0	0	0	0	0
密売人 (外国人)	3 (2.9%)	1 (2.2%)	0	0	0	0	0	0	0	0
医師	0	0	0	0	11 (61.1%)	2 (33.3%)	3 (33.3%)	4 (100.0%)	1 (100.0%)	4 (80.0%)
薬局	0	0	0	0	3 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (11.1%)	0	1 (100.0%)	1 (20.0%)
インターネット	0	1 (2.2%)	0	0	1 (5.6%)	0	0	0	0	0
その他	1 (1.0%)	1 (2.2%)	9 (28.1%)	2 (25.0%)	2 (11.1%)	0	0	0	0	0
症例数	102 (100.0%)	46 (100.0%)	32 (100.0%)	8 (100.0%)	18 (100.0%)	6 (100.0%)	9 (100.0%)	4 (100.0%)	1 (100.0%)	5 (100.0%)

表 2 2-2 薬物の入手経路（複数回答）

	主たる使用薬物									
	鎮咳薬		大麻		リタリン		多剤 (医薬品)		多剤 (規制薬物)	
	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)	(男)	(女)
最近1年間は使用せず	1 (20.0%)	0	1 (16.7%)	0	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0	0	3 (33.3%)	2 (33.3%)
友人	0	0	2 (33.3%)	0	0	0	0	0	2 (22.2%)	0
知人	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (11.1%)	1 (16.7%)
恋人・愛人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
密売人（日本人）	0	0	1 (16.7%)	0	0	0	0	0	1 (11.1%)	0
密売人（外国人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医師	0	0	0	0	0	0	7 (87.5%)	6 (75.0%)	0	1 (16.7%)
薬局	4 (80.0%)	3 (100.0%)	0	0	0	0	2 (25.0%)	3 (37.5%)	1 (11.1%)	0
インターネット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1 (16.7%)	0	0	0	0	1 (12.5%)	0	1 (16.7%)
症例数	5 (100.0%)	3 (100.0%)	6 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	8 (100.0%)	8 (100.0%)	9 (100.0%)	6 (100.0%)

表 2 3-1 主たる使用薬物別にみたICD-10分類による主診断

	ICD-10分類									
	[F1x. 0]	[F1x. 1]	[F1x. 2]	[F1x. 4]	[F1x. 5]	[F1x. 5*]	[F1x. 6]	[F1x. 7]	[F1x. 8]	薬物別 症例数
	急性中 毒	有害な 使用	依存症 候群	せん妄 を伴う 離脱状 態	精神病 性障害 (症状持 続<6M)	精神病 性障害 (症状持 続 >6M) *	健忘症 候群	残遺性 障害お よび遅 発性精 神病性 障害	他の精 神およ び行動 の障害	
覚せい剤	2 (1.4%)	0 (0.0%)	24 (16.2%)	0 (0.0%)	15 (10.1%)	46 (31.1%)	0 (0.0%)	55 (37.2%)	2 (1.4%)	148 (100.0%)
有機溶剤	1 (2.5%)	1 (2.5%)	19 (47.5%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)	7 (17.5%)	0 (0.0%)	7 (17.5%)	2 (5.0%)	40 (100.0%)
睡眠薬	2 (8.3%)	0 (0.0%)	20 (83.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (100.0%)
抗不安薬	1 (7.7%)	2 (15.4%)	7 (53.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	13 (100.0%)
鎮痛薬	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (83.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)
鎮咳薬	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (87.5%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (100.0%)
大 麻	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
リタリン	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
その他	1 (20.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)
多剤（医薬品）	0 (0.0%)	3 (18.8%)	12 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)
多剤（規制薬物）	0 (0.0%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	5 (33.3%)	1 (6.7%)	15 (100.0%)
合 計	7 (2.5%)	11 (3.9%)	100 (35.2%)	0 (0.0%)	23 (8.1%)	57 (20.1%)	1 (0.4%)	71 (25.0%)	6 (2.1%)	284 (100.0%)

(注) 精神病性障害（症状持続>6M）* : ICD-10には含まれない項目

表23-2 主・副診断いずれかにおける依存症候群

	依存症候群に該当する症例 (%)		薬物別症例数
	例数	(%)	
覚せい剤	47	(31.8%)	148
有機溶剤	21	(52.5%)	40
大麻	4	(57.1%)	7
睡眠薬	21	(87.5%)	24
抗不安薬	10	(76.9%)	13
鎮痛薬	5	(83.3%)	6
鎮咳薬	7	(87.5%)	8
リタリン	1	(50.0%)	2
多剤(規制薬物)	4	(26.7%)	15
多剤(医薬品)	12	(75.0%)	16
その他	3	(60.0%)	5
合計	135	(47.5%)	284

表24 性別にみたICD-10による主診断

	男性		女性		計	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)
【F1x.0】急性中毒	7	(3.6%)	0	(0.0%)	7	(2.5%)
【F1x.1】有害な使用	7	(3.6%)	4	(4.4%)	11	(3.9%)
【F1x.2】依存症候群	55	(28.5%)	45	(50.0%)	100	(35.3%)
【F1x.4】せん妄離脱状態	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
【F1x.5】精神病性障害 (<6M)	12	(6.2%)	11	(12.2%)	23	(8.1%)
【F1x.5*】精神病性障害 (>6M)	48	(24.9%)	9	(10.0%)	57	(20.1%)
【F1x.6】健忘症候群	1	(0.5%)	0	(0.0%)	1	(0.4%)
【F1x.7】残遺・遅発性障害	55	(28.5%)	18	(20.0%)	73	(25.8%)
【F1x.8】その他	4	(2.1%)	2	(2.2%)	6	(2.1%)
(不明・記載なし)	4	(2.1%)	1	(1.1%)	5	(1.8%)
計	193	(100.0%)	90	(100.0%)	283	(100.0%)

表25 精神病エピソードの既往と精神科治療開始年齢

主たる使用薬物	精神病エピソードの既往						精神科治療開始年齢	薬物別症例数	
	既往あり		既往なし		不明・記載なし				
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)			
覚せい剤	108	(73.0%)	26.4±8.8	20	(13.5%)	20	(13.5%)	30.1±10.0	148
有機溶剤	25	(62.5%)	22.7±6.2	12	(30.0%)	3	(7.5%)	23.2±8.0	40
大麻	3	(42.9%)	27.3±3.8	4	(57.1%)	0	(0.0%)	24.8±4.4	7
睡眠薬	6	(25.0%)	33.6±18.6	13	(54.2%)	5	(20.8%)	42.1±15.6	24
抗不安薬	5	(38.5%)	29.0±9.1	7	(53.8%)	1	(7.7%)	27.0±7.8	13
鎮痛薬	3	(50.0%)	27.5±16.3	1	(16.7%)	2	(33.3%)	30.0±14.4	6
鎮咳薬	4	(50.0%)	27.3±6.7	3	(37.5%)	1	(12.5%)	26.5±7.6	8
リタリン	1	(50.0%)	41.0	1	(50.0%)	0	(0.0%)	30.0±14.1	2
多剤(規制薬物)	8	(53.3%)	22.9±12.9	2	(13.3%)	5	(33.3%)	24.4±7.8	15
多剤(医薬品)	7	(43.8%)	29.4±6.9	7	(43.8%)	2	(12.5%)	29.1±9.1	16
その他	2	(40.0%)	28.0±7.1	3	(60.0%)	0	(0.0%)	31.0±7.8	5
合計	172	(60.6%)	26.3±9.1	73	(25.7%)	39	(13.7%)	29.3±10.9	284

表 2 6 精神疾患の家族歴

	家族歴なし		家族歴あり		不明・記載なし		薬物別症例数
覚せい剤	99	(66.9%)	21	(14.2%)	28	(18.9%)	148
有機溶剤	28	(70.0%)	8	(20.0%)	4	(10.0%)	40
大麻	4	(57.1%)	3	(42.9%)	0	(0.0%)	7
睡眠薬	15	(62.5%)	4	(16.7%)	5	(20.8%)	24
抗不安薬	10	(76.9%)	1	(7.7%)	2	(15.4%)	13
鎮痛薬	4	(66.7%)	1	(16.7%)	1	(16.7%)	6
鎮咳薬	4	(50.0%)	2	(25.0%)	2	(25.0%)	8
リタリン	1	(50.0%)	0	(0.0%)	1	(50.0%)	2
多剤（規制薬物）	8	(53.3%)	3	(20.0%)	4	(26.7%)	15
多剤（医薬品）	11	(68.8%)	4	(25.0%)	1	(6.3%)	16
その他	5	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	5
計	189	(66.5%)	47	(16.5%)	48	(16.9%)	284

表 2 7 - 1 自傷行為または自殺企図の有無（薬物別）

	あり	なし	不明・記載なし	薬物別計
覚せい剤	44 (29.7%)	85 (57.4%)	19 (12.8%)	148 (100.0%)
有機溶剤	9 (22.5%)	24 (60.0%)	7 (17.5%)	40 (100.0%)
大麻	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
睡眠薬	7 (29.2%)	16 (66.7%)	1 (4.2%)	24 (100.0%)
抗不安薬	6 (46.2%)	6 (46.2%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)
鎮痛薬	3 (50.0%)	3 (50.0%)	0 (0.0%)	6 (100.0%)
鎮咳薬	3 (37.5%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
リタリン	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
多剤（規制薬物）	6 (40.0%)	9 (60.0%)	0 (0.0%)	15 (100.0%)
多剤（医薬品）	10 (62.5%)	5 (31.3%)	1 (6.3%)	16 (100.0%)
その他	3 (60.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)
計	95 (33.5%)	159 (56.0%)	30 (10.6%)	284 (100.0%)

表 2 7 - 2 自傷行為または自殺企図の有無（性別）

	あり	なし	不明・記載なし	性別計
男性	47 (24.2%)	128 (66.0%)	19 (9.8%)	194 (100.0%)
女性	48 (53.3%)	31 (34.4%)	11 (12.2%)	90 (100.0%)
計	95 (33.5%)	159 (56.0%)	30 (10.6%)	284 (100.0%)

表 2 8 - 1 成育史上の問題の有無（薬物別）

	成育史上何らかの問題が報告された症例 (%薬物別症例)	成育史上の問題の内容				
		「15歳以前」の親との離別	不登校	いじめられ体験	家庭内暴力	被虐待体験
覚せい剤	68 (46.9%)	36 (52.9%)	17 (25.0%)	16 (23.5%)	19 (27.9%)	11 (16.2%)
有機溶剤	17 (44.7%)	5 (29.4%)	10 (58.8%)	4 (23.5%)	5 (29.4%)	7 (41.2%)
大麻	2 (33.3%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
睡眠薬	7 (29.2%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)
抗不安薬	5 (41.7%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)
鎮痛薬	3 (50.0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鎮咳薬	3 (37.5%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)
リタリン	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
多剤（規制薬物）	10 (71.4%)	6 (60.0%)	5 (50.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)	3 (30.0%)
多剤（医薬品）	7 (43.8%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)
その他	3 (60.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
計	127 (46.0%)	56 (44.1%)	40 (31.5%)	28 (22.0%)	32 (25.2%)	28 (22.0%)

表28-2 成育史上の問題の有無（薬物別）

	成育史上何らかの問題が報告された症例 (%薬物別症例)		成育史上の問題の内容				
			「15歳以前」の親との離別	不登校	いじめられ体験	家庭内暴力	被虐待体験
男性	78	(40.2%)	29 (37.2%)	24 (30.8%)	14 (17.9%)	27 (34.6%)	14 (17.9%)
女性	49	(54.4%)	27 (55.1%)	16 (32.7%)	14 (28.6%)	5 (10.2%)	14 (28.6%)
計	127	(44.7%)	56 (44.1%)	40 (31.5%)	28 (22.0%)	32 (25.2%)	28 (22.0%)

表29-1 受診に至る経路（薬物別）

主たる使用薬物 (報告症例数)	覚せい剤						有機溶剤	大麻	多剤(規制薬物)	睡眠薬	抗不安薬
	184	40	7	15	24	13					
自発的受診	48 (26.1%)	5 (12.5%)	1 (14.3%)	7 (46.7%)	9 (37.5%)	3 (23.1%)					
周囲のすすめ	49 (26.6%)	26 (65.0%)	3 (42.9%)	3 (20.0%)	8 (33.3%)	4 (30.8%)					
家族	37 (75.5%)	23 (88.5%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)	8 (100.0%)	2 (50.0%)					
友人・知人	3 (6.1%)	3 (11.5%)		1 (33.3%)							
職場関係者	1 (2.0%)					1 (25.0%)					
医療機関	20 (10.9%)	4 (10.0%)	4 (57.1%)	1 (6.7%)	5 (20.8%)	6 (46.2%)					
精神科クリニック	3 (15.0%)					2 (33.3%)					
精神科病院	11 (55.0%)	2 (50.0%)	3 (75.0%)	1 (100.0%)	1 (20.0%)	1 (16.7%)					
一般医療機関	6 (30.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)		3 (60.0%)	3 (50.0%)					
保健福祉・行政機関	18 (9.8%)	3 (7.5%)	1 (14.3%)	3 (20.0%)							
精神保健福祉センター	1 (5.6%)										
保健所	5 (27.8%)			1 (33.3%)							
福祉事務所	6 (33.3%)	1 (33.3%)									
一般救急搬送				1 (33.3%)							
精神科救急システム	3 (16.7%)	2 (66.7%)		1 (33.3%)							
鑑定	1 (5.6%)		1 (100.0%)								
刑事司法機関	22 (12.0%)	2 (5.0%)	1 (14.3%)	3 (20.0%)	1 (4.2%)						
警察	13 (59.1%)	1 (50.0%)	1 (100.0%)	2 (66.7%)	1 (100.0%)						
保護観察所	1 (4.5%)										
裁判所	5 (22.7%)	1 (50.0%)		1 (33.3%)							
保護司	3 (13.6%)										
民間リハビリ施設・自助グループ	5 (2.7%)	3 (7.5%)									
ダルク	4 (80.0%)	3 (100.0%)									

表29-2 受診に至る経路（薬物別）

主たる使用薬物 (報告症例数)	鎮痛薬		鎮咳薬	リタリン	多剤(医薬品)	その他
	6	8	2	16	5	
自発的受診	2 (33.3%)	2 (25.0%)	2 (100.0%)	5 (31.3%)	2 (40.0%)	
周囲のすすめ		5 (62.5%)		7 (43.8%)	2 (40.0%)	
家族		4 (80.0%)		4 (57.1%)	2 (100.0%)	
友人・知人				1 (14.3%)		
職場関係者						
医療機関	5 (83.3%)	2 (25.0%)		4 (25.0%)	1 (20.0%)	
精神科クリニック	1 (20.0%)			1 (25.0%)	1 (100.0%)	
精神科病院	1 (20.0%)	2 (100.0%)		2 (50.0%)		
一般医療機関	3 (60.0%)					
保健福祉・行政機関		1 (12.5%)				
精神保健福祉センター						
保健所						
福祉事務所		1 (100.0%)				
一般救急搬送						
精神科救急システム						
鑑定						
刑事司法機関				1 (6.3%)		
警察				1 (100.0%)		
保護観察所						
裁判所						
保護司						
民間リハビリ施設・自助グループ	1 (16.7%)			1 (6.3%)		
ダルク	1 (100.0%)			1 (100.0%)		

表 29-3 受診に至る経路 (性別)

	男性	(%)	女性	(%)	計	(%)
自発的受診	52	(26.8%)	34	(37.8%)	86	(30.3%)
周囲のすすめ	87	(44.8%)	20	(22.2%)	107	(37.7%)
家族	70	(80.5%)	15	(75.0%)	85	(79.4%)
友人・知人	6	(6.9%)	2	(10.0%)	8	(7.5%)
職場関係者	2	(2.3%)	0		2	(1.9%)
学校	0		1	(5.0%)	1	(0.9%)
その他	6	(6.9%)	2	(10.0%)	8	(7.5%)
医療機関	31	(16.0%)	20	(22.2%)	51	(18.0%)
精神科クリニック	3	(9.7%)	5	(25.0%)	8	(15.7%)
精神科病院	15	(48.4%)	9	(45.0%)	24	(47.1%)
一般医療機関	12	(38.7%)	6	(30.0%)	18	(35.3%)
その他：総合病院精神科	2	(6.5%)			2	(3.9%)
保健福祉・行政機関	20	(10.3%)	6	(6.7%)	26	(9.2%)
精神保健福祉センター	1	(5.0%)	0		1	(3.8%)
保健所	4	(20.0%)	2	(33.3%)	6	(23.1%)
福祉事務所	5	(25.0%)	3	(50.0%)	8	(30.8%)
一般救急搬送	1	(5.0%)	0		1	(3.8%)
精神科救急システム	5	(25.0%)	1	(16.7%)	6	(23.1%)
鑑定	1	(5.0%)	1	(16.7%)	2	(7.7%)
その他	5	(25.0%)	1	(16.7%)	6	(23.1%)
刑事司法機関	17	(8.8%)	13	(14.4%)	30	(10.6%)
警察	9	(52.9%)	10	(76.9%)	19	(63.3%)
保護観察所	0		1	(7.7%)	1	(3.3%)
裁判所	6	(35.3%)	1	(7.7%)	7	(23.3%)
保護司	2	(11.8%)	1	(7.7%)	3	(10.0%)
民間リハビリ施設・自助グループ	9	(4.6%)	1	(1.1%)	10	(3.5%)
ダルク	8	(88.9%)	1	(100.0%)	9	(90.0%)
性別症例数	194	(100.0%)	90	(100.0%)	284	(100.0%)

表 30-1 治療プログラムの利用状況 (主たる薬物別)

	主たる使用薬物				
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	睡眠薬	抗不安薬
何らかのプログラムを利用したことがある	59 (39.9%)	19 (47.5%)	1 (14.3%)	10 (41.7%)	5 (38.5%)
薬物依存症用のプログラム	31 (52.5%)	10 (52.6%)	1 (100.0%)	6 (60.0%)	2 (40.0%)
アルコール依存症用のプログラム	5 (8.5%)	0	0	1 (10.0%)	0
上記の両方	16 (27.1%)	5 (26.3%)	0	1 (10.0%)	2 (40.0%)
プログラムの実施場所					
精神科医療機関	50 (84.7%)	16 (84.2%)	1 (100.0%)	8 (80.0%)	5 (100.0%)
精神保健福祉センター					
保健所					
自助グループ	4 (6.8%)	1 (5.3%)		3 (30.0%)	2 (40.0%)
NA	1 (1.7%)			1 (10.0%)	1 (20.0%)
AA	2 (3.4%)	1 (5.3%)			
民間リハビリ施設	9 (15.3%)	3 (15.8%)		3 (30.0%)	
プログラムの内容					
教育プログラム	43 (72.9%)	11 (57.9%)		5 (50.0%)	3 (60.0%)
グループミーティング	33 (55.9%)	12 (63.2%)	1 (100.0%)	7 (70.0%)	4 (80.0%)
自助グループ・メッセージ	13 (22.0%)	5 (26.3%)	1 (100.0%)	5 (50.0%)	4 (80.0%)
認知行動療法	22 (37.3%)	7 (36.8%)		1 (10.0%)	
運動療法	5 (8.5%)	1 (5.3%)			
内観療法	23 (39.0%)	5 (26.3%)		1 (10.0%)	
生活技能訓練 (SST)	12 (20.3%)	6 (31.6%)			
家族のためのプログラム	2 (3.4%)	1 (5.3%)			1 (20.0%)

表30-2 治療プログラムの利用状況（主たる薬物別）

	主たる使用薬物				
	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	多剤（規制薬物）	多剤（医薬品）
何らかのプログラムを利用したことがある	4 (66.7%)	4 (50.0%)	2 (100.0%)	5 (33.3%)	10 (62.5%)
薬物依存症用のプログラム	1 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (100.0%)	3 (60.0%)	2 (20.0%)
アルコール依存症用のプログラム	0	1 (25.0%)	0	0	3 (30.0%)
上記の両方	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0	1 (20.0%)	3 (30.0%)
プログラムの実施場所					
精神科医療機関	4 (100.0%)	4 (100.0%)	2 (100.0%)	4 (80.0%)	9 (90.0%)
精神保健福祉センター				1 (20.0%)	
保健所				1 (20.0%)	
自助グループ	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)	2 (40.0%)	
NA	1 (25.0%)		1 (50.0%)		
AA					
民間リハビリ施設	1 (25.0%)	1 (25.0%)		2 (40.0%)	1 (10.0%)
プログラムの内容					
教育プログラム	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (50.0%)	3 (60.0%)	8 (80.0%)
グループミーティング	1 (25.0%)	3 (75.0%)	2 (100.0%)	4 (80.0%)	4 (40.0%)
自助グループ・メッセージ	1 (25.0%)	3 (75.0%)	1 (50.0%)	4 (80.0%)	4 (40.0%)
認知行動療法	1 (25.0%)			2 (40.0%)	2 (20.0%)
運動療法		1 (25.0%)			
内観療法	1 (25.0%)			1 (20.0%)	2 (20.0%)
生活技能訓練（SST）		1 (25.0%)			1 (10.0%)
家族のためのプログラム		1 (25.0%)			

表30-3 治療プログラムの利用状況（性別）

	男性（194例）	女性（90例）	計（284例）
何らかのプログラムを利用したことがある	83 (42.8%)	39 (43.3%)	122 (43.0%)
薬物依存症	39 (47.0%)	22 (56.4%)	61 (50.0%)
アルコール依存症	8 (9.6%)	3 (7.7%)	11 (9.0%)
上記の両方	25 (30.1%)	6 (15.4%)	31 (25.4%)
プログラムの実施場所			
精神科医療機関	71 (85.5%)	35 (89.7%)	106 (86.9%)
精神保健福祉センター	0 (0.0%)	1 (2.6%)	1 (0.8%)
保健所	0 (0.0%)	1 (2.6%)	1 (0.8%)
自助グループ	8 (9.6%)	7 (17.9%)	15 (12.3%)
NA	3 (3.6%)	2 (5.1%)	5 (4.1%)
AA	2 (2.4%)	1 (2.6%)	3 (2.5%)
民間リハビリ施設	18 (21.7%)	2 (5.1%)	20 (16.4%)
プログラムの内容			
教育プログラム	56 (67.5%)	25 (64.1%)	81 (66.4%)
グループミーティング	55 (66.3%)	17 (43.6%)	72 (59.0%)
自助グループ・メッセージ	22 (26.5%)	19 (48.7%)	41 (33.6%)
認知行動療法	29 (34.9%)	6 (15.4%)	35 (28.7%)
運動療法	5 (6.0%)	2 (5.1%)	7 (5.7%)
内観療法	29 (34.9%)	4 (10.3%)	33 (27.0%)
生活技能訓練（SST）	18 (21.7%)	2 (5.1%)	20 (16.4%)
家族のためのプログラム	3 (3.6%)	2 (5.1%)	5 (4.1%)

表3 1-1 治療および回復において問題と考えられる点

	主たる使用薬物				
	覚せい剤	有機溶剤	大麻	多剤 (規制薬物)	睡眠薬
断薬への動機付けが希薄なこと	40 (27.0%)	16 (40.0%)	2 (28.6%)	7 (46.7%)	14 (58.3%)
使用欲求・渴望のコントロールが困難	50 (33.8%)	22 (55.0%)	3 (42.9%)	5 (33.3%)	16 (66.7%)
遷延性・持続性の精神病性障害	72 (48.6%)	14 (35.0%)	1 (14.3%)	5 (33.3%)	1 (4.2%)
認知機能障害	28 (18.9%)	4 (10.0%)	3 (42.9%)	4 (26.7%)	4 (16.7%)
精神科併存症の存在	49 (33.1%)	8 (20.0%)	3 (42.9%)	5 (33.3%)	8 (33.3%)
気分障害	13 (8.8%)	1 (2.5%)		2 (13.3%)	5 (20.8%)
不安障害	11 (7.4%)	1 (2.5%)	1 (14.3%)	2 (13.3%)	4 (16.7%)
摂食障害	2 (1.4%)			1 (6.7%)	1 (4.2%)
パーソナリティ障害	13 (8.8%)	2 (5.0%)			1 (4.2%)
ソーシャルスキルの欠如	43 (29.1%)	16 (40.0%)	1 (14.3%)	4 (26.7%)	2 (8.3%)
家族の問題	22 (14.9%)	12 (30.0%)		2 (13.3%)	8 (33.3%)
薬物使用に関わる交友関係を断てないこと	23 (15.5%)	5 (12.5%)	1 (14.3%)	2 (13.3%)	3 (12.5%)
自助グループにつながらないこと	25 (16.9%)	10 (25.0%)	2 (28.6%)	2 (13.3%)	3 (12.5%)
地域に存在しない	6 (4.1%)	1 (2.5%)	1 (14.3%)	2 (13.3%)	1 (4.2%)
本人が拒否	16 (10.8%)	9 (22.5%)	1 (14.3%)		2 (8.3%)
住居など地域の受け皿がないこと	15 (10.1%)	3 (7.5%)		1 (6.7%)	1 (4.2%)
就労・経済的問題	36 (24.3%)	3 (7.5%)		5 (33.3%)	3 (12.5%)
刑事司法的問題	4 (2.7%)		1 (14.3%)		

表3 1-2 治療および回復において問題と考えられる点

	主たる使用薬物				
	抗不安薬	鎮痛薬	鎮咳薬	リタリン	多剤 (医薬品)
断薬への動機付けが希薄なこと	9 (69.2%)	4 (66.7%)	4 (50.0%)		8 (50.0%)
使用欲求・渴望のコントロールが困難	11 (84.6%)	5 (83.3%)	7 (87.5%)	2 (100.0%)	10 (62.5%)
遷延性・持続性の精神病性障害	2 (15.4%)		1 (12.5%)	1 (50.0%)	2 (12.5%)
認知機能障害		1 (16.7%)	1 (12.5%)		
精神科併存症の存在	6 (46.2%)	4 (66.7%)	3 (37.5%)	1 (50.0%)	11 (68.8%)
気分障害	3 (23.1%)	2 (33.3%)	1 (12.5%)	1 (50.0%)	4 (25.0%)
不安障害	1 (7.7%)	1 (16.7%)			3 (18.8%)
摂食障害			1 (12.5%)		
パーソナリティ障害	1 (7.7%)	1 (16.7%)			4 (25.0%)
ソーシャルスキルの欠如		1 (16.7%)			2 (12.5%)
家族の問題	1 (7.7%)	2 (33.3%)	1 (12.5%)	1 (50.0%)	2 (12.5%)
薬物使用に関わる交友関係を断てないこと					1 (6.3%)
自助グループにつながらないこと	2 (15.4%)			1 (50.0%)	
地域に存在しない			1 (12.5%)	1 (50.0%)	
本人が拒否	1 (7.7%)				
住居など地域の受け皿がないこと					1 (6.3%)
就労・経済的問題	2 (15.4%)	1 (16.7%)	2 (25.0%)		6 (37.5%)
刑事司法的問題					

表 3 1 - 3 治療・回復において問題となる点 (性別)

	男 (194例)		女 (90例)		計 (284例)	
断薬への動機付けが希薄なこと	66	(34.0%)	40	(44.4%)	106	(37.3%)
使用欲求・渴望のコントロールが困難	93	(47.9%)	42	(46.7%)	135	(47.5%)
遷延性・持続性の精神病性障害	83	(42.8%)	16	(17.8%)	99	(34.9%)
認知機能障害	33	(17.0%)	12	(13.3%)	45	(15.8%)
精神科併存症の存在	59	(30.4%)	41	(45.6%)	100	(35.2%)
気分障害	21	(10.8%)	11	(12.2%)	32	(11.3%)
不安障害	10	(5.2%)	14	(15.6%)	24	(8.5%)
摂食障害	0	(0.0%)	5	(5.6%)	5	(1.8%)
パーソナリティ障害	12	(6.2%)	11	(12.2%)	23	(8.1%)
併存症(その他)	17	(8.8%)	3	(3.3%)	20	(7.0%)
ソーシャルスキルの欠如	45	(23.2%)	24	(26.7%)	69	(24.3%)
家族の問題	29	(14.9%)	22	(24.4%)	51	(18.0%)
薬物使用に関わる交友関係を断てないこと	21	(10.8%)	15	(16.7%)	36	(12.7%)
自助グループにつながらないこと	37	(19.1%)	8	(8.9%)	45	(15.8%)
地域に存在しない	11	(5.7%)	2	(2.2%)	13	(4.6%)
本人が拒否	24	(12.4%)	5	(5.6%)	29	(10.2%)
住居など地域の受け皿なし	14	(7.2%)	7	(7.8%)	21	(7.4%)
就労・経済的問題	38	(19.6%)	21	(23.3%)	59	(20.8%)
刑事司法的問題	4	(2.1%)	1	(1.1%)	5	(1.8%)
その他	16	(8.2%)	3	(3.3%)	19	(6.7%)

図 1 主たる使用薬物別にみた症例(%)の推移

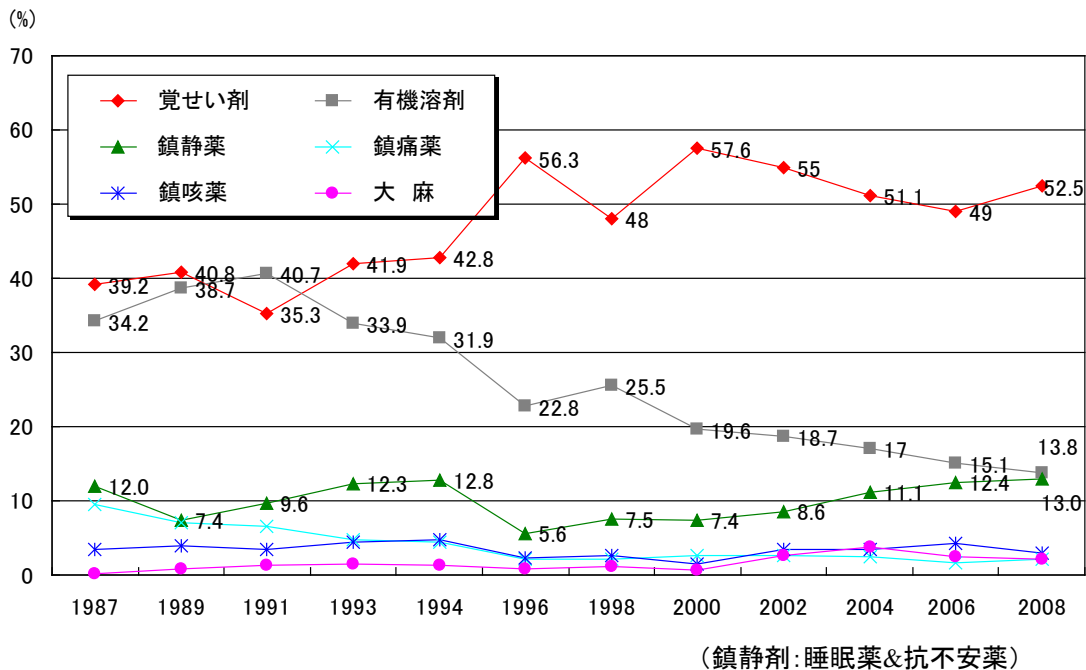


図2 使用歴のある薬物(%)の推移

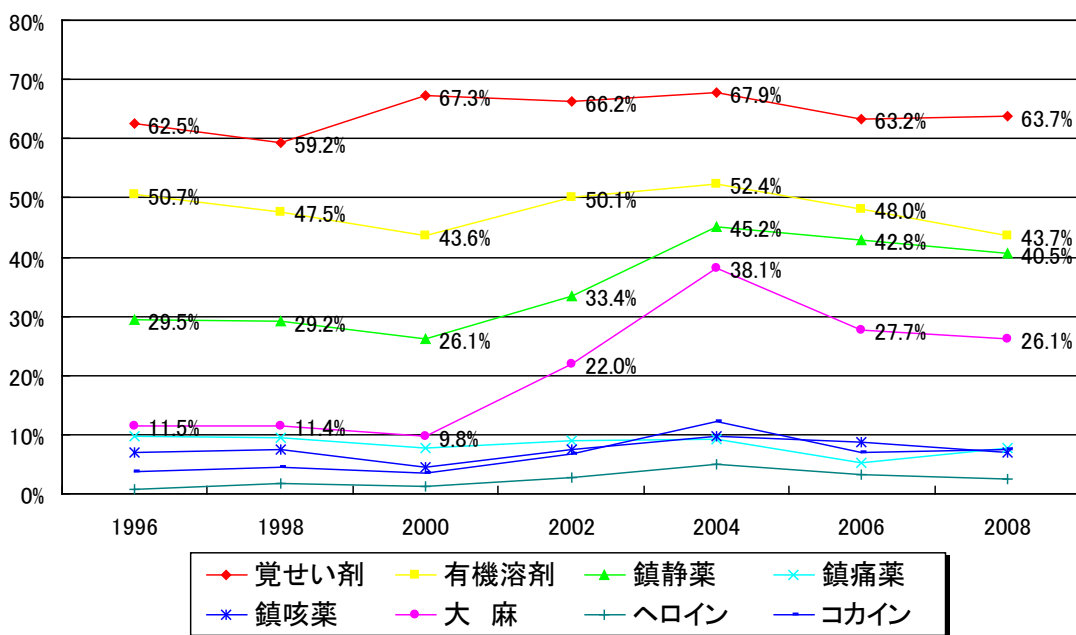


図3 初回使用薬物(%)の推移

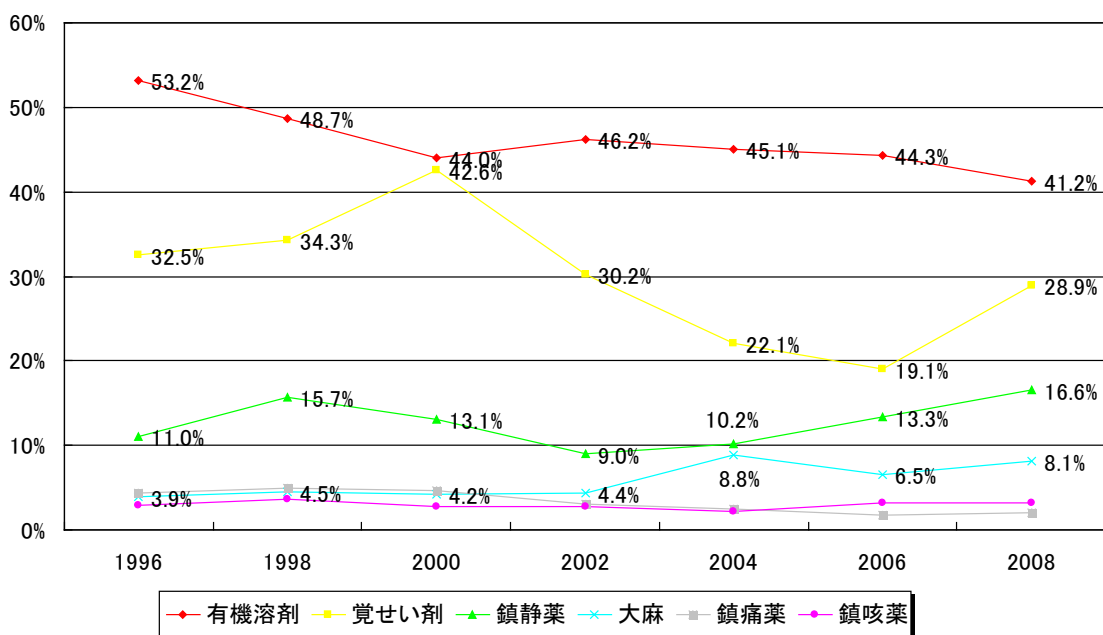
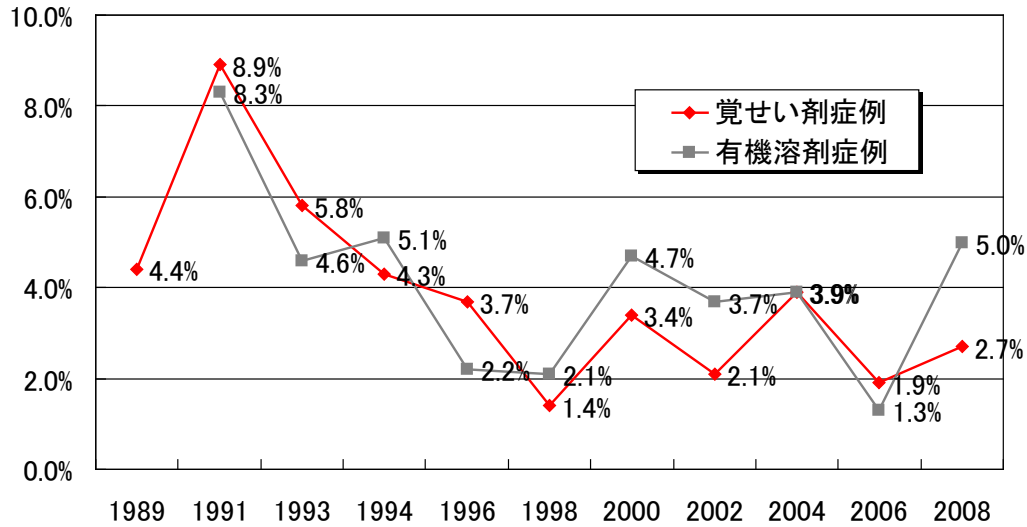
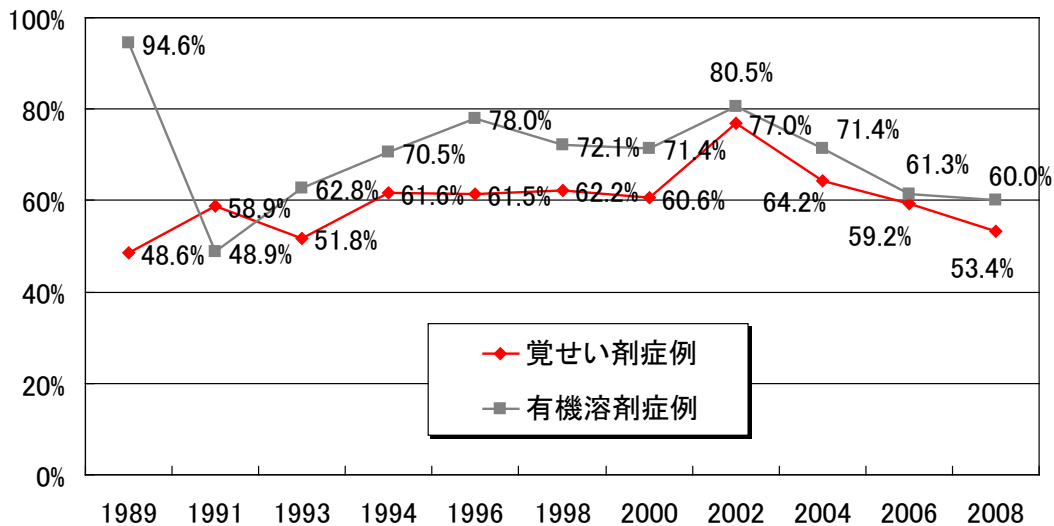


図4 初期乱用群(使用期間:1年未満)の推移
 — 覚せい剤, 有機溶剤症例 —



(使用期間=調査時年齢-初回使用年齢)

図5 長期乱用症群(使用開始後5年以上)の推移
 — 覚せい剤, 有機溶剤症例 —



(使用期間=調査時年齢-初回使用年齢)

図6 覚せい剤初回使用方法の推移(性差)

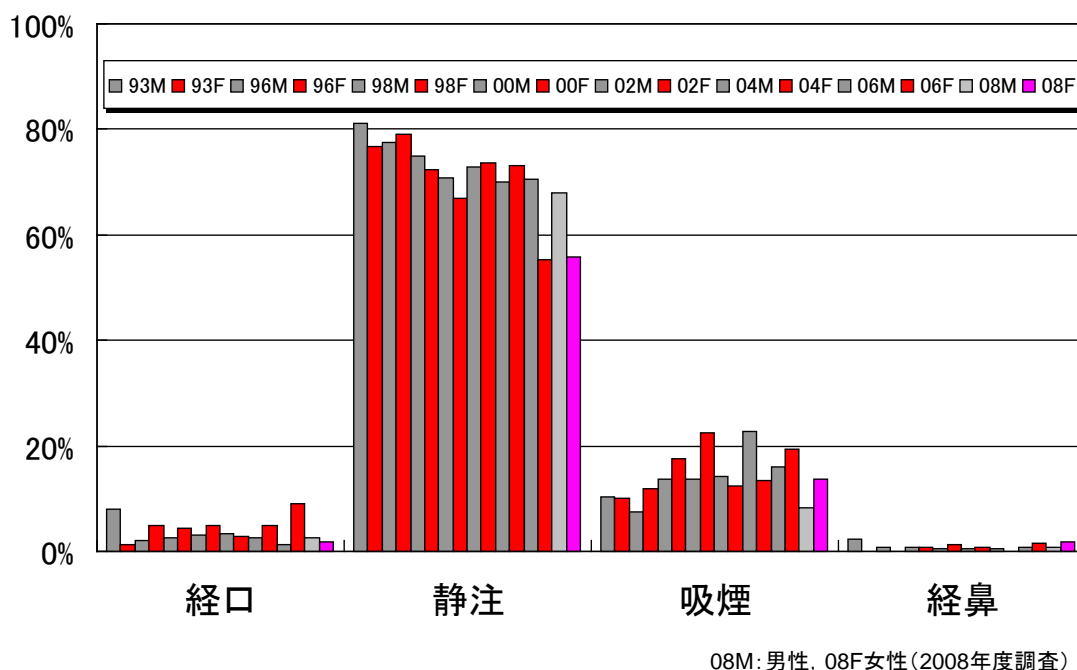


図7 大麻使用症例(%)の推移

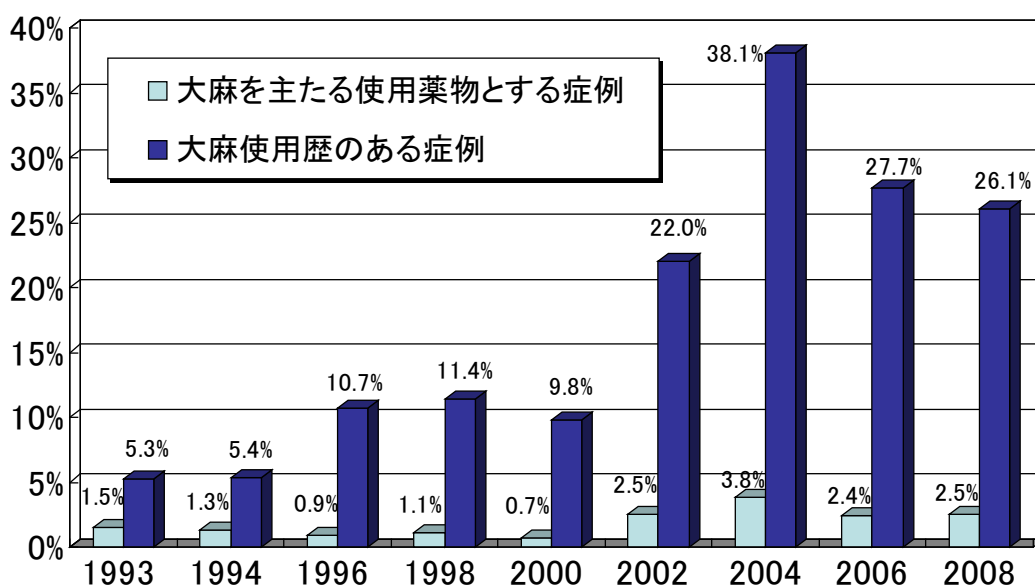


図8 リタリン使用症例(%)の推移

